佐久市埋蔵文化財調査報告書　第110集

佐久駅周辺土地区画整理事業
埋蔵文化財発掘調査報告書

－長野県佐久市長土呂・岩村田弥生時代集落の調査－

長土呂遺跡群　上村遺跡（KA MI MU RA）
上前田遺跡（KA MI MA E DA）
永存遺跡（E I ZO N）
下伯母塚遺跡（SHI MO O BA ZU KA）
枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（SU GU JI）
円正坊遺跡群　清水田遺跡Ⅱ（SHI MI ZU DA）
周防畑遺跡群　辻の前遺跡（TSU JI NO MA E）
中仲田遺跡（NA KA NA KA TA）

2003.3

佐久市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第110集

佐久駅周辺土地区画整理事業
埋蔵文化財発掘調査報告書

－長野県佐久市長土呂・岩村田弥生時代集落の調査－

長土呂遺跡群　KA MI MU RA 上村遺跡
KA MI MA E DA 上前田遺跡
E I ZO N 永存遺跡
SHI MO O BA ZU KA 下伯母塚遺跡
枇杷坂遺跡群　SU GU JI 直路遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
円正坊遺跡群　SHI MI ZU DA 清水田遺跡Ⅱ
周防畑遺跡群　TSU JI NO MA E 辻の前遺跡
NA KA NA KA TA 中仲田遺跡

2003．3

佐久市
佐久市教育委員会

調査区付近航空写真

調査区航空写真（区画整理施工前、平成７年５月撮影）

調査区航空写真（区画整理施工後、平成13年５月撮影）

調査区遠景

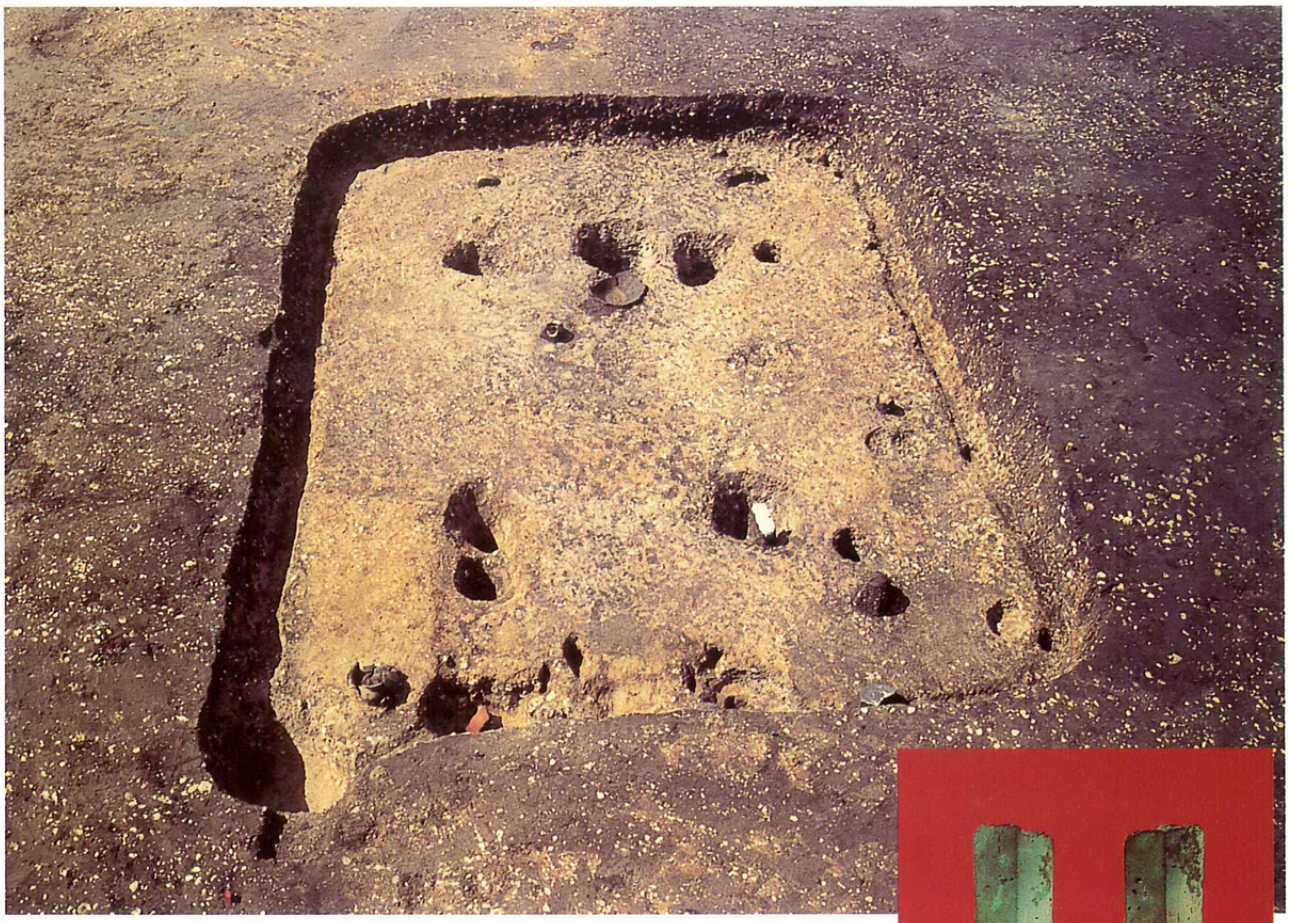
調査区付近航空写真

直路遺跡ＩＨ１号住居址出土土器

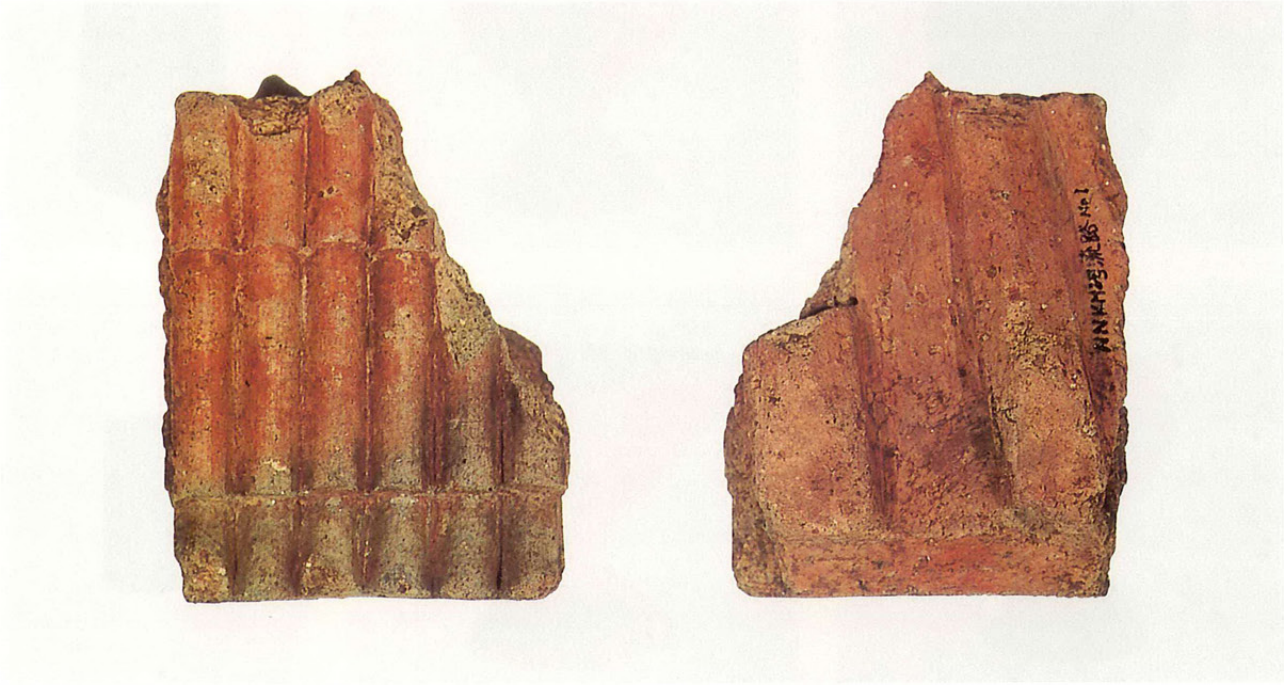
直路遺跡ＩＨ１号住居址出土土器

直路遺跡ＩＨ１号住居址出土土器

直路遺跡ＩＨ１号住居址出土遺物



下伯母塚遺跡Ｈ８号住居址・銅鏃



上村遺跡Ｍ３号溝址出土瓦塔片

例　　言

1　本書は、佐久市が行う佐久駅周辺土地区画整理事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　調査委託者　佐久市
3　調査受託者　佐久市教育委員会
4　遺跡名

長土呂遺跡群	上村遺跡・上前田遺跡・永存遺跡・下伯母塚遺跡
枇杷坂遺跡群	直路遺跡Ⅰ・直路遺跡Ⅱ・直路遺跡Ⅲ
円正坊遺跡群	清水田遺跡Ⅱ
周防畑遺跡群	辻の前遺跡・中仲田遺跡

5　調査期間及び面積

試掘調査	平成７年12月11日～12月26日
	平成８年６月19日～６月21日、11月20日
	平成９年５月６日～６月24日
	平成10年４月22日～12月14日
	平成11年８月31日～９月26日
発掘調査	平成７年10月27日～11月９日
	平成８年６月19日～７月19日
	平成９年６月10日～７月18日
	平成10年４月22日～８月５日、８月25日～12月15日
	平成11年５月６日～10月13日
整理調査	平成８年１月８日～１月18日
	平成８年７月18日～７月25日
	平成10年４月６日～８月25日
	平成11年７月26日～８月25日
	平成12年４月１日～５月25日、平成13年１月26日～３月25日
	平成13年４月２日～平成14年３月26日
	平成14年４月１日～平成15年３月28日
調査面積	600,470.91㎡

6　試掘調査は林　幸彦・須藤隆司・羽毛田卓也が担当した。
発掘調査は上村遺跡を冨沢一明が、上前田遺跡を須藤隆司が、直路遺跡Ⅰ・下伯母塚遺跡を上原　学が、直路遺跡Ⅱ・永存遺跡・清水田遺跡Ⅱを林　幸彦が、直路遺跡Ⅲを森泉かよ子が、辻の前遺跡・中仲田遺跡を羽毛田卓也がそれぞれ担当した。
整理調査は平成13年度まで各担当者が行い、平成14年度は三石宗一が担当した。
本書の執筆・編集は三石が行った。
7　本書に使用した航空写真は、直路遺跡Ⅱは株式会社ユーアール測量設計、清水田遺跡Ⅱは株式会社みすず綜合コンサルタント、中仲田遺跡は株式会社こうそくが撮影したものである。
8　すべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1　遺構の略記号は以下のとおりである。
　住居址－H、掘立柱建物址－F、竪穴状遺構－Ta、土坑－D、溝址－M、ピット－P

2　グリッドは調査範囲全体を網羅するように国家座標を組み、国家座標に沿って200m×200mのⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ……XXV地区とし、各々を25区分した40m×40mの区画をA・B・C……Y区とした。更に、それを100区分した4m×4mのグリッドを設定し、東西列を東からあ・い・う……こ、南北列を北から1・2・3……10とし、各グリッドの北東交点をグリッド名とした。また、遺構番号は各遺跡毎に通し番号としたため、調査時の番号とは異なる。

2　挿図の縮尺は遺構－1／80、遺物－1／4を基本としたが、異なる場合は図中に明記した。

3　遺構の海抜標高は、水糸標高を「標高」として記した。

4　土層の色調は、1999年版『新版　標準土色帖』に基づいて示した。

5　住居址の面積は掘り込み床面積であり、掘立柱建物址は四隅の柱穴の芯によって囲まれた範囲を表示した。

6　写真図版中の遺物番号は挿図番号と対応する。また、縮尺は実測図と同一である。

7　挿図中のスクリーントーンは以下のことを表す。

遺構

地　　山　　焼土範囲　　柱　　痕

住居址掘方

遺物

赤色塗彩　　黒色処理　　須恵器断面

目　　次

巻頭図版
例　　言
凡　　例

第Ⅰ章　調査の概要……1
　第1節　調査の経緯と経過……1
　第2節　調査体制……3
　第3節　調査日誌……5
　第4節　遺跡の位置と周辺遺跡……6
　第5節　試掘調査……10
　第6節　基本層序……11

第Ⅱ章　長土呂遺跡群上村遺跡……14
　第1節　土　坑……14
　第2節　溝　址……14
　第3節　ピット……17
　第4節　遺構外出土遺物……17

第Ⅲ章　長土呂遺跡群上前田遺跡……19
　第1節　土　坑……19
　第2節　溝　址……23
　第3節　ピット……24

第Ⅳ章　長土呂遺跡群永存遺跡……26
　第1節　土　坑……26
　第2節　溝　址……27
　第3節　遺構外出土遺物……27

第Ⅴ章　長土呂遺跡群下伯母塚遺跡……29
　第1節　竪穴住居址……29
　第2節　溝　址……45

第Ⅵ章　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ……49
　第1節　竪穴住居址……49
　第2節　竪穴状遺構……74
　第3節　掘立柱建物址……78
　第4節　周溝址……78
　第5節　土　坑……80
　第6節　溝址・ピット……85
　第7節　遺構外出土遺物……89

第Ⅶ章　円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ……92
　第1節　竪穴住居址……92
　第2節　溝址・ピット……108
　第3節　遺構外出土遺物……109

第Ⅷ章　周防畑遺跡群辻の前遺跡……112
第１節　竪穴住居址……112
第２節　竪穴状遺構……139
第３節　土　　坑……139
第４節　溝址・ピット……140
第５節　遺構外出土遺物……145

第Ⅸ章　周防畑遺跡群中仲田遺跡……148
第１節　竪穴住居址……148
第２節　掘立柱建物址……149
第３節　土　坑……149
第４節　溝址・ピット……153
第５節　遺構外出土遺物……155

第Ⅹ章　調査のまとめ……163

引用参考文献
図　　版

挿　図　目　次

第１図　位置図……1
第２図　周辺遺跡分布図（１）……7
第３図　周辺遺跡分布図（２）……9
第４図　調査区・トレンチ設定図……10
第５図　基本層序模式図……11
第６図　グリッド設定図……12
第７図　長土呂遺跡群上村遺跡全体図……13
第８図　Ｄ１号土坑……14
第９図　Ｍ１・２号溝址、ピット……15
第10図　Ｍ３号溝址、ピット……16
第11図　遺構外出土遺物……17
第12図　長土呂遺跡群上前田遺跡全体図……18
第13図　Ｄ１・５号土坑……19
第14図　土坑内出土遺物……19
第15図　Ｄ２～４・６～25号土坑……20
第16図　Ｍ１～３号溝址、ピット……22
第17図　Ｍ１～３号溝址出土遺物……23
第18図　長土呂遺跡群永存遺跡全体図……25
第19図　Ｄ１～５号土坑……26
第20図　Ｍ１号溝址……26
第21図　Ｍ２号溝址……27
第22図　遺構外出土遺物……27
第23図　長土呂遺跡群下伯母塚遺跡全体図……28
第24図　Ｈ１号住居址……29
第25図　Ｈ２号住居址（１）……30
第26図　Ｈ２号住居址（２）……31
第27図　Ｈ３号住居址（１）……32
第28図　Ｈ３号住居址（２）……33
第29図　Ｈ４号住居址……35
第30図　Ｈ５号住居址（１）……36
第31図　Ｈ５号住居址（２）……37
第32図　Ｈ５号住居址（３）……38
第33図　Ｈ６号住居址……39
第34図　Ｈ７号住居址……40
第35図　Ｈ８号住居址（１）……41
第36図　Ｈ８号住居址（２）……42
第37図　Ｈ９号住居址……44
第38図　Ｍ１・６・７号溝址……45
第39図　Ｍ２～５号溝址……46
第40図　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅰ全体図……47
第41図　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ・Ⅲ全体図……48
第42図　Ｈ１号住居址（１）……49
第43図　Ｈ１号住居址（２）……50
第44図　Ｈ１号住居址（３）……50
第45図　Ｈ１号住居址（４）……51
第46図　Ｈ１号住居址（５）……52
第47図　Ｈ１号住居址（６）……53
第48図　Ｈ１号住居址（７）……54
第49図　Ｈ１号住居址（８）……55
第50図　Ｈ１号住居址（９）……56

第51図　Ｈ２号住居址…… 58
第52図　Ｈ３号住居址…… 59
第53図　Ｈ４号住居址…… 60
第54図　Ｈ５号住居址…… 61
第55図　Ｈ６号住居址…… 62
第56図　Ｈ７号住居址…… 63
第57図　Ｈ８号住居址（１）…… 64
第58図　Ｈ８号住居址（２）…… 65
第59図　Ｈ９号住居址（１）…… 66
第60図　Ｈ９号住居址（２）…… 67
第61図　H10号住居址（１）…… 68
第62図　H10号住居址（２）…… 69
第63図　H11号住居址…… 69
第64図　H12号住居址…… 70
第65図　H13号住居址…… 70
第66図　H14号住居址…… 71
第67図　H15号住居址…… 71
第68図　H16号住居址（１）…… 72
第69図　H16号住居址（２）…… 73
第70図　H17号住居址…… 74
第71図　Ta１号竪穴状遺構（１）…… 75
第72図　Ta１号竪穴状遺構（２）…… 76
第73図　Ta２号竪穴状遺構…… 77
第74図　Ta３号竪穴状遺構…… 77
第75図　Ｆ１号掘立柱建物址…… 77
第76図　ＳＭ１号周溝址…… 78
第77図　ＳＭ２号周溝址…… 79
第78図　Ｄ１～16号土坑…… 81
第79図　Ｄ２・４・７・11・13～16号土坑出土遺物…… 82
第80図　D17号土坑…… 83
第81図　D18～28号土坑…… 84
第82図　D29・30号土坑…… 84
第83図　Ｍ１号溝址…… 85
第84図　Ｍ２・３号溝址、ピット群…… 86
第85図　Ｍ４・５号溝址…… 87
第86図　Ｍ６号溝址…… 88
第87図　直路遺跡ⅢPit132出土遺物…… 89
第88図　遺構外出土遺物…… 89
第89図　円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ全体図…… 91
第90図　Ｈ１号住居址（１）…… 92
第91図　Ｈ１号住居址（２）…… 93
第92図　Ｈ２号住居址（１）…… 94
第93図　Ｈ２号住居址（２）…… 95
第94図　Ｈ３号住居址（１）…… 97
第95図　Ｈ３号住居址（２）…… 98
第96図　Ｈ４号住居址（１）…… 99
第97図　Ｈ４号住居址（２）…… 100
第98図　Ｈ４号住居址（３）…… 101
第99図　Ｈ５号住居址（１）…… 102
第100図　Ｈ５号住居址（２）…… 103
第101図　Ｈ６号住居址…… 104
第102図　Ｈ７号住居址（１）…… 105
第103図　Ｈ７号住居址（２）…… 106
第104図　Ｈ８・９号住居址…… 107
第105図　Ｍ１・２号溝址…… 108
第106図　ピット２…… 109
第107図　遺構外出土遺物（１）…… 109
第108図　遺構外出土遺物（２）…… 110
第109図　周防畑遺跡群辻の前遺跡全体図…… 111
第110図　Ｈ１号住居址…… 113
第111図　Ｈ２号住居址…… 114
第112図　Ｈ３号住居址（１）…… 116
第113図　Ｈ３号住居址（２）…… 117
第114図　Ｈ４号住居址…… 118
第115図　Ｈ５号住居址…… 119
第116図　Ｈ６号住居址（１）…… 121
第117図　Ｈ６号住居址（２）…… 122
第118図　Ｈ７号住居址（１）…… 123
第119図　Ｈ７号住居址（２）…… 124
第120図　Ｈ８号住居址（１）…… 125
第121図　Ｈ８号住居址（２）…… 126
第122図　Ｈ９号住居址（１）…… 127
第123図　Ｈ９号住居址（２）…… 128
第124図　H10号住居址…… 129
第125図　H11号住居址（１）…… 130
第126図　H11号住居址（２）…… 131
第127図　H12号住居址…… 133
第128図　H13号住居址…… 134
第129図　H14号住居址（１）…… 135
第130図　H14号住居址（２）…… 136
第131図　H14号住居址（３）…… 137
第132図　Ta１号竪穴状遺構…… 139
第133図　Ｄ６～８号土坑出土遺物…… 139
第134図　Ｄ１～９号土坑…… 140
第135図　Ｍ１・２・５号溝址…… 141
第136図　Ｍ３・４・６～８号溝址…… 142
第137図　ピット群…… 143
第138図　遺構外出土遺物…… 145
第139図　周防畑遺跡群中仲田遺跡全体図（１）…… 146
第140図　周防畑遺跡群中仲田遺跡全体図（２）…… 147
第141図　Ｈ１号住居址…… 148
第142図　Ｆ１号掘立柱建物址…… 149
第143図　Ｄ１～14号土坑…… 150
第144図　D15～22号土坑…… 151
第145図　Ｄ４～６・８～10・14・15号土坑出土遺物…… 152
第146図　Ｍ１・２号溝址…… 153
第147図　Ｍ３・４号溝址、ピット群…… 154
第148図　遺構外出土遺物（１）…… 155
第149図　遺構外出土遺物（２）…… 156
第150図　遺構外出土遺物（３）…… 157
第151図　遺構外出土遺物（４）…… 158

図　版　目　次

図版一　調査区全景
図版二　調査区付近航空写真
図版三　上村遺跡全景
図版四　Ｄ１号土坑、Ｍ１～３号溝址
図版五　Ｍ１～３号溝址、遺構外出土遺物
図版六　上前田遺跡全景、Ｄ１号土坑
図版七　Ｄ２～５号土坑
図版八　Ｄ６～13号土坑
図版九　Ｄ14～21号土坑
図版十　Ｄ22・23・25号土坑、Ｍ１・３号溝址、ピット群
図版十一　Ｄ１・４・５・13・14・21号土坑、Ｍ１号溝址出土遺物
図版十二　Ｄ１～５号土坑、Ｍ１・２号溝址、遺構外出土遺物
図版十三　下伯母塚遺跡全景
図版十四　Ｈ１・２号住居址
図版十五　Ｈ２・３号住居址
図版十六　Ｈ４・５号住居址
図版十七　Ｈ５～７号住居址
図版十八　Ｈ８・９号住居址
図版十九　Ｈ８・９号住居址、Ｍ１・５～７号溝址
図版二十　Ｈ１～３号住居址出土遺物
図版二十一　Ｈ３～５号住居址出土遺物
図版二十二　Ｈ６～８号住居址出土遺物
図版二十三　Ｈ８・９号住居址、Ｍ３・６号溝址出土遺物
図版二十四　Ｈ１号住居址
図版二十五　Ｈ１号住居址
図版二十六　Ｈ１・２号住居址
図版二十七　Ｈ３・４号住居址
図版二十八　Ta１号竪穴状遺構、Ｄ１～４号土坑
図版二十九　Ｄ４・５・７～14号土坑
図版三十　直路遺跡Ⅱ付近航空写真、直路遺跡Ⅱ全景
図版三十一　Ｈ５号住居址
図版三十二　Ｈ５～７号住居址
図版三十三　Ｈ８号住居址
図版三十四　Ｈ９号住居址
図版三十五　Ｈ10号住居址
図版三十六　Ｈ11～13号住居址
図版三十七　Ta２・３号竪穴状遺構
図版三十八　Ｄ17～22号土坑
図版三十九　Ｄ23～27号土坑、Ｍ２・３号溝址
図版四十　Ｍ４・５号溝址、ピット群
図版四十一　直路遺跡Ⅲ全景、Ｈ15・16号住居址
図版四十二　Ｈ16・17号住居址、Ｄ29・30号土坑
図版四十三　ＳＭ１・２号周溝址、Ｍ６号溝址
図版四十四　Ｈ１号住居址出土遺物
図版四十五　Ｈ１号住居址出土遺物
図版四十六　Ｈ１号住居址出土遺物
図版四十七　Ｈ１号住居址出土遺物
図版四十八　Ｈ１～３・５・６・８号住居址出土遺物
図版四十九　Ｈ８～10・12・15号住居址出土遺物
図版五十　Ｈ16・17号住居址、Ta１号竪穴状遺構、ＳＭ２号周溝址出土遺物
図版五十一　Ｄ４・７・15・30号土坑、Ｍ４・５号溝址、Pit２、遺構外出土遺物
図版五十二　清水田遺跡Ⅱ全景
図版五十三　清水田遺跡Ⅱ全景、Ｈ１号住居址
図版五十四　Ｈ１・２号住居址
図版五十五　Ｈ３号住居址
図版五十六　Ｈ３・４号住居址
図版五十七　Ｈ４・５号住居址
図版五十八　Ｈ６・７号住居址
図版五十九　Ｈ６～９号住居址
図版六十　Ｍ１・２号溝址、グリッド遺物出土状況、Pit２遺物出土状況
図版六十一　Ｈ１・２号住居址出土遺物
図版六十二　Ｈ３・４号住居址出土遺物
図版六十三　Ｈ４号住居址出土遺物
図版六十四　Ｈ５・７・８号住居址、Pit２、Ｍ２号溝址出土遺物
図版六十五　遺構外出土遺物
図版六十六　辻の前遺跡全景
図版六十七　Ｈ１・２号住居址
図版六十八　Ｈ１～３号住居址
図版六十九　Ｈ４・５号住居址
図版七十　Ｈ６・８号住居址
図版七十一　Ｈ７・８号住居址
図版七十二　Ｈ９号住居址
図版七十三　Ｈ10・11号住居址
図版七十四　Ｈ11・12号住居址
図版七十五　Ｈ13・14号住居址
図版七十六　Ta１号竪穴状遺構、Ｄ１～７号土坑
図版七十七　Ｄ８・９号土坑、Ｍ１～３・８号溝址
図版七十八　Ｍ５・６号溝址、ピット群
図版七十九　Ｈ１～３・５号住居址出土遺物
図版八十　Ｈ５・６号住居址出土遺物
図版八十一　Ｈ６～８号住居址出土遺物
図版八十二　Ｈ９・11号住居址出土遺物
図版八十三　Ｈ12～14号住居址出土遺物
図版八十四　Ｈ14号住居址、Ｄ６・７号土坑、Ｍ４号溝址出土遺物
図版八十五　中仲田遺跡Ａ地区全景
図版八十六　Ｈ１号住居址、Ｆ１号掘立柱建物址
図版八十七　Ｄ１～８号土坑
図版八十八　Ｄ９～13号土坑、包含層遺物出土状況
図版八十九　中仲田遺跡Ｂ地区全景
図版九十　Ｄ14～18号土坑、Ｍ１・２号溝址
図版九十一　中仲田遺跡Ｃ地区全景、Ｄ19・20号土坑、Ｍ３号溝址
図版九十二　Ｄ21・22号土坑、ピット群
図版九十三　ピット群
図版九十四　Ｈ１号住居址、Ｄ４～６・９号土坑、Ｍ２・３号溝址、包含層出土遺物
図版九十五　包含層出土遺物
図版九十六　包含層・遺構外出土遺物

第Ⅰ章　調査の概要

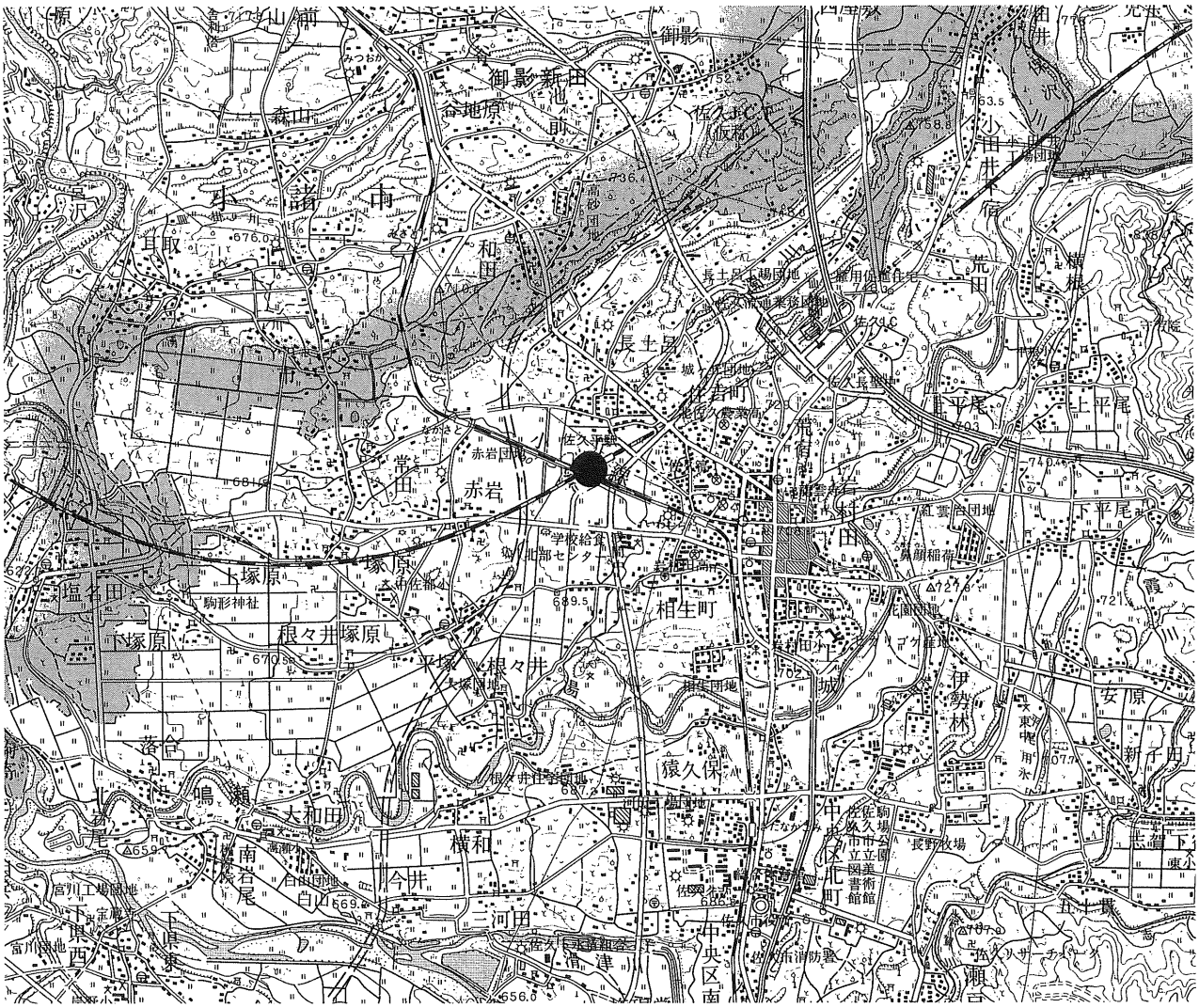
第１節　調査の経緯と経過

長土呂遺跡群・枇杷坂遺跡群・周防畑遺跡群は佐久市大字長土呂及び岩村田に所在し、浅間火山の第一軽石流の堆積と浸食によって形成された田切り地形に挟まれた台地上に展開する遺跡群である。この台地上には東から栗毛坂遺跡群・枇杷坂遺跡群・長土呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群・近津遺跡群・西近津遺跡群などが展開しており、佐久市でも有数な遺跡群が密集している地域である。

また、円正坊遺跡群の存在する台地の南端に至ると、田切りとの比高差が減少し微高地状の地形となり一見平坦な地形を見せているが、いくつかの発掘調査によって塚原泥流の残丘地形とそれを取り巻く低地が確認されており、微高地上からは多くの集落が検出されている。

今回、当地区において佐久市により佐久駅周辺土地区画整理事業が計画されたため、試掘調査により遺構の分布状況を把握し、その結果をふまえた協議により記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

調査は佐久市区画整理課より委託を受けた佐久市教育委員会が実施し、平成７年度から平成11年度にかけて発掘調査を、平成７年度から平成14年度に整理調査を行った。



第１図　位置図（１：50,000）

長土呂遺跡群　上村遺跡（ＮＮＫＭ）
所　在　地　　佐久市大字長土呂字上村380－１他
調 査 期 間　　平成７年10月27日～11月９日
調 査 面 積　　202㎡
調査担当者　　冨沢　一明
検 出 遺 構　　土坑１基、溝址３条、ピット
長土呂遺跡群　上前田遺跡（ＮＫＭ）
所　在　地　　佐久市大字長土呂字上前田1479－５他
調 査 期 間　　平成８年６月19日～７月19日
調 査 面 積　　310㎡
調査担当者　　須藤　隆司
検 出 遺 構　　土坑25基、溝址３条、ピット
長土呂遺跡群　永存遺跡（ＮＥ）
所　在　地　　佐久市大字岩村田字永存
調 査 期 間　　平成10年４月22日～５月25日
調 査 面 積　　2,560㎡
調査担当者　　林　　幸彦
検 出 遺 構　　土坑５基、溝址２条
長土呂遺跡群　下伯母塚遺跡（ＮＳＵ）
所　在　地　　佐久市大字長土呂字下伯母塚
調 査 期 間　　平成９年６月10日～７月１日
調 査 面 積　　3,500㎡
調査担当者　　上原　　学
検 出 遺 構　　竪穴住居址９棟、溝址５条、ピット
枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅰ（ＮＳＪⅠ）
所　在　地　　佐久市大字長土呂字直路308－１他
調 査 期 間　　平成９年７月１日～７月18日
調 査 面 積　　1,800㎡
調査担当者　　上原　　学
検 出 遺 構　　竪穴住居址４棟、竪穴状遺構１基、土坑16基、溝址１条、ピット
枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅱ（ＮＳＪⅡ）
所　在　地　　佐久市大字岩村田字直路307－１他　字水引272－１他
調 査 期 間　　平成10年８月25日～12月15日
調 査 面 積　　3,890㎡
調査担当者　　林　　幸彦
検 出 遺 構　　竪穴住居址10棟、竪穴状遺構２基、土坑12基、溝址４条、ピット
枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅲ（ＮＳＪⅢ）
所　在　地　　佐久市大字長土呂字水引283－１他
調 査 期 間　　平成11年９月13日～９月24日
調 査 面 積　　316㎡
調査担当者　　森泉かよ子
検 出 遺 構　　竪穴住居址３棟、掘立柱建物址１棟、周溝址２基、土坑２基、溝址１条、ピット
円正坊遺跡群　清水田遺跡Ⅱ（ＳＤⅡ）
所　在　地　　佐久市大字岩村田字清水田1369－１他
調 査 期 間　　平成10年５月11日～８月５日
調 査 面 積　　3,540㎡
調査担当者　　林　　幸彦
検 出 遺 構　　竪穴住居址９棟、溝址２条、ピット

周防畑遺跡群　辻の前遺跡（ＳＴＳ）
　所　在　地　佐久市大字長土呂字辻の前1163他
　調 査 期 間　平成11年５月６日～７月25日
　調 査 面 積　1,995㎡
　調査担当者　羽毛田卓也
　検 出 遺 構　竪穴住居址14棟、竪穴状遺構１基、土坑９基、溝址８条、ピット
周防畑遺跡群　中仲田遺跡（ＳＮＡ）
　所　在　地　佐久市大字長土呂
　調 査 期 間　平成11年７月26日～10月13日
　調 査 面 積　3,162㎡
　調査担当者　羽毛田卓也
　検 出 遺 構　竪穴住居址１棟、掘立柱建物址１棟、土坑22基、溝址３条、ピット

第２節　調査体制

平成７年度

調査受託者	教　育　長	大井　季夫（４月～６月）
		依田　英夫（７月～）
事　務　局	教育次長	市川　源
	埋蔵文化財課長	戸塚　満
	管理係長	谷津　恭子（４月～６月）
	管　理　係	田村　和広
	埋蔵文化財係長	大塚　達夫
	埋蔵文化財係	林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　眞寿
		羽毛田卓也　冨沢　一明　上原　学

平成８年度

調査受託者	教　育　長	依田　英夫
事　務　局	教育次長	市川　源
	埋蔵文化財課長	北沢　元平
	管理係長	楜沢　慶子
	管　理　係	田村　和広
	埋蔵文化財係長	大塚　達夫
	埋蔵文化財係	林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　眞寿
		羽毛田卓也　冨沢　一明　上原　学

平成９年度

調査受託者	教　育　長	依田　英夫
事　務　局	教育次長	市川　源
	埋蔵文化財課長	須江　仁胤
	管理係長	楜沢　慶子
	埋蔵文化財係長	大塚　達夫
	埋蔵文化財係	林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　眞寿
		羽毛田卓也　冨沢　一明　上原　学

平成10年度

調査受託者	教育長	依田　英夫
事務局	教育次長	北沢　馨
	埋蔵文化財課長	須江　仁胤（兼管理係長）
	埋蔵文化財係長	荻原　一馬
	埋蔵文化財係	林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　眞寿 羽毛田卓也　冨沢　一明　上原　学

平成11年度

調査受託者	教育長	依田　英夫
事務局	教育次長	小林　宏造
	文化財課長	草間　芳行
	文化財係長	荻原　一馬
	文化財係	林　幸彦　須藤　隆司　小林　眞寿　羽毛田卓也 冨沢　一明　上原　学　山本　秀典　出澤　力

平成12年度

調査受託者	教育長	依田　英夫
事務局	教育次長	小林　宏造
	文化財課長	草間　芳行
	文化財係長	荻原　一馬
	文化財係	林　幸彦　須藤　隆司　小林　眞寿　羽毛田卓也 冨沢　一明　上原　学　山本　秀典　出澤　力

平成13年度

調査受託者	教育長	依田　英夫（4月～6月） 髙柳　勉（7月～）
事務局	教育次長	小林　宏造（4月～5月） 黒沢　俊彦（5月～）
	文化財課長	草間　芳行
	文化財係長	荻原　一馬（4月～5月） 森角　吉晴（5月～）
	文化財係	林　幸彦　須藤　隆司　小林　眞寿　羽毛田卓也 冨沢　一明　上原　学　山本　秀典　出澤　力

平成14年度

調査受託者	教育長	髙柳　勉
事務局	教育次長	黒沢　俊彦
	文化財課長	嶋崎　節夫
	文化財係長	森角　吉晴
	文化財係	林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　眞寿 冨沢　一明　上原　学　山本　秀典　出澤　力

平成７年度～平成14年度

調査主任	佐々木宗昭　森泉かよ子
調査副主任	堺　益子
調査員	秋山　勝哉　浅沼ノブ江　阿部　和人　荒井　かつ　荒井ふみ子 安藤　静　井出徳四郎　井出　惺永　市川　昭　市川チイ子

井上　行雄　今井　勇一　岩崎　重子　岩下　吉代　岩下とも子
岩下ふみ子　上原　幸子　内堀　　団　碓氷　知子　臼田　真杉
梅澤　淳子　遠藤しづか　大井みつる　荻原千鶴子　小田川　栄
小幡　弘子　柏木　貞夫　柏木　三郎　柏木　義雄　木内　明美
木内　節雄　菊池　喜重　菊池　康一　高地　正雄　神津ツネヨ
小金沢たけみ　小須田サクエ　小林　幸子　小林　妙子　小林まさ子
小林　　裕　小林百合子　小林よしみ　小山　　功　小山　正吉
小山　澄恵　桜井　牧子　櫻下　純子　佐々木　正　佐々木久子
佐藤　愛子　佐藤志げ子　佐藤　　剛　佐藤　玉枝　篠崎　清一
島田　幹子　清水佐知子　須藤　瑞帆　須藤　吉助　副島　充子
高瀬　武男　高橋かね子　高橋サチコ　高橋　ふみ　高橋　冬子
高見沢　綾　武田まつ子　田中　章雄　田中ひさ子　角田すづ子
角田トミエ　東城　友子　東城　幸子　伴野　寿夫　樋田　咲枝
中條　悦子　中嶋　角治　中島武三郎　中嶋　照夫　中島とも子
中島　智広　中嶋フクジ　中嶋　良造　成澤　冨子　新津　幸雄
萩原　宮子　羽毛田香里　橋詰　勝子　橋詰けさよ　橋詰　信子
花岡美津子　花里香代子　花里四之助　花里三佐子　林　美智子
林　　幸男　比田井久美子　平林　　泰　細萱ミスズ　細谷　秀子
堀籠　滋子　堀籠　　因　堀籠みさと　真嶋　保子　増野　深志
水間　雅義　宮川百合子　武者　幸彦　茂木とよ子　森角　雅子
柳澤　孝子　柳澤千賀子　山浦　貴久　山浦　豊子　山崎　　直
山田　幸枝　山村　容子　依田　みち　和久井義雄　渡辺久美子

第３節　調査日誌

平成７年度

平成７年10月27日～11月９日　長土呂遺跡群上村遺跡発掘調査
平成７年12月11日～12月26日　試掘調査
平成８年１月８日～１月18日　整理調査

平成８年度

平成８年６月19日～７月19日　長土呂遺跡群上前田遺跡発掘調査
平成８年６月19日～６月21日　試掘調査
平成８年７月18日～７月25日　整理調査
平成８年11月21日　試掘調査

平成９年度

平成９年５月６日～６月24日　試掘調査
平成９年６月10日～７月１日　長土呂遺跡群下伯母塚遺跡発掘調査
平成９年７月１日～７月18日　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅰ発掘調査

平成10年度

平成10年４月22日～12月14日　試掘調査
平成10年４月22日～５月25日　長土呂遺跡群永存遺跡発掘調査
平成10年５月11日～８月５日　円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ発掘調査
平成10年４月６日～８月25日　整理調査
平成10年８月25日～12月15日　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ発掘調査

平成11年度

平成11年５月６日～７月25日　周防畑遺跡群辻の前遺跡発掘調査
平成11年７月26日～10月13日　周防畑遺跡群中仲田遺跡発掘調査
平成11年７月26日～８月25日　整理調査

平成11年８月31日～９月26日　試掘調査
平成11年９月13日～９月24日　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅲ発掘調査
平成11年11月26日～平成12年３月31日　整理調査

平成12年度

平成12年４月１日～５月25日　整理調査
平成13年１月26日～３月25日　整理調査

平成13年度

平成13年４月２日～平成14年３月26日　整理調査

平成14年度

平成14年４月１日～平成15年３月28日　整理調査

第４節　遺跡の位置と周辺遺跡

位置

今回発掘調査を行った地区は佐久平の北部、佐久市大字長土呂及び岩村田地籍に所在する。佐久平の北部地域は浅間山南麓の末端部に位置し、御代田町方面から南西方向に放射状にのびる田切り地形が発達した地域であり、この田切りに挟まれた浅間第一軽石流を基盤とする帯状の台地上には長土呂遺跡群・枇杷坂遺跡群・周防畑遺跡群・芝宮遺跡群など佐久市でも有数な遺跡群が展開している。これらの台地上では上信越自動車道関係の発掘調査をはじめとして、岩村田北部第一土地区画整理事業・佐久流通業務団地造成事業・国道141号道路改良事業などに伴う大規模な発掘調査が行われている。

今回の調査対象地は北陸新幹線佐久平駅周辺の土地区画整理事業用地約60haであり、これらの台地の南西端部にあたる。この台地は徐々に田切り地形との比高差を減じて今回の調査区付近で消滅し圃場整備による平坦な水田地帯が広がっている。しかし、この一見平坦に見えるこの水田地帯の下には塚原泥流の残丘による微高地とそれを取り巻く低地が存在することが周辺の発掘調査によって判明している。

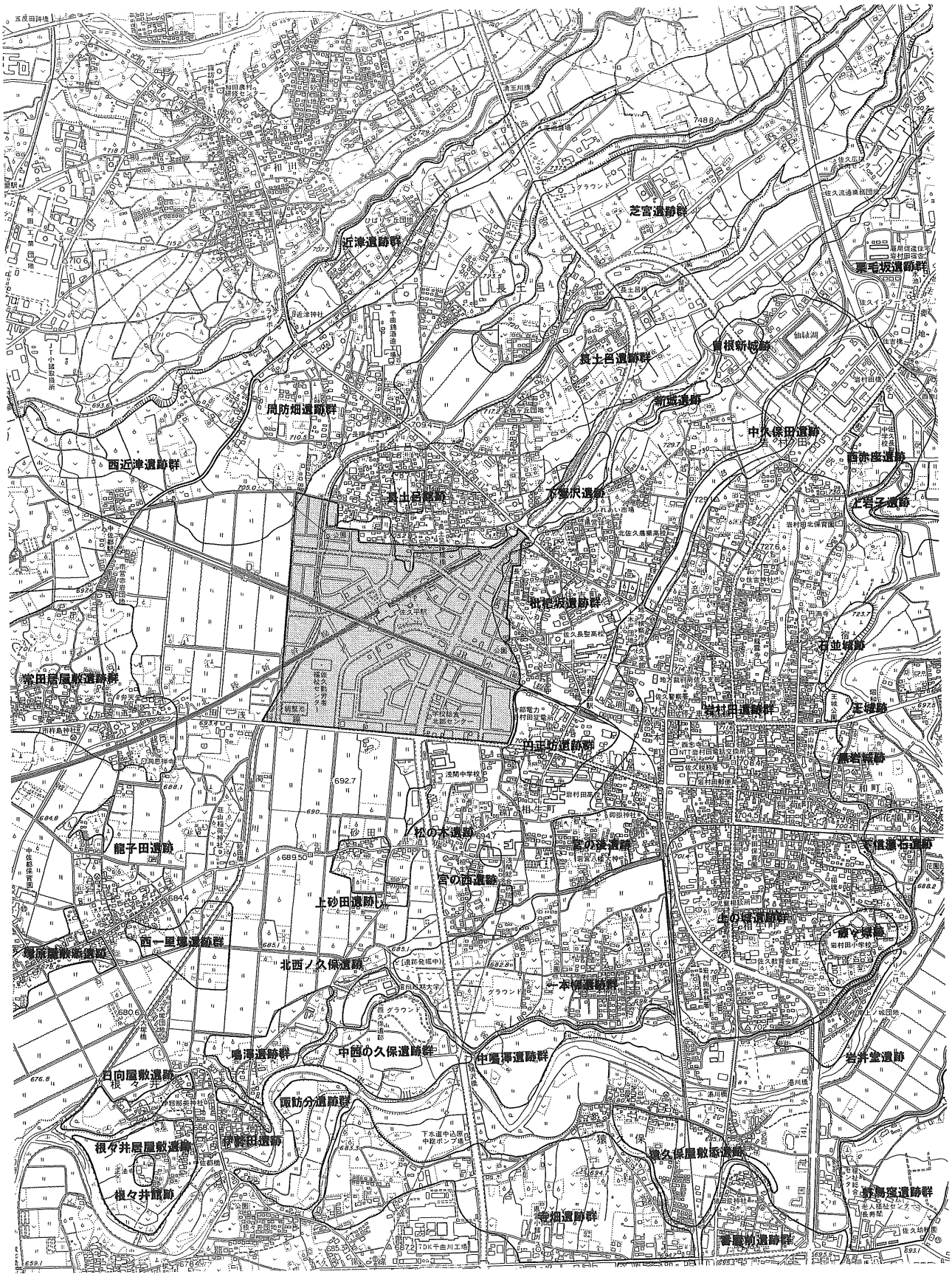
周辺遺跡

今回の調査地は北東方向からのびる田切り地形の末端部にあたり、東方に枇杷坂遺跡群・円正坊遺跡群、北方に長土呂遺跡群・周防畑遺跡群が展開している。また、西方の長土呂及び塚原、南方の岩村田市街地南西部、浅間中学校付近では低湿地や塚原泥流による残丘上に多くの遺跡がみられる。更にこの低地を挟んだ湯川右岸には北西ノ久保遺跡・一本柳遺跡群・中西の久保遺跡群などが展開している。

枇杷坂遺跡群・長土呂遺跡群・周防畑遺跡群は、御代田町方面から南西方向にのびる田切り地形に挟まれた台地上に展開する遺跡群であり、上信越自動車道関係の発掘調査をはじめとして佐久流通業務団地造成事業・道路整備事業・区画整理事業等に伴う大規模な発掘調査が相次いで行われている。長土呂遺跡群では佐久流通業務団地造成事業に伴い、聖原遺跡Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ～Ⅵ・Ⅷ・Ⅸの発掘調査が平成元年度から７年度に実施され、西方に隣接して平成７年度に行われた聖原遺跡Ⅹと併せて竪穴住居址975棟、掘立柱建物址858棟等が調査された。また、岩村田北部第一土地区画整理事業に伴い長土呂遺跡群曽根新城遺跡Ⅰ～Ⅳ・Ⅵ、枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ～Ⅶ、栗毛坂遺跡群西曽根遺跡Ⅱ・Ⅲの調査が実施された。竪穴住居址40棟、掘立柱建物址35棟等が検出され、古墳時代から平安時代の集落が台地上に広がっていることが確認されている。周防畑遺跡群では、昭和55年度に遺跡群南端部の微高地上に位置する周防畑Ｂ遺跡の発掘調査が行われ、弥生時代後期の住居址の他、径約５ｍの円形周溝墓を中心とする土壙墓群が調査されている。

円正坊遺跡群はＪＲ小海線によって枇杷坂遺跡群と画されているが、同一の台地上の南西端部にあたり枇杷坂遺跡群から連続するものである。円正坊遺跡では５回にわたって調査が行われており、円正坊遺跡Ⅰ・Ⅲ・Ⅳでは古墳時代中期から後期、平安時代の竪穴住居址、弥生時代後期から古墳時代の周溝が検出され、円正坊遺跡Ⅱ・Ⅴでは弥生時代中期・後期の竪穴住居址が調査されている。また、昭和53年に調査された清水田遺跡では弥生時代中期１棟・後期10棟、古墳時代中期３棟の竪穴住居址、土壙墓、溝址が調査された。

田切りの消滅した平地部分では、国道141号バイパス工事に伴い松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ、中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱの調査が行われ、低地に囲まれた微高地上から弥生時代後期後半から古墳時代の竪穴住居址10棟、掘立柱建物址等が検出された。



第２図　周辺遺跡分布図（１）

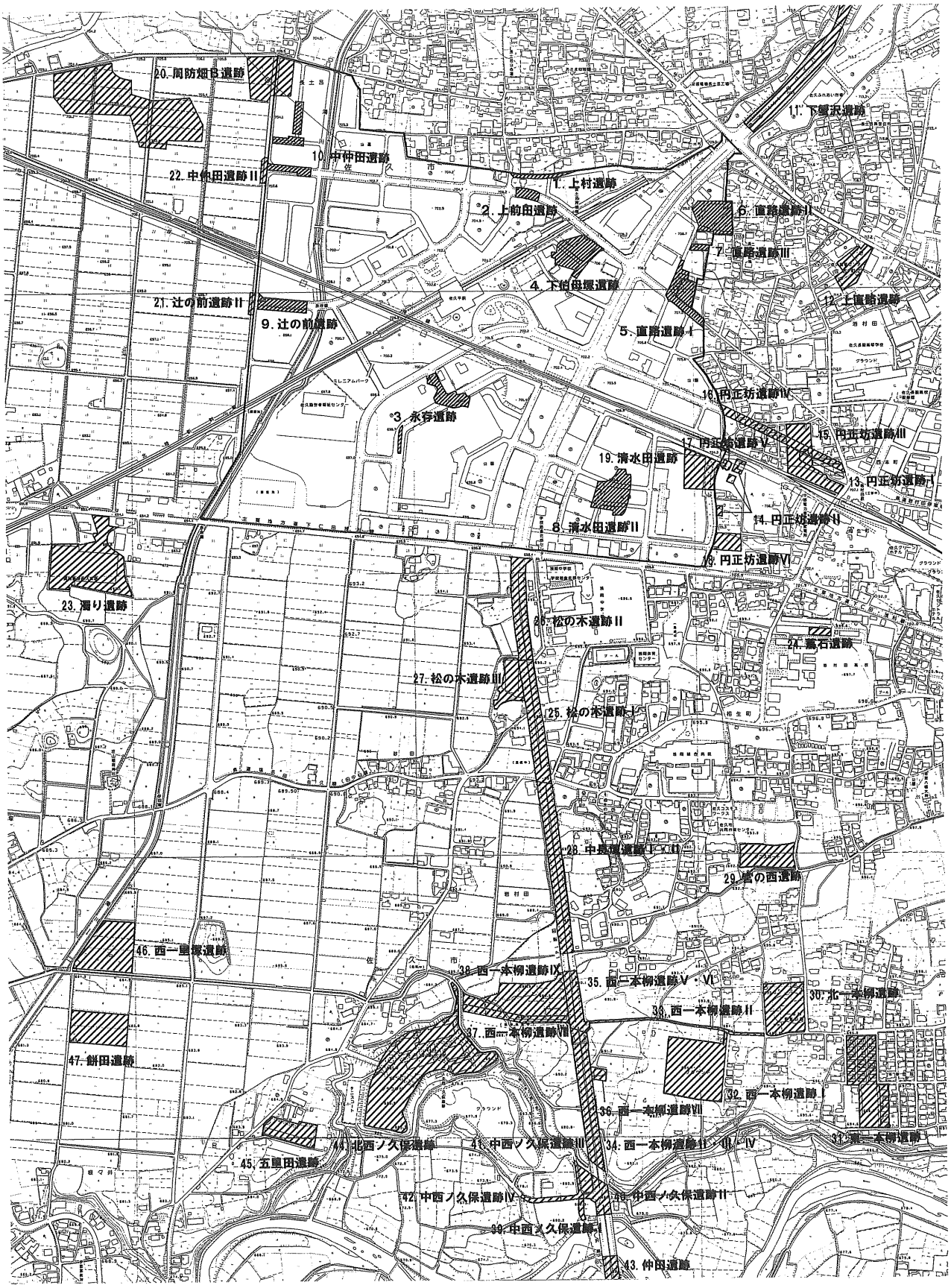
また、濁り遺跡では弥生時代から現代までの水田層が確認されている。この地域はかねてから古代の生産址の存在が予想されていた地域であり、濁り遺跡・中長塚遺跡の他に現在圃場整備の行われた水田下にも破壊されずに残存している可能性が高いと考えられている。

一本柳遺跡群では、東一本柳遺跡・東一本柳古墳・北一本柳遺跡・西一本柳遺跡の調査が行われている。特に昭和46年に調査された東一本柳古墳は、金銅製の杏葉・辻金具、鉄製轡をはじめとする馬具、鉄鏃、刀装具、玉類などの豊富な副葬品で知られている。また、西一本柳遺跡では国道141号バイパス建設等に伴い多くの発掘調査が行われており、弥生時代中期から平安時代までの住居址200棟以上が調査され、平成３・４年度に調査された西一本柳遺跡Ⅰでは頸部下を欠損した人面付き土器が出土した。

北西ノ久保遺跡の調査では弥生時代中期から平安時代の住居址158棟をはじめ、弥生時代の方形周溝墓・木棺墓群、多量の埴輪が出土した古墳時代中期から後期の古墳群等が調査され、台地の東斜面からは中世の五輪塔等の石塔婆群が検出されている。

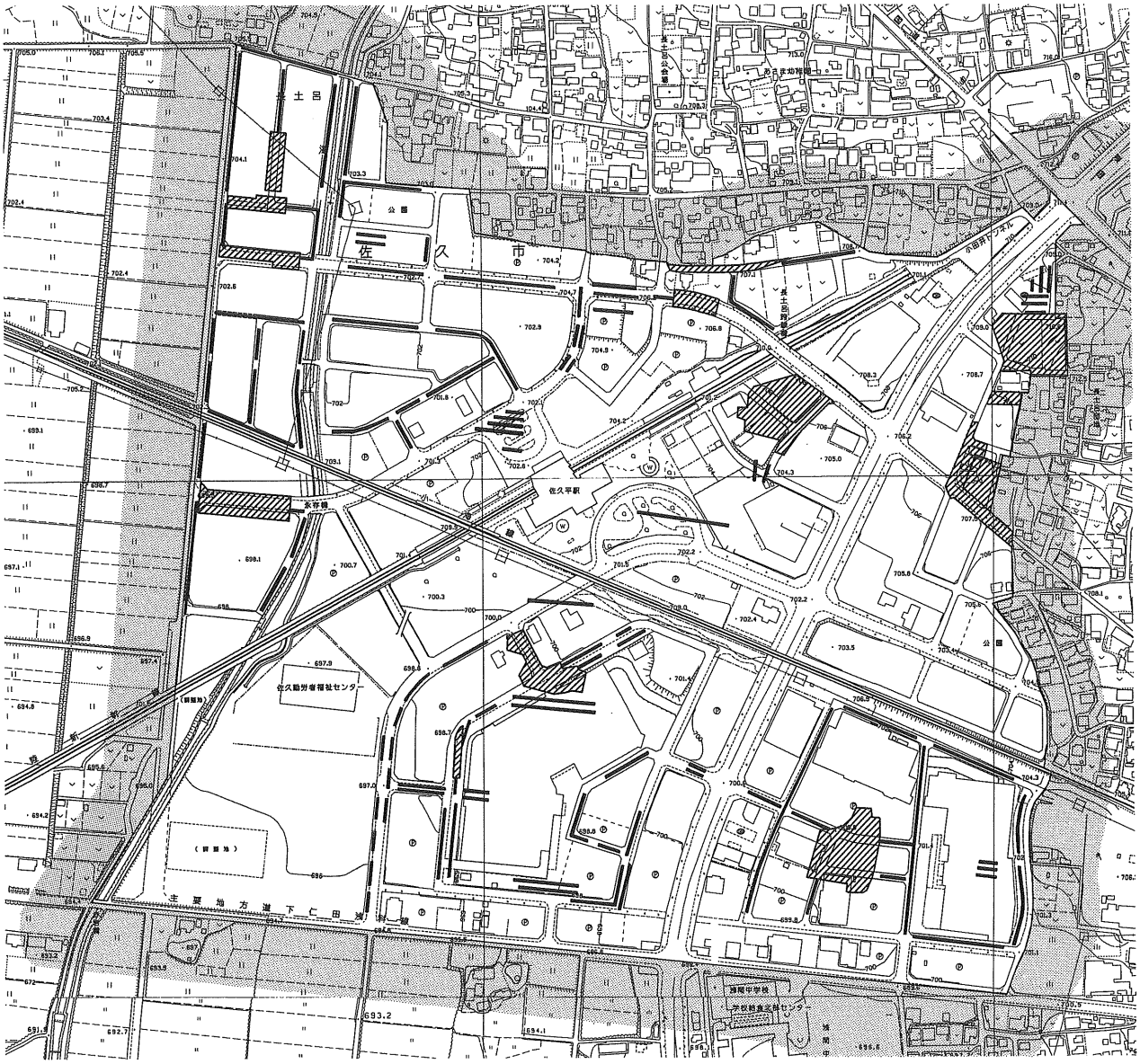
第１表　周辺遺跡一覧表

No		所　在　地	調査年度	検　出　遺　構　・　出　土　遺　物　等
1	長土呂遺跡群上村遺跡	長土呂字上村	平成７年度	本調査
2	長土呂遺跡群上前田遺跡	長土呂字上前田	平成８年度	
3	長土呂遺跡群永存遺跡	岩村田字永存	平成10年度	
4	長土呂遺跡群下伯母塚遺跡	長土呂字下伯母塚	平成９年度	
5	枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅰ	長土呂字直路	平成９年度	
6	枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ	長土呂字直路	平成10年度	
7	枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅲ	長土呂字直路	平成11年度	
8	円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ	岩村田字清水田	平成10年度	
9	周防畑遺跡群辻の前遺跡	長土呂字辻の前	平成11年度	
10	周防畑遺跡群中仲田遺跡	長土呂字仲田	平成11年度	
11	下蟹沢遺跡	長土呂字下蟹沢	平成１年度	検出遺構なし
12	枇杷坂遺跡群上直路遺跡	岩村田字上直路	昭和60年度	住居址２（弥生後期）、溝２、銅釧
13	枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅰ	岩村田字円正坊外	昭和59年度	住居址６（古墳後期・平安）、土坑４、周溝、溝
14	円正坊遺跡群円正坊遺跡Ⅱ	岩村田字円正坊外	平成８年度	住居址８（弥生～平安）、掘立柱建物址１、古墳址１、土坑８
15	枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅲ	岩村田字円正坊外	平成11年度	住居址31（古墳中・後期、平安）、掘立柱建物址21、周溝、溝
16	枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅳ	岩村田字円正坊外	平成11～13年度	
17	円正坊遺跡群円正坊遺跡Ⅴ	岩村田字円正坊外	平成11年度	住居址５（古墳後期・弥生中期）、土坑２
18	円正坊遺跡群円正坊遺跡Ⅵ	岩村田字円正坊外	平成14年度	住居址38（弥生～平安）、掘立柱建物址４、土坑
19	円正坊遺跡群清水田遺跡	岩村田字清水田	昭和53年度	住居址13（弥生・古墳）、掘立柱建物址１、井戸址１、土坑２、溝２
20	周防畑Ｂ遺跡	長土呂字大豆田外	昭和55年度	住居址（弥生後期～平安）、掘立柱建物址、円形周溝墓、土壙墓
21	周防畑遺跡群辻の前遺跡Ⅱ	長土呂字辻の前	平成12年度	住居址３（弥生後期～古墳前期）、土坑１、溝１
22	周防畑遺跡群中仲田遺跡Ⅱ	長土呂字仲田	平成12年度	溝３
23	濁り遺跡	塚原字濁り・丸山	平成４年度	水田址、溝
24	円正坊遺跡群蔦石遺跡	岩村田字蔦石	昭和62年度	土坑２（弥生後期壺棺墓１）
25	松の木遺跡Ⅰ	岩村田字松の木	平成８年度	住居址６（弥生末）、掘立柱建物址１、土坑２、溝４
26	松の木遺跡Ⅱ	岩村田字狭石	平成９年度	住居址４（弥生後期・古墳中期）
27	松の木遺跡Ⅲ	岩村田字松の木	平成10年度	住居址７（弥生末～古墳初）、溝１
28	中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田字中長塚	平成８・10年度	水田址
29	宮の西遺跡	岩村田字宮の西	昭和58年度	検出遺構なし
30	一本柳遺跡群北一本柳遺跡	岩村田字北一本柳	昭和47年度	住居址16（弥生後期・平安）、土坑51
31	一本柳遺跡群東一本柳遺跡	岩村田字東一本柳	昭和43年度	住居址５（古墳後期）
32	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅰ	岩村田字西一本柳	平成３・４年度	住居址５（弥生・古墳）、掘立柱建物址３、溝１、人面付土器
33	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅱ	岩村田字西一本柳・常木	平成４年度	住居址69（弥生中期～平安）、掘立柱建物址５、土坑11、溝21
34	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ	岩村田字西一本柳・常木	平成７・８年度	住居址201（弥生～平安）、掘立柱建物址45、土坑12、溝11
35	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅴ	岩村田字西一本柳	平成８年度	住居址８（弥生～平安）、掘立柱建物址10、土坑７、溝13
	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅵ	岩村田字西一本柳	平成９年度	溝７、ピット12
36	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅶ	岩村田字常木	平成10年度	住居址17（弥生～平安）、竪穴状遺構１、掘立柱建物址５、土坑８他
37	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅷ	岩村田字西一本柳	平成12～14年度	住居址84（弥生～平安）、掘立柱建物址31、土坑51、溝７
38	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅸ	岩村田字西一本柳	平成14年度	住居址51（弥生～平安）、掘立柱建物址９、土坑８、溝12
39	中西ノ久保遺跡群中西ノ久保遺跡Ⅰ	岩村田字中西ノ久保	平成４年度	住居址18（古墳後期～平安）、掘立柱建物址１、土坑４、溝２
40	中西ノ久保遺跡群中西ノ久保遺跡Ⅱ	岩村田字中西ノ久保	平成７年度	住居址34（古墳～平安）、掘立柱建物址７、溝３
41	中西ノ久保遺跡群中西ノ久保遺跡Ⅲ	岩村田字中西ノ久保	平成９年度	住居址23（古墳～平安）、掘立柱建物址５、溝２
42	中西ノ久保遺跡群中西ノ久保遺跡Ⅳ	岩村田字中西ノ久保	平成10年度	住居址16（古墳～平安）、掘立柱建物址２
43	仲田遺跡	猿久保字仲田	平成７年度	住居址30（古墳～平安）、掘立柱建物址９、花弁双蝶八花鏡
44	北西ノ久保遺跡	岩村田字北西ノ久保	昭和57・60年度	住居址158（弥生中期～平安）、周湟17、周溝墓、木棺墓他
45	鳴沢遺跡群五里田遺跡	根々井字五里田	平成９年度	住居址43（弥生中期）、周溝墓４（弥生後期）、周湟２、掘立柱建物址他、銅釧、鉄釧
46	西一里塚遺跡群西一里塚遺跡	岩村田字西一里塚	昭和48年度	住居址11（弥生後期）、環濠、土坑７、竪穴状遺構１、溝６
47	西一里塚遺跡群餅田遺跡	岩村田字堰向	昭和48年度	溝３、水路１（近代）



第３図　周辺遺跡分布図（２）

第５節　試掘調査



第４図　調査区・トレンチ設定図

今回調査を行った佐久駅周辺土地区画整理事業用地は、北側で長土呂遺跡群、東側で枇杷坂遺跡群・円正坊遺跡群に隣接しており、面積約60haと広大な範囲であることから、事前に調査対象地内の地層及び遺構の有無を把握するため試掘調査を実施した。

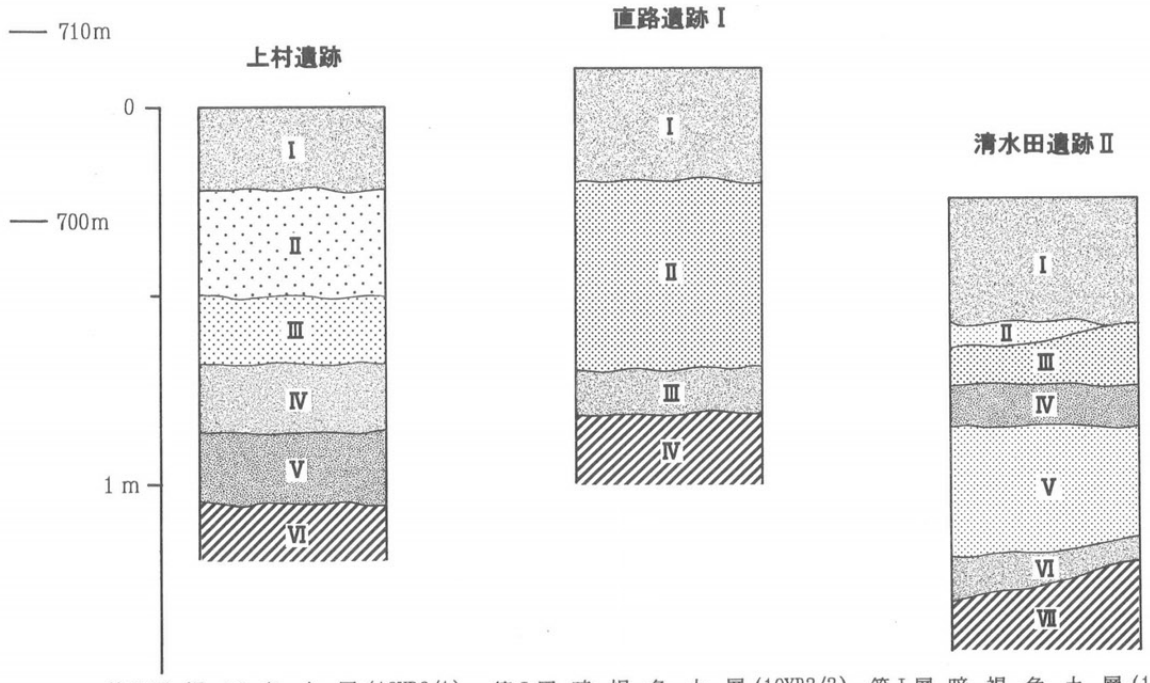
試掘調査は事業用地内の主に道路用地部分を中心として幅約２ｍのトレンチを重機によって掘り下げを行った。調査地は前述したように田切り地形が消滅した一見平坦な水田地帯であるが、試掘調査の結果、水田圃場整備により一部削平を受けている部分も認められたものの、水田下に多くの遺構が破壊されずに残っていることが判明した。これらの遺構は、田切りの谷から押し出された堆積土によって形成された低湿地に囲まれた塚原泥流の残丘と北東方向から延びる浅間第一軽石流に覆われた微高地上に展開していることが確認されたことから、第４図に示したように面的調査の範囲を決定した。また、低地部では砂層・シルト層下に泥炭層の厚い堆積がみられた。

なお、調査区内を南北に延びる国道141号バイパスについても事前に試掘調査を行ったが、北方から延びる田切り地形末端部の低地部分にあたり遺構は検出されなかった。

第６節　基本層序

今回の調査地は北東方向からのびる田切り地形の末端部にあたり、これらの田切り地形に挟まれた台地上に展開する長土呂遺跡群・枇杷坂遺跡群・周防畑遺跡群の南西縁辺部にあたる。また、円正坊遺跡群はＪＲ小海線によって枇杷坂遺跡群と画されているが同一の台地上に位置し、枇杷坂遺跡群から連続するものである。この田切りは本調査地付近で消滅し、田切りの谷から押し出された堆積土によって形成された低湿地が広がる。

基本層序の抽出は調査区北端部の上村遺跡、東端部の直路遺跡Ⅰと南側の清水田遺跡Ⅱの３箇所で行った。各遺跡における遺構確認面はそれぞれ第Ⅵ層・第Ⅱ層・第Ⅴ層上面である。



第Ⅰ層　褐灰色土層(10YR6/1)
耕作土。
第Ⅱ層　にぶい黄橙色土層(10YR6/4)
第Ⅲ層　にぶい黄褐色土層(10YR5/4)
第Ⅳ層　黒褐色土層(10YR3/2)
第Ⅴ層　黒色土層(10YR2/1)
遺物包含層。
第Ⅵ層　明黄褐色土層(10YR7/6)
浅間第一軽石流二次堆積。

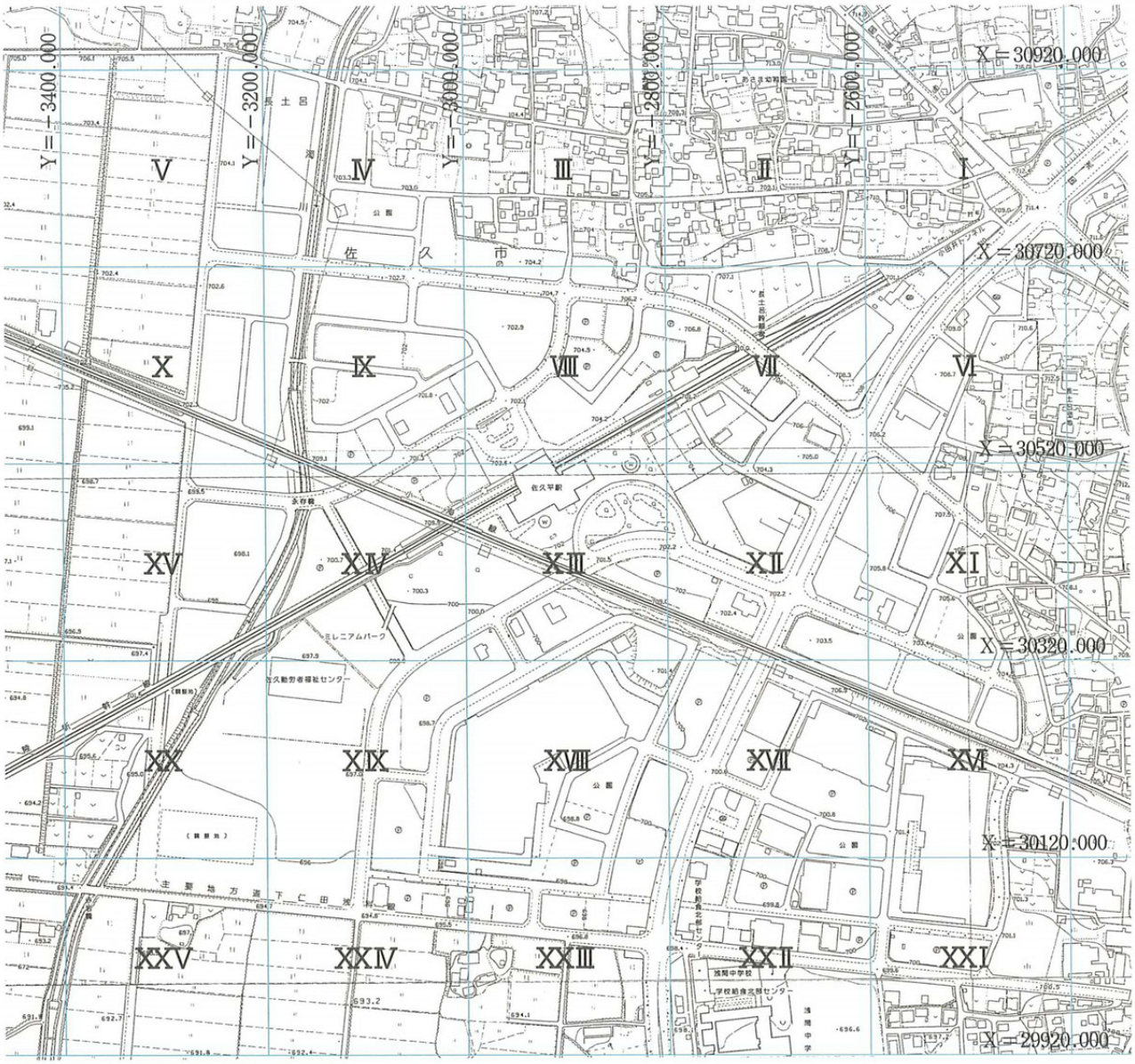
第Ⅰ層　暗褐色土層(10YR3/3)
耕作土。
第Ⅱ層　黒褐色土層(10YR2/2)
第Ⅲ層　黒褐色土層(10YR2/3)
第Ⅵ層　明黄褐色土層(10YR7/6)
浅間第一軽石流二次堆積。

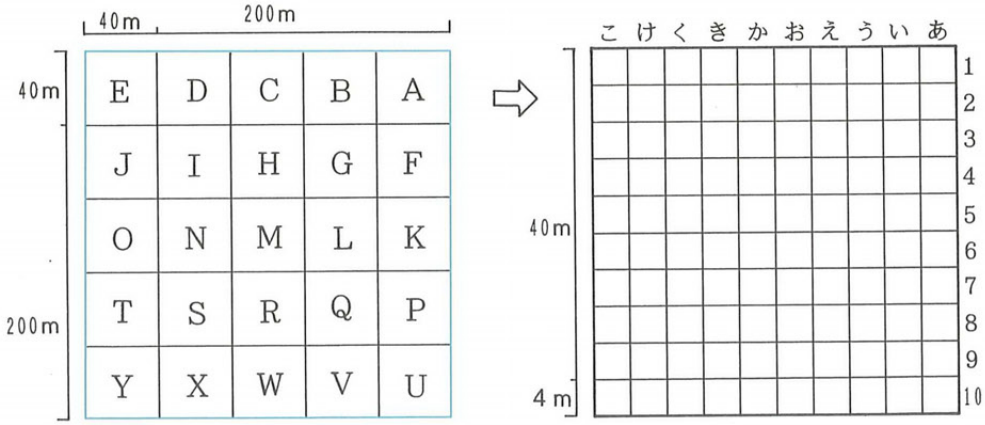
第Ⅰ層　暗褐色土層(10YR3/3)
耕作土。
第Ⅱ層　にぶい黄褐色土層(10YR5/4)
第Ⅲ層　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)
第Ⅳ層　黒色土層(10YR2/1)
遺物包含層。
第Ⅴ層　褐色土層(10YR4/4)
第Ⅵ層　黒褐色土層(10YR2/3)
第Ⅶ層　明黄褐色土層(10YR7/6)
浅間第一軽石流二次堆積。

第５図　基本層序模式図

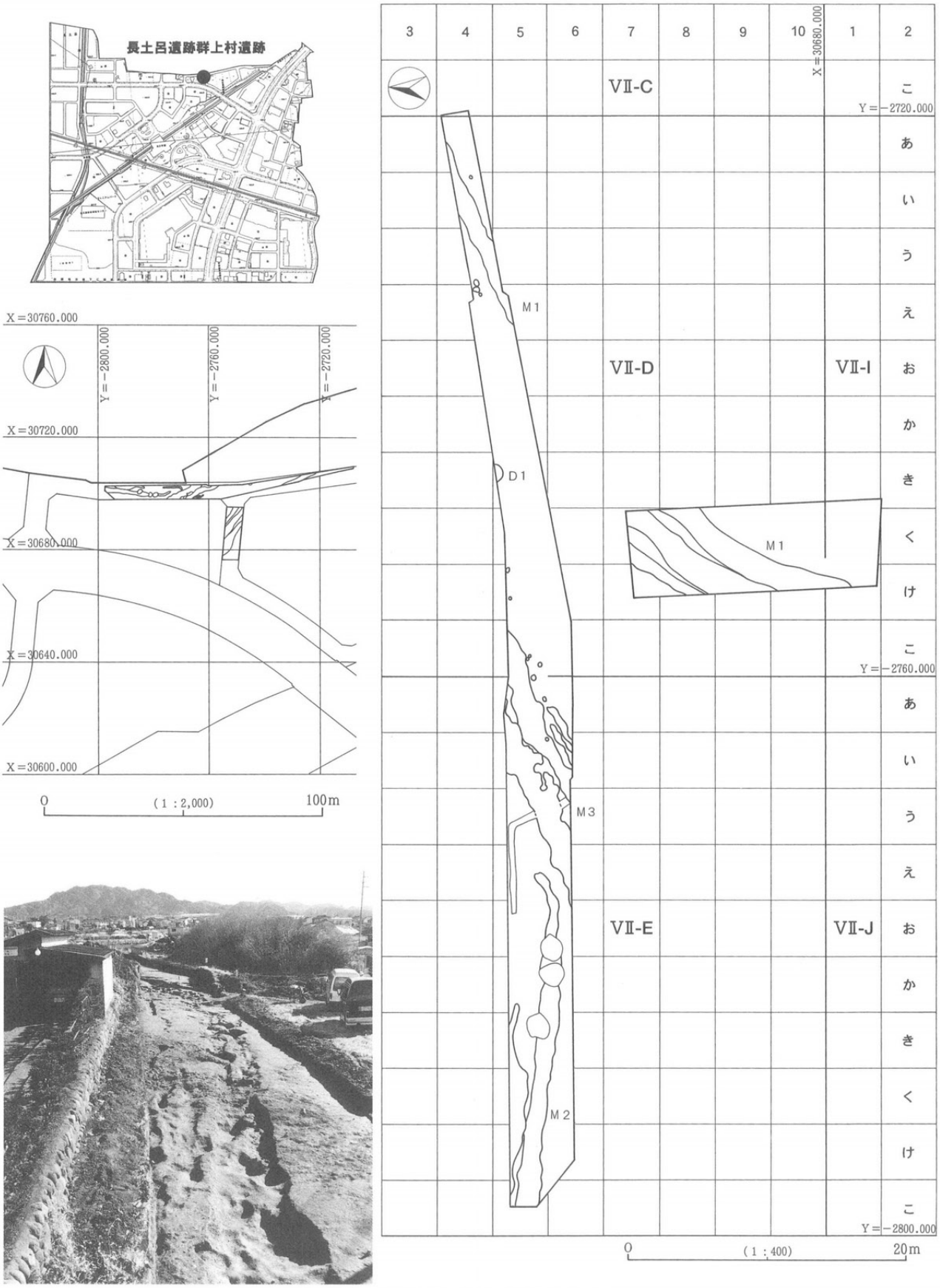
直路遺跡Ｈ５・６・８・16号住居址において、左写真に示したように地盤のズレが確認され、Ｈ８号住居址の西壁を例示した。浅間第一軽石流が水平方向にズレている状況が窺える。この地盤のズレは直路遺跡の南東約350ｍの円正坊遺跡Ⅰ～Ⅴにおいても確認されており、いずれも台地の縁辺部に位置する遺跡である。円正坊遺跡Ⅳでは弥生時代から古墳時代後期の竪穴住居址においてみられるものの、平安時代の竪穴住居址ではこの現象はみられていない。

以上から、平安時代以前に低地に臨む台地の縁辺部においておきた現象であると考えられる。


Y＝－3400.000
Y＝－3200.000
Y＝－3000.000
Y＝－2800.000
Y＝－2600.000
X＝30920.000
X＝30720.000
X＝30520.000
X＝30320.000
X＝30120.000
X＝29920.000
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ
Ⅵ
Ⅶ
Ⅷ
Ⅸ
Ⅹ
Ⅺ
Ⅻ
XIII
XIV
XV
XVI
XVII
XVIII
XIX
XX
XXI
XXII
XXIII
XXIV
XXV
佐久市
佐久平駅
ミレニアムパーク
佐久勤労者福祉センター
主要地方道下仁田浅


40m
200m
40m
200m
E D C B A
J I H G F
O N M L K
T S R Q P
Y X W V U
こ け く き か お え う い あ
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
40m
4m

第６図　グリッド設定図



第７図　長土呂遺跡群上村遺跡全体図

第Ⅱ章　長土呂遺跡群上村遺跡

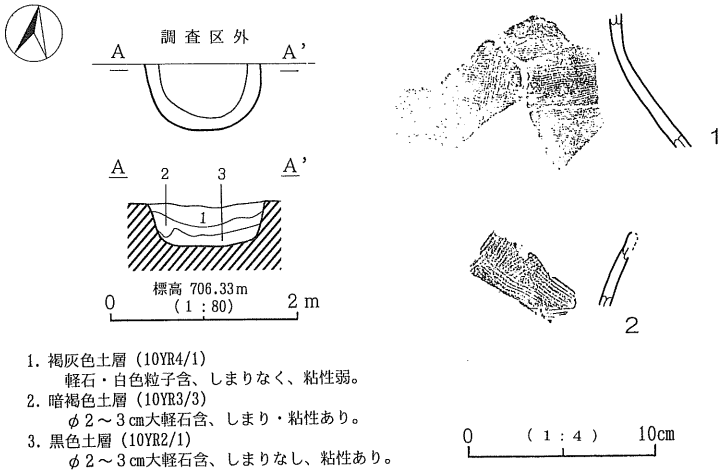
第１節　土　坑

Ｄ１号土坑（第８図、図版４）

調査区中央東側Ⅶ－Ｄ－き－５グリッドで検出された。他遺構との重複関係はないものの、北半部は調査区外であるため、規模・形状は不明であるが、径1.2m前後の円形を呈するものと考えられる。確認面からの深さは38cmを測り、覆土は３層からなる。底面は平坦である。

遺物は弥生土器壺（１）、甕（２）を図示した。

１は頸部に櫛描Ｔ字文が施文される壺であり、２は櫛描簾状文・羽状文が施文される甕の口縁部片である。この他、赤色塗彩された壺の胴部片、櫛描波状文の甕がある。



1. 褐灰色土層（10YR4/1）
　軽石・白色粒子含、しまりなく、粘性弱。
2. 暗褐色土層（10YR3/3）
　φ２～３cm大軽石含、しまり・粘性あり。
3. 黒色土層（10YR2/1）
　φ２～３cm大軽石含、しまりなし、粘性あり。

第８図　Ｄ１号土坑

第２節　溝　址

Ｍ１号溝址（第９図、図版４・５）

調査区東側Ⅶ－Ｄ－あ－４グリッドからえ－５グリッドにかけて検出され、調査区内13.6ｍについて調査を行った。他遺構との重複関係はない。幅１.１～１.４ｍ、深さ30～74cmを計測する。東から西に向かって傾斜しており、比高差は40cmを測る。覆土は７層からなり、底面には砂が堆積していることから流路と考えられる。

遺物は弥生土器７点（１～７）を図示した。

１は蓋、２・３は鉢である。２・３は内面に赤色塗彩が施されており、同一個体であると考えられる。

Ｍ２号溝址（第９図、図版４・５）

調査区西側Ⅶ－Ｅ－え－５グリッドからこ－５グリッドにかけて検出された。東西方向に延びる溝で、一部攪乱により破壊される。検出長24.4m、幅60cm～１.６mを計測する。深さは東端部が最も浅く６cmで西端部で45cmを測り、東から西に向かって傾斜している。覆土は２層からなり、砂の堆積がみられることから流路と考えられる。

遺物は須恵器１点の他、古銭、石器、銅釧を図示した。

９は「元豊通寶」（初鋳年1078年）で書体は行書である。10は磨製石鏃である。11は銅釧で幅１.２cmを測るが、小片のため径は不明である。

Ｍ３号溝址（第10図、図版４・５）

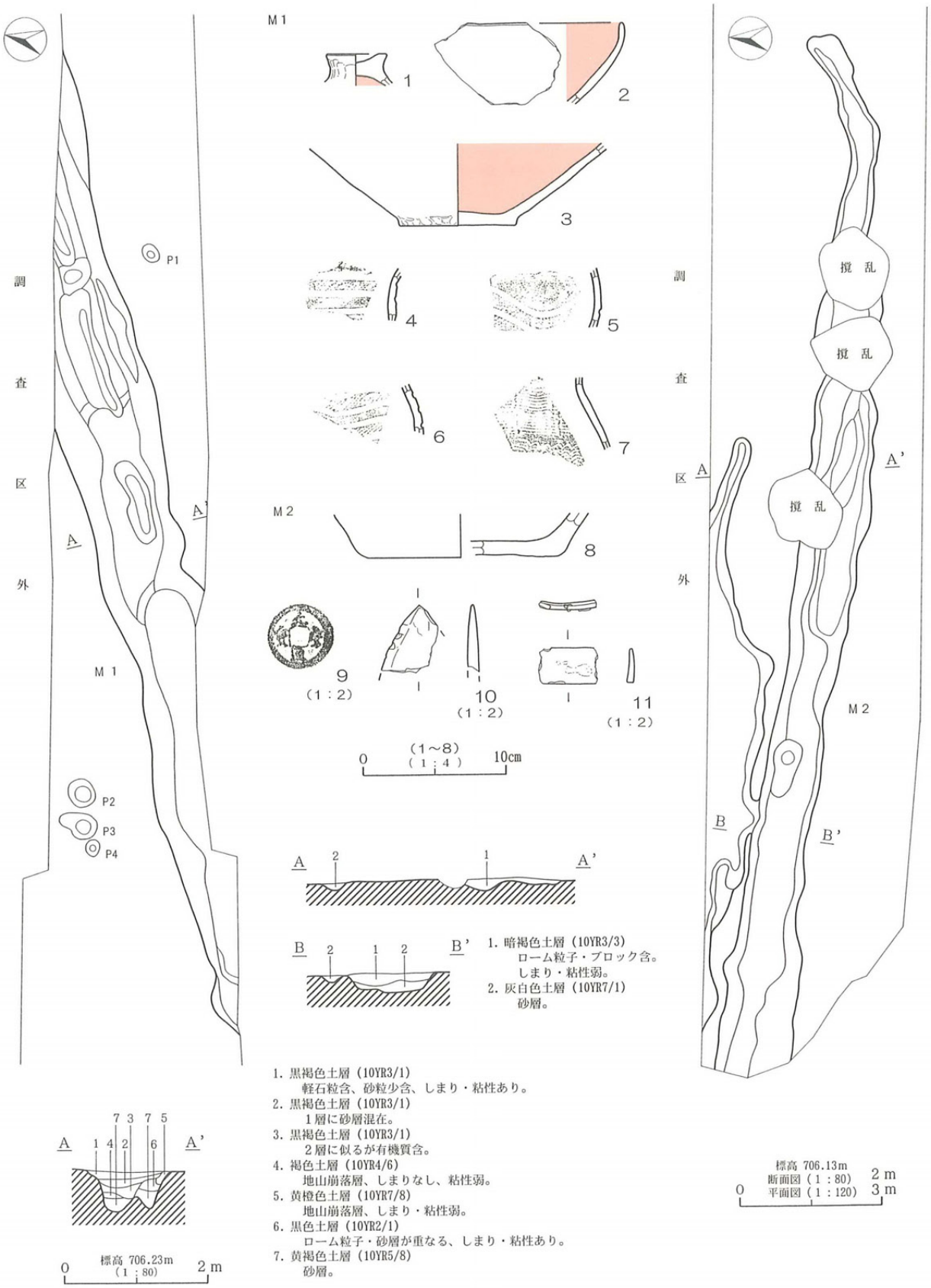
調査区中央付近Ⅶ－Ｄ－こ－５グリッドからⅦ－Ｅ－え－６グリッドにかけて検出された。調査区内を北東方向から南西方向に向かって延びる溝で、一部暗渠により破壊される。検出長13m、幅4.8m、深さ20～80cm内外を測る。覆土は４層からなり一部砂の堆積がみられ、底面も凹凸の激しい状態であることから流路と考えられる。

遺物は小皿（１～３）、土鍋（４・５）、甕（６）、瓶子（７）、瓦塔（８）、石器（９～16）を図示した。

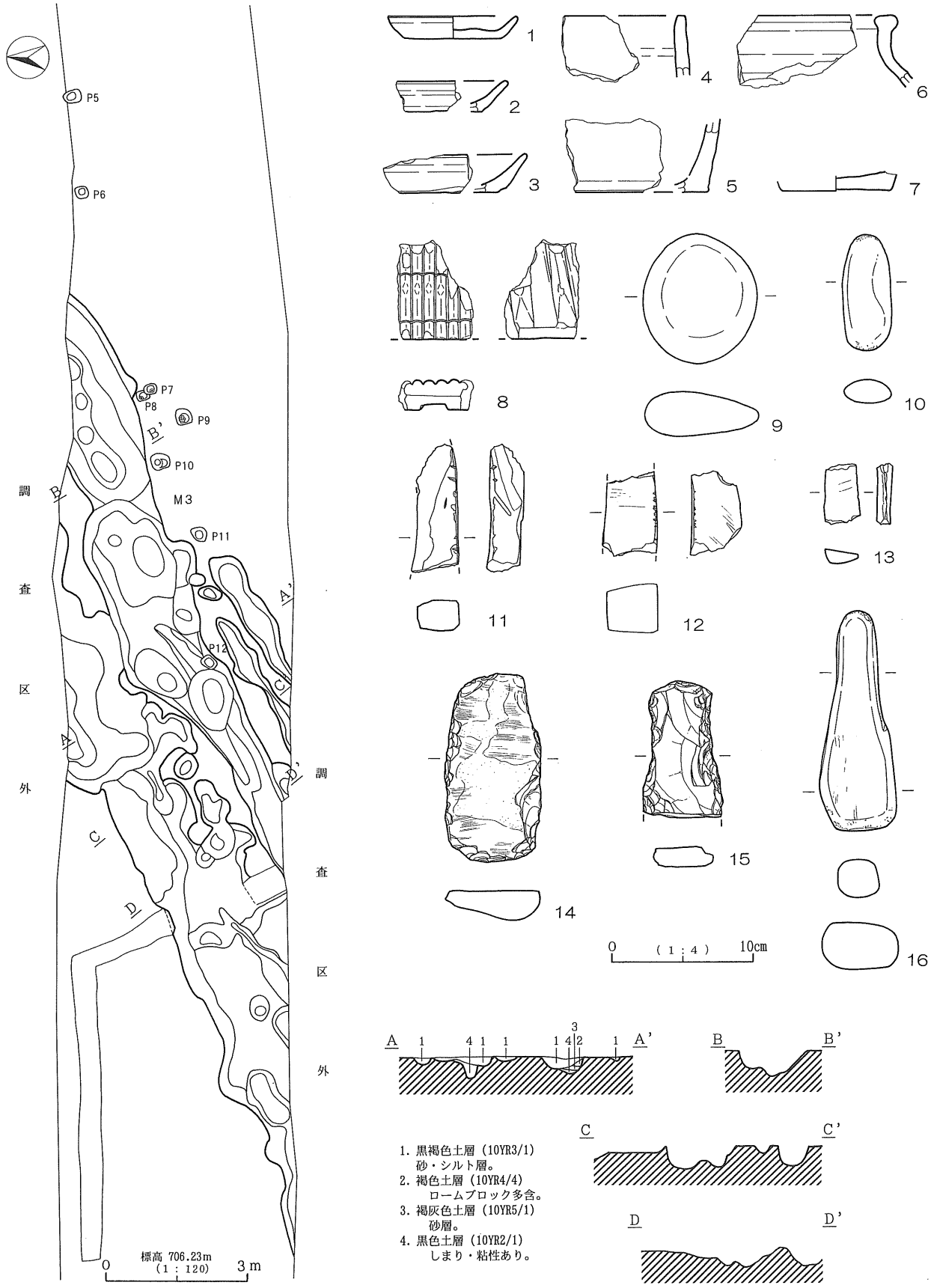
１～３はロクロナデによる土師質土器小皿であり、ロクロからの切り離し方法は回転糸切りである。４・５は土鍋片で、４は口唇部に面取りが施される。７は瀬戸瓶子の底部である。

８は瓦塔の屋蓋部であり、表面に丸瓦、裏面に垂木が表現されている。

11～13は砥石であり、11・12は４面が使用されている。石斧には14・15がある。14は擦面がみられるが、製作途中で放棄されたものであろう。



第9図　M1・2号溝址、ピット



第10図　Ｍ３号溝址、ピット

第２表　Ｍ１～３号溝址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	蓋	4.0	－	〈2.0〉	ナデ	赤色塗彩	Ｍ１
2	鉢	－	－	〈5.6〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ、赤色塗彩	Ｍ１
3	鉢	－	(8.0)	〈5.3〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ、赤色塗彩	Ｍ１
8	壺	－	(12.0)	〈3.0〉	ナデ	ナデ	Ｍ２
9	元豊通寶	2.3	－	－			Ｍ２、3.2g
10	磨製石鏃	1.5	2.6	0.4			Ｍ２
11	銅釧	2.0	1.2	0.2			Ｍ２
1	小皿	9.0	6.8	1.6	ロクロナデ	ロクロナデ	Ｍ３
2	小皿	－	－	〈2.2〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ｍ３
3	小皿	－	－	〈2.7〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ｍ３
4	土鍋	－	－	〈4.2〉	ナデ、口唇部面取り	ナデ	Ｍ３
5	土鍋	－	－	〈5.2〉	ナデ	ナデ	Ｍ３
6	甕	－	－	〈4.5〉			Ｍ３
7	瓶子	－	7.8	〈1.2〉			Ｍ３
8	瓦塔	－	－	－			Ｍ３
9	擦石・敲石	9.1	8.2	3.2			Ｍ３、315g
10	敲石	8.1	3.6	2.0			Ｍ３、75g
11	砥石	9.0	3.4	2.4			Ｍ３、84.6g
12	砥石	5.9	3.9	3.5			Ｍ３、100.2g
13	砥石	4.2	2.7	1.1			Ｍ３、15g
14	打製石斧	13.3	6.8	2.2	未製品		Ｍ３、300g
15	打製石斧	9.7	5.7	1.6			Ｍ３、128g
16	擦石・敲石	15.6	5.5	3.1			Ｍ３、311g

第３節　ピット（第９・10図）

単独ピットは調査区東側Ｍ１号溝址付近で４基、調査区中央Ｍ３号溝址付近で５基の12基が検出された。規模は径10～40cm、深さ5～30cm前後を測る。各ピットからの出土遺物はないが、Ｐ９内底面より10cm前後の礫が５個まとまった状態で出土している。

各ピットの検出位置・規模等については、ピット一覧表に記した。

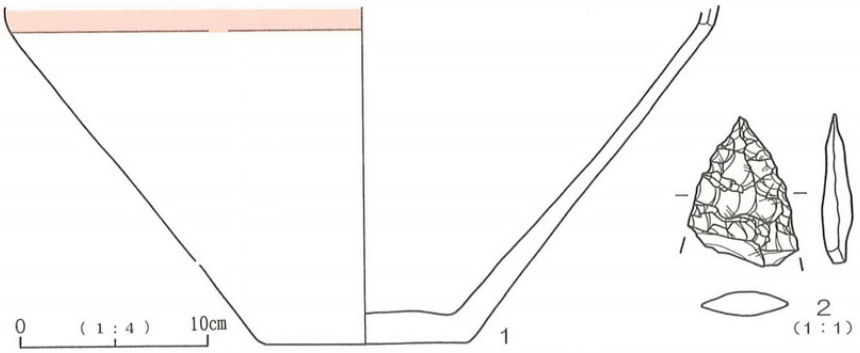
第３表　ピット一覧表

No	検出位置	規模(cm)		備考	No	検出位置	規模(cm)		備考
		径	深さ				径	深さ	
1	Ⅶ－Ｄ－い－４	14×12	10		7	Ⅶ－Ｄ－こ－５	28×21	28	Ｐ８を切る
2	Ⅶ－Ｄ－う－４	20×18	7		8	Ⅶ－Ｄ－こ－５	24×22	28	Ｐ７に切られる
3	Ⅶ－Ｄ－え－４	27×18	6		9	Ⅶ－Ｄ－こ－５	36×33	32	
4	Ⅶ－Ｄ－え－４	12×10	5		10	Ⅶ－Ｅ－あ－５	41×38	21	
5	Ⅶ－Ｄ－け－５	36×27	11		11	Ⅶ－Ｅ－あ－５	35×30	30	
6	Ⅶ－Ｄ－け－５	25×24	18		12	Ⅶ－Ｅ－い－５	32×26	20	Ｍ３を切る

第４節　遺構外出土遺物（第11図、図版５）

遺構外出土遺物として壺（１）、打製石鏃（２）を図示した。

１は調査区西端部、Ⅶ－Ｅ－け－６グリッドから出土した壺で、胴部上半は赤色塗彩され、下半はヘラミガキが行われる。内面は剥離が著しい。２は黒曜石製の打製石鏃である。この他、土師器・須恵器の小片が出土している。



第11図　遺構外出土遺物

第４表　遺構外出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	－	10.7	〈17.8〉	ヘラミガキ、胴上半赤色塗彩	剥離	
2	打製石鏃	2.0	1.4	0.4	基部欠損		0.8g

第12図　長土呂遺跡群上前田遺跡全体図

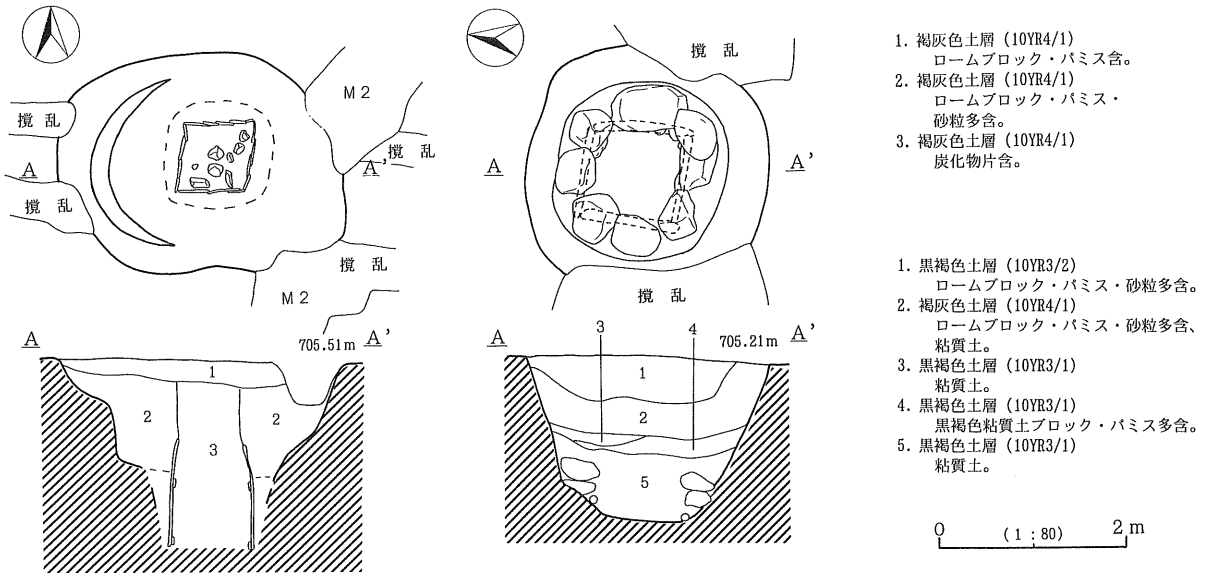
第Ⅲ章　長土呂遺跡群上前田遺跡

第１節　土　坑（第13～15図、図版６～11）

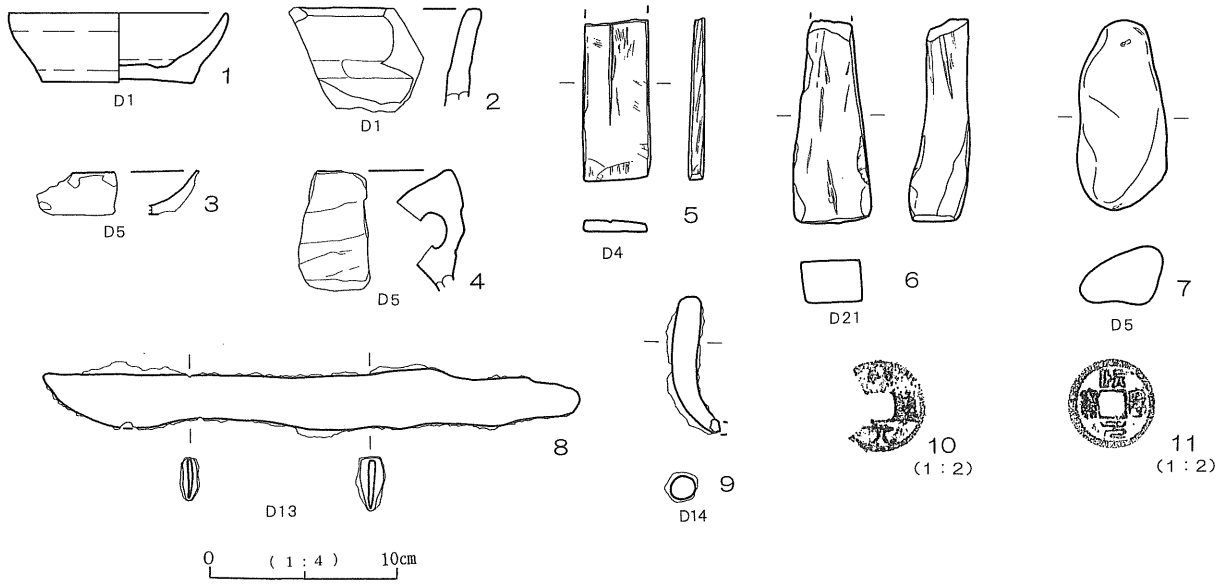
上前田遺跡で検出された土坑は25基を数え、調査区のほぼ全面から検出された。そのうちＤ１号土坑・Ｄ５号土坑は井戸址である。本遺跡の北方に長土呂館跡が存在しており、これに関連した遺構であると思われる。

土坑内から出土した遺物には皿・内耳土器・石器・鉄製品・古銭がある。１・２はＤ１号土坑、３・４・７はＤ５号土坑からの出土である。５・６は砥石でＤ４号土坑・Ｄ21号土坑からの出土であり、６は４面が使用されている。８はＤ13号土坑から出土した小柄で全長28.５cmを測る。10は「開元通寶」（初鋳年960年・真書）、11は「熙寧元寶」（1068年・篆書）でＤ14号土坑、Ｄ21号土坑からの出土である。

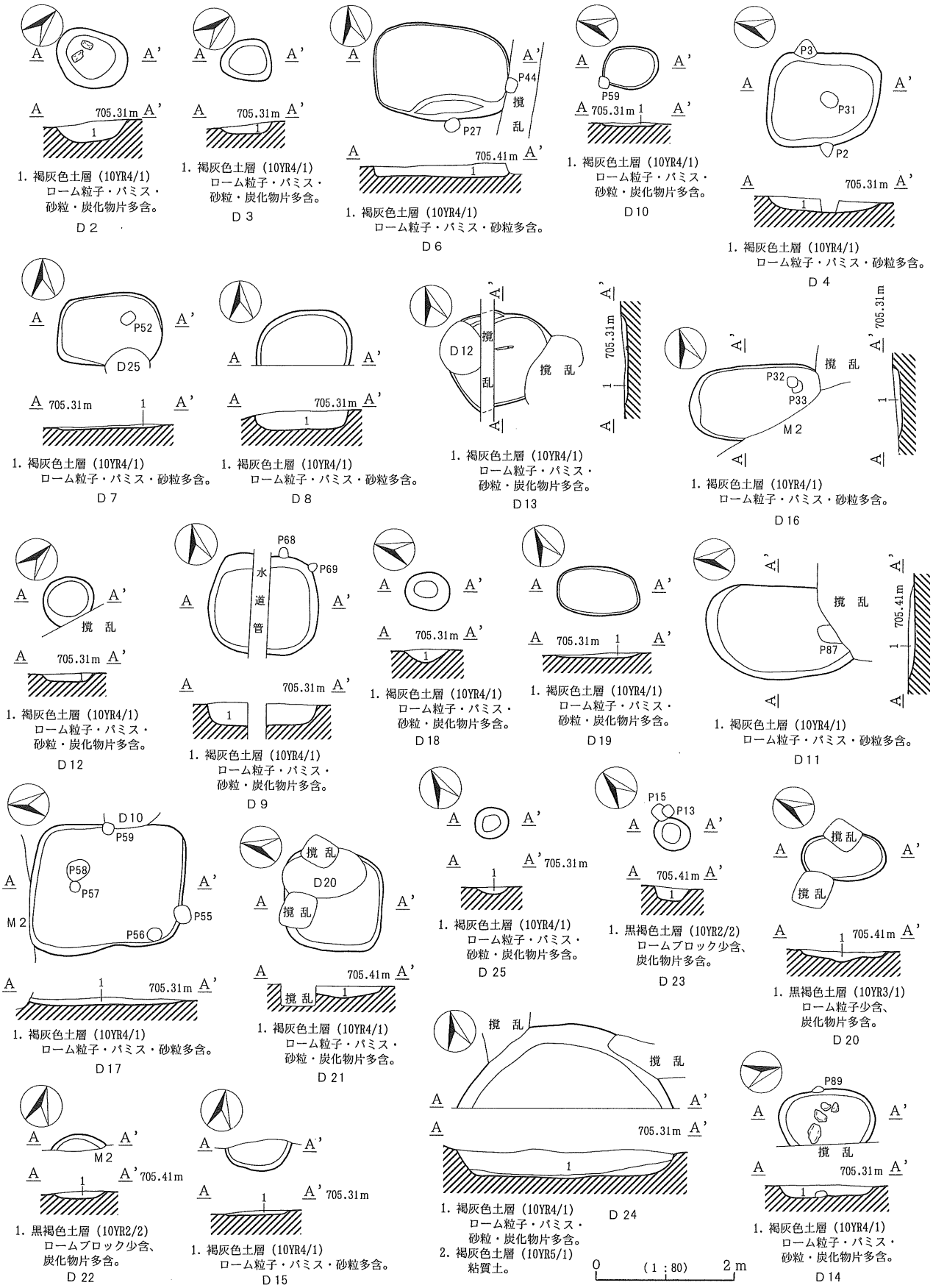
各土坑の規模・形態等については土坑一覧表に記した。



第13図　Ｄ１・５号土坑



第14図　土坑内出土遺物



第15図　D２～４・６～25号土坑

第5表　土坑内出土遺物観察表

No	器　種	法　量			成　形　・　調　整　・　文　様		備　考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外　面	内　面	
1	小皿	(11.6)	(8.0)	3.7	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	D1
2	土鍋	−	−	〈4.7〉	ナデ、口唇部面取り	ナデ	D1
3	小皿	−	−	2.2	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	D5
4	土鍋	−	−	〈5.7〉	ナデ、口唇部面取り	ナデ、耳部貼り付け	D5
5	砥石	8.6	3.5	0.8			D4、39g
6	砥石	10.6	4.1	2.9			D21、172g
7	擦石・敲石	10.0	5.8	3.2			D5、215g
8	小柄	28.4	3.6	2.3			D13
9	鉄製品	3.6	0.9	0.7			D14
10	開元通寶	2.4	−	−			D14、1.2g
11	熙寧元寶	2.4	−	−			D21、3.0g

第6表　土坑一覧表

No	検出位置	平面形態	規　模(cm)			長軸方向	備　考
			長軸長	短軸長	深さ		
D1	Ⅶ−J−き−2	楕円形	310	230	−	N−90°	井戸址、M2・撹乱に切られる。
D2	Ⅷ−F−あ−2	楕円形	105	88	33	N−69°−E	
D3	Ⅷ−F−あ−2	楕円形	73	60	15	N−35°−E	
D4	Ⅷ−F−あ−2	隅丸長方形	163	128	25	N−15°−W	P2・3・31に切られる。
D5	Ⅷ−F−あ−3	円　形	260	−	198	−	井戸址、撹乱に切られる。
D6	Ⅶ−J−け−2	隅丸長方形	195	140	25	N−81°−W	P27・44に切られる。
D7	Ⅶ−J−こ−4	隅丸長方形	150	100	7	N−85°−E	D25、P52に切られる。
D8	Ⅶ−J−こ−4	−	140	−	17	−	南半部調査区外。
D9	Ⅶ−J−け−4	隅丸方形	160	150	36	N−71°−W	P68・69、撹乱に切られる。
D10	Ⅶ−J−こ−4	楕円形	83	65	5	N−9°−W	D17を切る。P59に切られる。
D11	Ⅶ−J−く−4	楕円形	−	134	11	−	P87、撹乱に切られる。
D12	Ⅶ−J−け−4	円　形	76	−	17	N−10°−E	D13を切る。撹乱に切られる。
D13	Ⅶ−J−け−4	隅丸方形	150	140	10	N−73°−E	D12、撹乱に切られる。
D14	Ⅶ−J−く−4	楕円形	135	−	18	N−13°−E	P89、撹乱に切られる。
D15	Ⅶ−J−こ−3	(円　形)	−	−	4	−	M2に切られる。
D16	Ⅶ−J−こ−3	楕円形	−	−	15	−	M2、P32・33、撹乱に切られる。
D17	Ⅶ−J−こ−4	隅丸長方形	220	175	9	N−5°−W	D10、M2、P55〜59に切られる。
D18	Ⅶ−J−く−2	楕円形	65	55	20	N−9°−W	
D19	Ⅶ−J−け−2	楕円形	117	70	13	N−60°−W	
D20	Ⅶ−J−け−3	楕円形	125	80	17	N−25°−W	D21を切る。撹乱に切られる。
D21	Ⅶ−J−け−4	隅丸方形	140	135	21	N−11°−W	D20、撹乱に切られる。
D22	Ⅶ−J−く−3	−	−	−	11	−	M2に切られる。
D23	Ⅷ−F−あ−3	楕円形	53	45	28	N−32°−W	P13・15に切られる。
D24	Ⅶ−J−く−5	(円　形)	−	−	38	−	撹乱に切られる。南側調査区外。
D25	Ⅶ−J−こ−4	楕円形	50	40	14	N−47°−W	D7を切る。

D1号土坑（第13・14図、図版6・11）

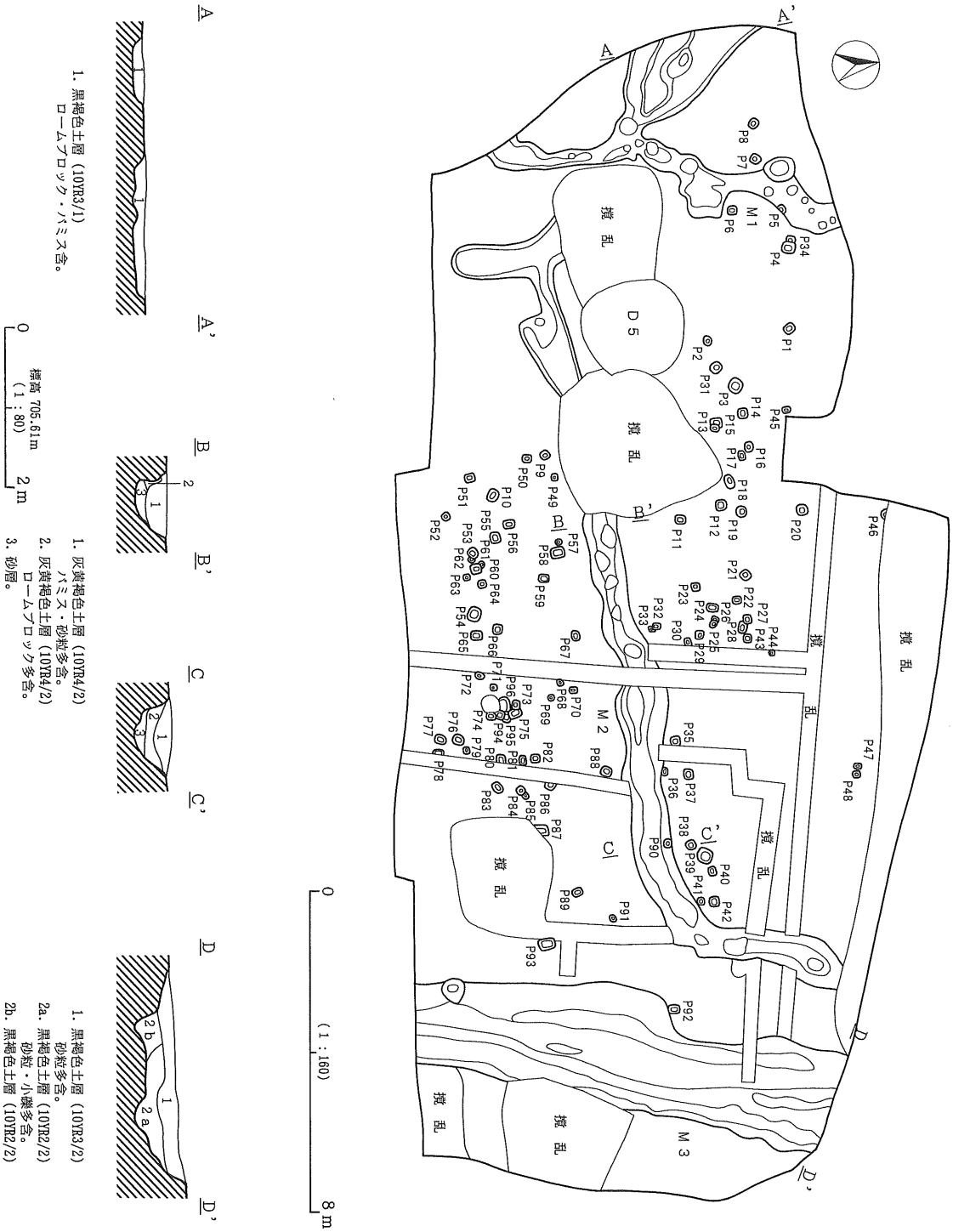
調査区北東部Ⅶ−J−き−2グリッドから検出された井戸址である。東側上部をM2号溝址に切られ、東西に撹乱による破壊を受ける。長軸長3.1m×短軸長2.3mの楕円形の掘り方内に、板材の木枠が約70cmの方形に組まれている。底面は湧水のため不明である。木枠内には3層が堆積している。

遺物は小皿(1)・土鍋片(2)を図示した。1のロクロからの切り離し方法は回転糸切りである。

D5号土坑（第13・14図、図版7・11）

調査区西側Ⅷ−F−あ−3グリッドから検出された井戸址である。東及び西側上面に撹乱による破壊を受ける。径2.6mの円形の掘り方底面に径10cm前後の丸太材を方形に組んだ後、2段の石積みが円形に組まれる。石積みは内径90cm、高さ40cm前後を測り、石材には軽石と安山岩が用いられている。

遺物は小皿(3)・土鍋片(4)・石器(7)を図示した。3の小皿は外面の剥離が著しいが、ロクロからの切り離し方法は回転糸切りである。



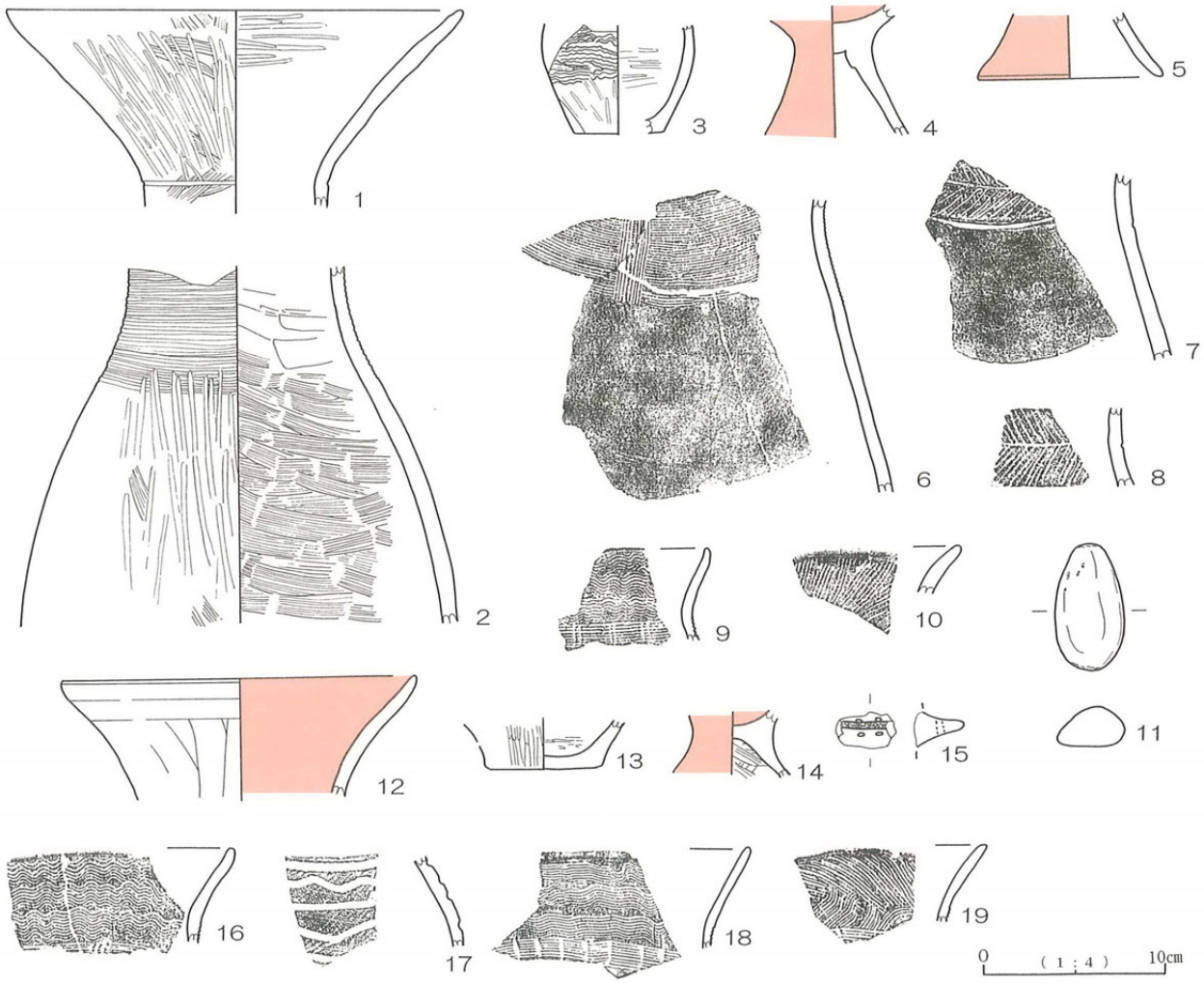
第16図　Ｍ１～３号溝址、ピット

第2節　溝　址

M1号溝址（第16・17図、図版10・11）

調査区西側Ⅷ－F－い－2グリッドからい－4グリッドにかけて検出された。南北に延びる溝で、い－3グリッドで西方からの溝が合流する。検出長9m、幅40～80cm、深さ6～28cmを計測する。北から南に向かって傾斜しており、北端部と南端部の比高差は20cmを測る。覆土は黒褐色土層1層からなり、底面の状態から流路であると思われる。

遺物は弥生土器、石器が出土している。土器の器種には壺（1・2・6～8）、甕（3・9・10）、高坏（4・5）がある。壺の頸部文様には櫛描T字文の2・6と箆描による平行沈線の間に斜位の沈線を綾杉状に充填する7・8がある。甕には櫛描波状文の施文される3・9と斜走文の10がある。



第17図　M1～3号溝址出土遺物

第7表　M1～3号溝址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	25.2	－	〈10.8〉	ヘラミガキ、頸部箆描横線文	ヘラミガキ	M1
2	壺	－	－	〈19.4〉	ヘラミガキ、頸部櫛描横線文	ナデ、ハケメ	M1
3	甕	－	(4.8)	〈6.0〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	M1
4	高坏	－	－	〈7.1〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩	M1
5	高坏	－	(10.2)	〈3.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	M1
11	擦石・敲石	6.9	3.8	2.2			M1、79.7g
12	壺	(19.6)	－	〈6.7〉	ナデ	ヘラミガキ、赤色塗彩	M2
13	甕	－	(6.5)	〈2.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	M2
14	高坏	－	－	〈3.2〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩	M2
15	有孔鍔付土器	－	－	〈2.0〉	先端部縄文		M2

Ｍ２号溝址（第16・17図）

調査区北側Ⅶ－Ｊ－き－２グリッドから西側Ⅷ－Ｆ－い－４グリッドにかけて検出された。Ｄ１・15・16・17・22号土坑と重複関係にあるがいずれも本址の方が新しい。また、一部攪乱による破壊を受けている。検出長20.8m、幅60cmから１m内外、深さは東側で50cm前後であるが、西端部では約10cmと浅く、わずかに東から西に向かって傾斜している。覆土は３層からなり、底面に砂層の堆積が見られることから流路と考えられる。

遺物は弥生土器が出土しており、器種には壺（12）、甕（13・16）、高坏（14）がある。16は頸部に櫛描簾状文、口縁部に櫛描波状文の施文される甕である。

Ｍ３号溝址（第16・17図、図版10）

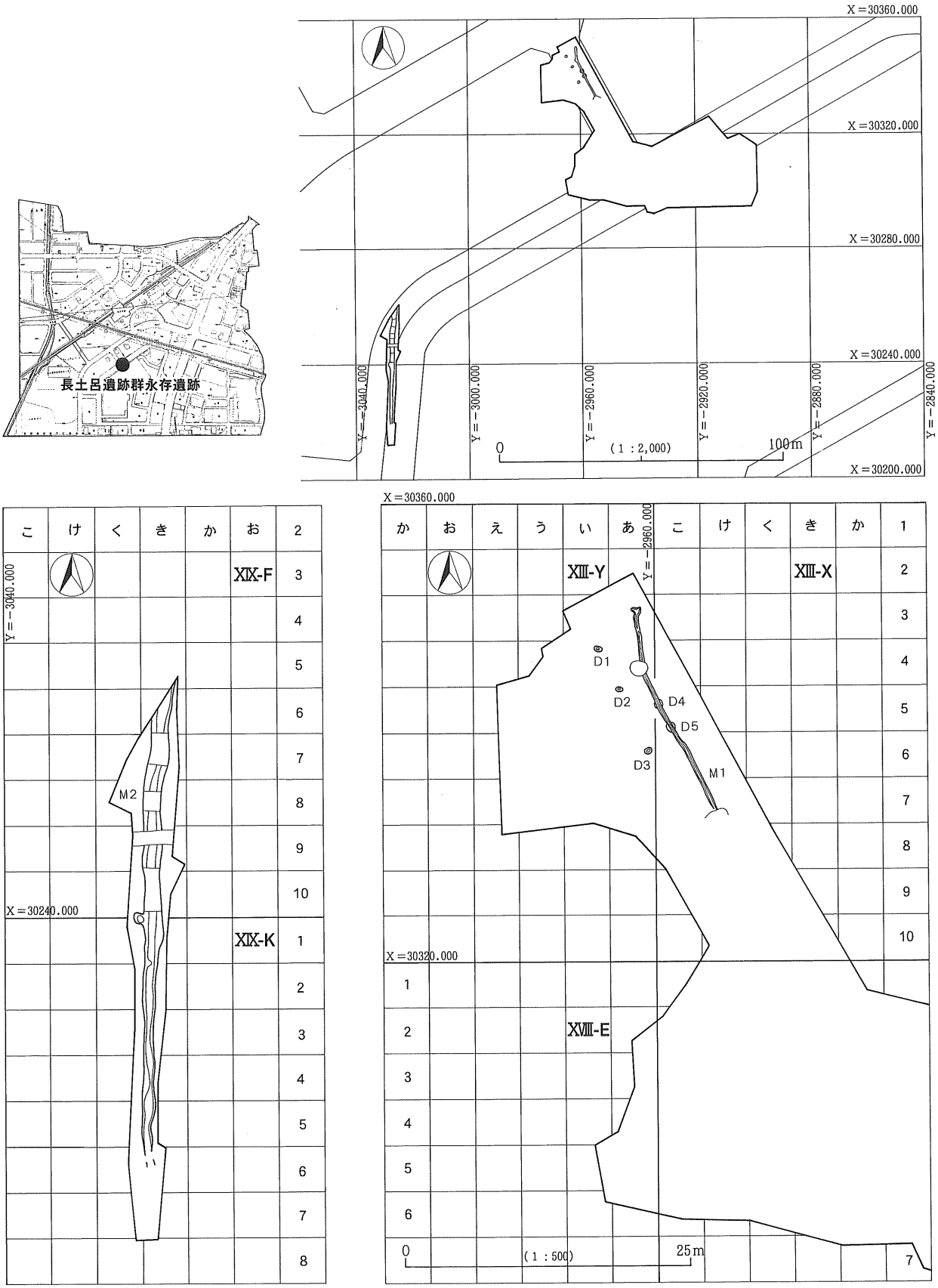
調査区東側Ⅶ－Ｊ－か－２グリッドからき－５グリッドにかけて検出された。調査区を南北に走る溝で、一部攪乱による破壊を受けている。検出長10.8m、幅２～３m、深さ58～77cmを計測する。北から南に向かって傾斜しており、北端部と南端部の比高差は20cmを測る。覆土は砂粒・小礫を含む２層からなり、底面の状態から流路と考えられる。遺物は弥生土器が出土している。18は櫛描簾状文と波状文、19は櫛描簾状文と羽状文の甕である。

第３節　ピット（第16図、図版10）

本遺跡からは総数で96基のピットが確認された。各ピットの検出位置・規模等についてはピット一覧表に記した。

第８表　ピット一覧表

No	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	備考	No	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	備考
1	Ⅷ－Ｆ－あ－２	22	8		49	Ⅶ－Ｊ－こ－４	14×12	10	
2	Ⅷ－Ｆ－い－１	18	12	Ｄ４を切る。	50	Ⅶ－Ｊ－こ－４	20×18	15	
3	Ⅷ－Ｆ－あ－２	32	21	Ｄ４を切る。	51	Ⅶ－Ｊ－こ－４	26×21	39	
4	Ⅷ－Ｆ－い－２	32	12	Ｐ34を切る。	52	Ⅶ－Ｊ－こ－４	22×17	19	Ｄ７を切る。
5	Ⅷ－Ｆ－い－２	24×16	8		53	Ⅶ－Ｊ－こ－４	28×24	35	Ｐ62を切る。
6	Ⅷ－Ｆ－い－２	22×17	4		54	Ⅶ－Ｊ－こ－４	34×31	33	
7	Ⅷ－Ｆ－い－２	24×16	4		55	Ⅶ－Ｊ－こ－４	27×21	10	Ｄ17を切る。
8	Ⅷ－Ｆ－い－２	20×16	4		56	Ⅶ－Ｊ－こ－４	23×17	11	Ｄ17を切る。
9	Ⅶ－Ｊ－こ－４	18×17	10		57	Ⅶ－Ｊ－こ－４	14×12	9	Ｄ17を切る。
10	Ⅶ－Ｊ－こ－４	28×22	27		58	Ⅶ－Ｊ－こ－４	33×27	12	Ｄ17を切る。
11	Ⅶ－Ｊ－こ－３	16	9		59	Ⅶ－Ｊ－こ－４	17×16	4	Ｄ10・17を切る。
12	Ⅶ－Ｊ－こ－３	24×22	50		60	Ⅶ－Ｊ－こ－４	24×23	27	Ｐ61を切る。
13	Ⅷ－Ｆ－い－１	20×－	25	Ｄ23を切る、Ｐ15に切られる。	61	Ⅶ－Ｊ－こ－４	14×－	10	Ｐ60に切られる。
14	Ⅷ－Ｆ－あ－２	22	18		62	Ⅶ－Ｊ－こ－４	22×－	11	Ｐ53に切られる。
15	Ⅷ－Ｆ－い－１	30×24	32	Ｄ23、Ｐ13を切る。	63	Ⅶ－Ｊ－こ－４	16×13	9	
16	Ⅶ－Ｊ－こ－２	22×20	19		64	Ⅶ－Ｊ－こ－４	15	10	
17	Ⅶ－Ｊ－こ－２	18×16	10		65	Ⅶ－Ｊ－け－４	23×20	32	
18	Ⅶ－Ｊ－こ－２	28×21	38		66	Ⅶ－Ｊ－け－４	21	29	
19	Ⅶ－Ｊ－こ－２	24×22	37		67	Ⅶ－Ｊ－け－４	18×15	14	
20	Ⅶ－Ｊ－こ－２	28×25	46		68	Ⅶ－Ｊ－け－４	15×14	4	Ｄ９を切る。
21	Ⅶ－Ｊ－こ－２	20	8		69	Ⅶ－Ｊ－け－４	12	12	Ｄ９を切る。
22	Ⅶ－Ｊ－け－２	18×17	27		70	Ⅶ－Ｊ－け－４	17×15	8	
23	Ⅶ－Ｊ－こ－１	22×20	39		71	Ⅶ－Ｊ－け－４	16	32	
24	Ⅶ－Ｊ－け－３	26×20	14		72	Ⅶ－Ｊ－け－４	14×13	14	
25	Ⅶ－Ｊ－け－３	－×16	26	Ｐ26に切られる。	73	Ⅶ－Ｊ－け－４	18×－	14	Ｐ75に切られる。
26	Ⅶ－Ｊ－け－３	18×14	27	Ｐ25を切る。	74	Ⅶ－Ｊ－け－４	18×－	17	Ｐ94を切る、攪乱に切られる。
27	Ⅶ－Ｊ－け－２	22×18	7	Ｄ６、Ｐ２８を切る。	75	Ⅶ－Ｊ－け－４	34×25	4	Ｐ73・95を切る。
28	Ⅶ－Ｊ－け－２	30×14	27	Ｐ27に切られる。	76	Ⅶ－Ｊ－け－４	26×18	12	
29	Ⅶ－Ｊ－け－３	18×15	17		77	Ⅶ－Ｊ－け－４	27×19	15	
30	Ⅶ－Ｊ－け－３	－×12	11	攪乱に切られる。	78	Ⅶ－Ｊ－け－４	21×15	13	攪乱に切られる。
31	Ⅷ－Ｆ－あ－２	25×20	44	Ｄ４を切る。	79	Ⅶ－Ｊ－け－４	14	5	
32	Ⅶ－Ｊ－け－３	17×15	10	Ｄ16、Ｐ33を切る。	80	Ⅶ－Ｊ－け－４	22×20	7	
33	Ⅶ－Ｊ－け－３	16	13	Ｄ16を切る、Ｐ33に切られる。	81	Ⅶ－Ｊ－け－４	22×15	5	
34	Ⅷ－Ｆ－い－２	22×－	10	Ｐ４に切られる。	82	Ⅶ－Ｊ－け－４	20×19	23	
35	Ⅶ－Ｊ－け－３	23×22	8		83	Ⅶ－Ｊ－く－４	28×20	6	
36	Ⅶ－Ｊ－く－３	15×12	8		84	Ⅶ－Ｊ－く－４	20	4	Ｐ85を切る。
37	Ⅶ－Ｊ－く－３	24×22	21		85	Ⅶ－Ｊ－く－４	12×－	5	Ｐ84に切られる。
38	Ⅶ－Ｊ－く－３	26×22	31		86	Ⅶ－Ｊ－く－４	22	4	
39	Ⅶ－Ｊ－く－３	36×33	5		87	Ⅶ－Ｊ－く－４	35×24	12	Ｄ11を切る、攪乱に切られる。
40	Ⅶ－Ｊ－く－３	18	10		88	Ⅶ－Ｊ－く－３	25×22	6	Ｍ２を切る。
41	Ⅶ－Ｊ－く－３	18×16	14		89	Ⅶ－Ｊ－く－４	14	7	Ｄ14を切る。
42	Ⅶ－Ｊ－く－３	22	17		90	Ⅶ－Ｊ－く－３	18×14	12	Ｍ２を切る。
43	Ⅶ－Ｊ－け－２	23×18	25		91	Ⅶ－Ｊ－く－３	18×14	12	
44	Ⅶ－Ｊ－け－２	20×－	6	Ｄ６を切る、攪乱に切られる。	92	Ⅶ－Ｊ－き－３	28×18	16	Ｍ３を切る。
45	Ⅷ－Ｆ－あ－２	16×15	15	攪乱に切られる。	93	Ⅶ－Ｊ－き－４	44×31	17	攪乱に切られる。
46	Ⅶ－Ｊ－こ－１	－	15		94	Ⅶ－Ｊ－け－４	28×23	13	Ｐ95・96を切る、Ｐ74、攪乱に切られる。
47	Ⅶ－Ｊ－く－２	18×14	9		95	Ⅶ－Ｊ－け－４	－	7	Ｐ75・94に切られる。
48	Ⅶ－Ｊ－く－２	16×15	10		96	Ⅶ－Ｊ－き－４	40×30	5	Ｐ94、攪乱に切られる。



第18図　長土呂遺跡群永存遺跡全体

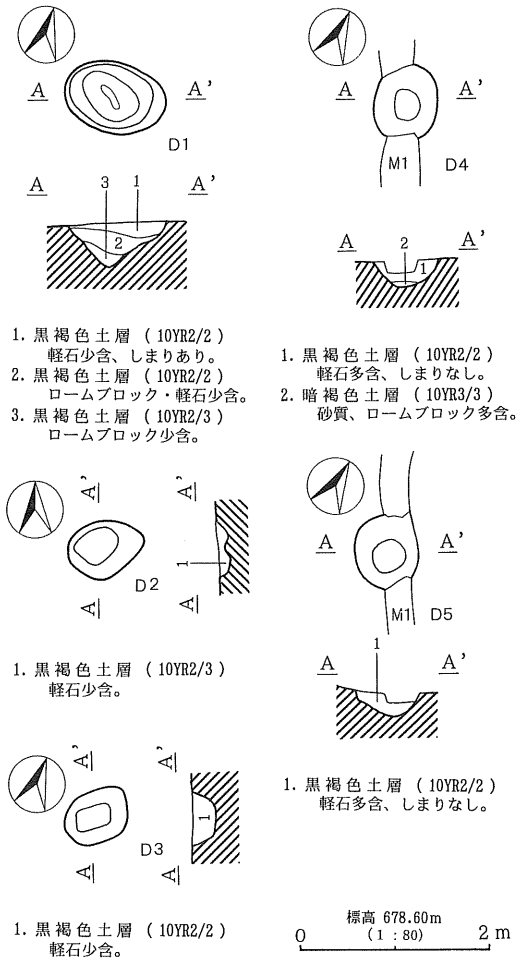
第Ⅳ章　長土呂遺跡群永存遺跡

第１節　土　坑（第19図、図版12）

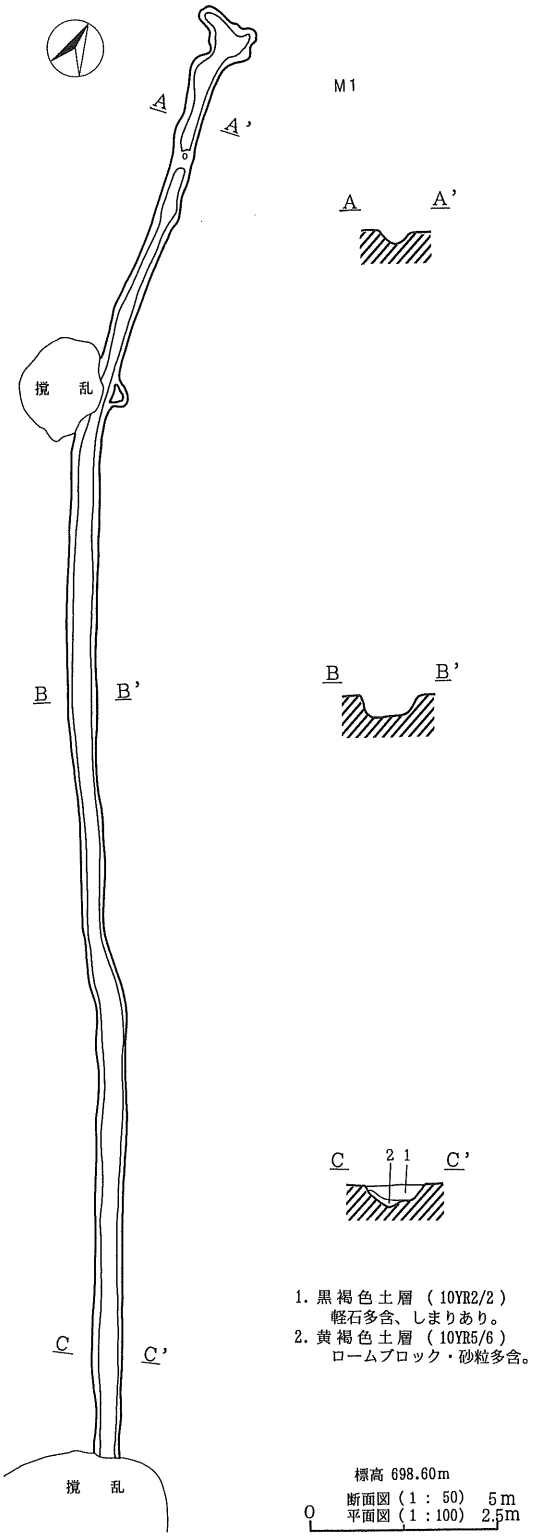
本遺跡からは５基の土坑が検出された。これらは調査区北端部XⅢ－Ｘ－こ－５グリッド及びXⅢ－Ｙ－あ・い－４～６グリッド付近、Ｍ１号溝址周辺より確認され、Ｄ４・５号土坑はＭ１号溝址に切られる。

各土坑の規模は、Ｄ１号土坑が長軸長1.13m×短軸長0.75m×深さ0.47m、長軸方位Ｎ－84°－Ｅ、Ｄ２号土坑が0.8m×0.58m×0.14m、Ｎ－74°－Ｅ、Ｄ３号土坑が0.69m×0.54m×0.25m、Ｎ－48°－Ｅ、Ｄ４号土坑が0.8m×0.7m×0.3m、Ｎ－28°－Ｗ、Ｄ５号土坑が0.8m×0.7m×0.27m、Ｎ－46°－Ｗを測り、楕円形の平面プランを呈する。覆土は黒褐色土層を基調とする。

いずれの土坑からも出土遺物はなく、時期・性格等については不明である。



第19図　Ｄ１～５号土坑



第20図　Ｍ１号溝址

第２節　溝　址

Ｍ１号溝址（第20図、図版12）

調査区北端部XIII－Ｙ－あ－３グリッドからXIII－Ｘ－け－７グリッドにかけて検出された。南北に延びる溝であり、Ｄ４・５号土坑を切る。また、南端部は撹乱による破壊を受けている。

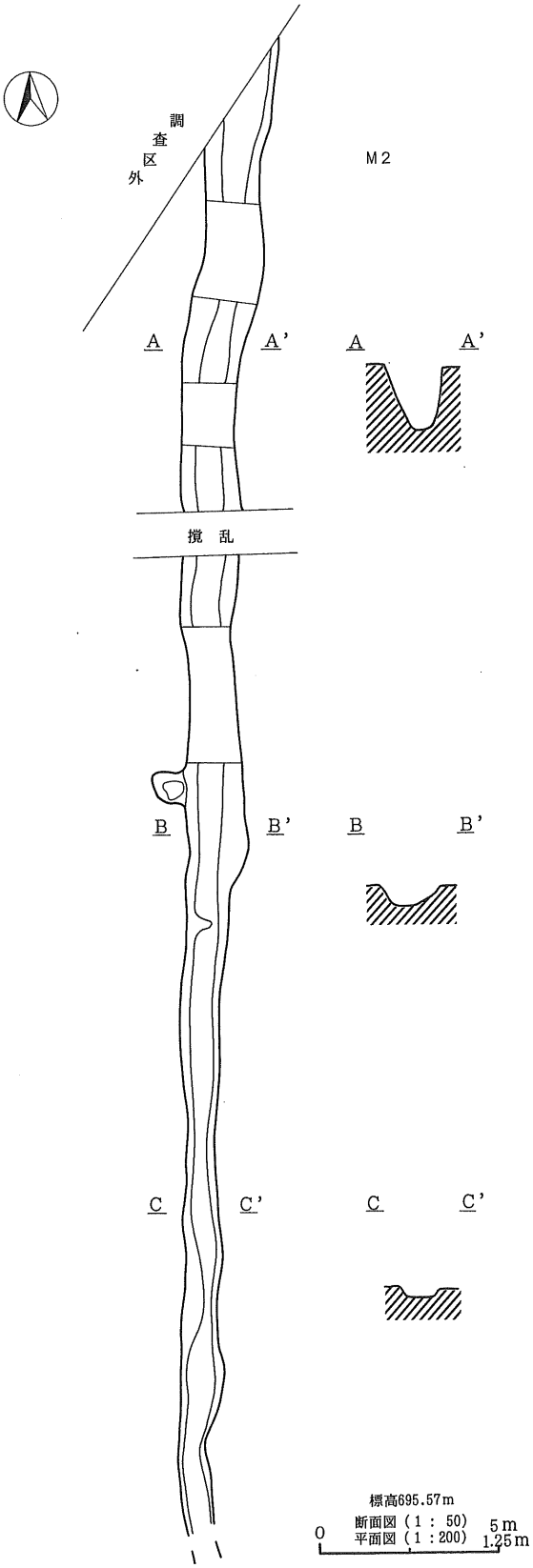
検出長19.2m、幅22～40cm、深さ３～15cmを測る。

出土遺物はなく性格は不明である。

Ｍ２号溝址（第21図、図版12）

西側調査区XIX－Ｆ－き－５グリッドからXIX－Ｋ－き－６グリッドにかけて検出された。北から南に向かって延びる溝であり、他遺構との重複関係はない。検出長41.6ｍ、幅60～165cmを計測する。深さは北端部で30cmを測るが南端部で消滅し、比高差は62cmを測る。

出土遺物はなく性格は不明である。



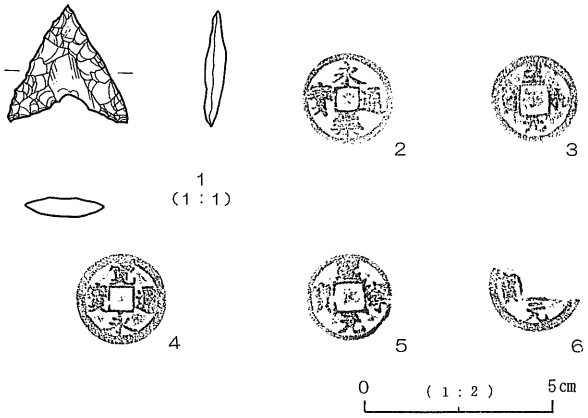
第21図　Ｍ２号溝址

第３節　遺構外出土遺物（第22図、図版12）

石鏃１点、古銭５点を図示した。

１はチャート製の打製石鏃である。

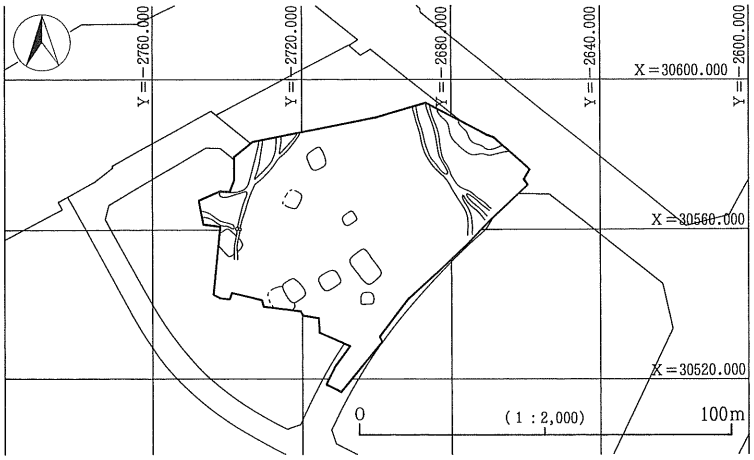
２は「永楽通寶」（初鋳年1408年・真書）、３は「至和元寶」（1054年・真書）、４は「寛永通寶」（1626年・真書）、５は「熙寧元寶」（1068年・真書）、６は欠損品であり銭貨名は不明であり、□□元寶と判読できるのみである。

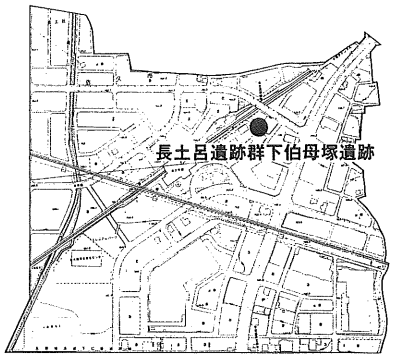


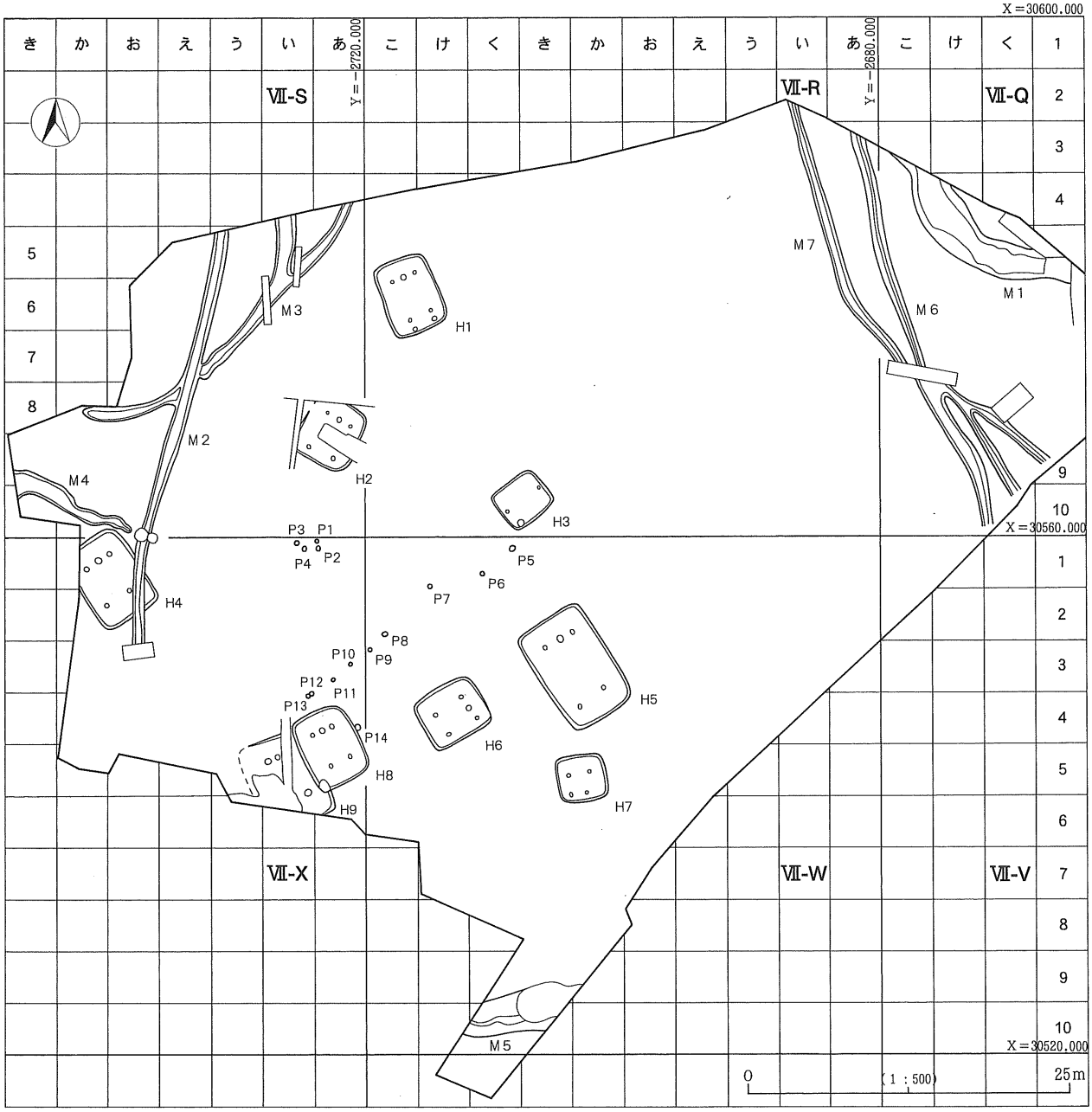
第22図　遺構外出土遺物

第９表　遺構外出土遺物観察表

No	器　種	法　量			備　考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	
1	打製石鏃	1.5	1.6	0.2	0.4ｇ
2	永楽通寶	2.5	－	－	3.1ｇ
3	至和元寶	2.4	－	－	2.8ｇ
4	寛永通寶	2.5	－	－	3.1ｇ
5	熙寧元寶	2.4	－	－	2.3ｇ
6	□□元寶	2.5	－	－	1.7ｇ





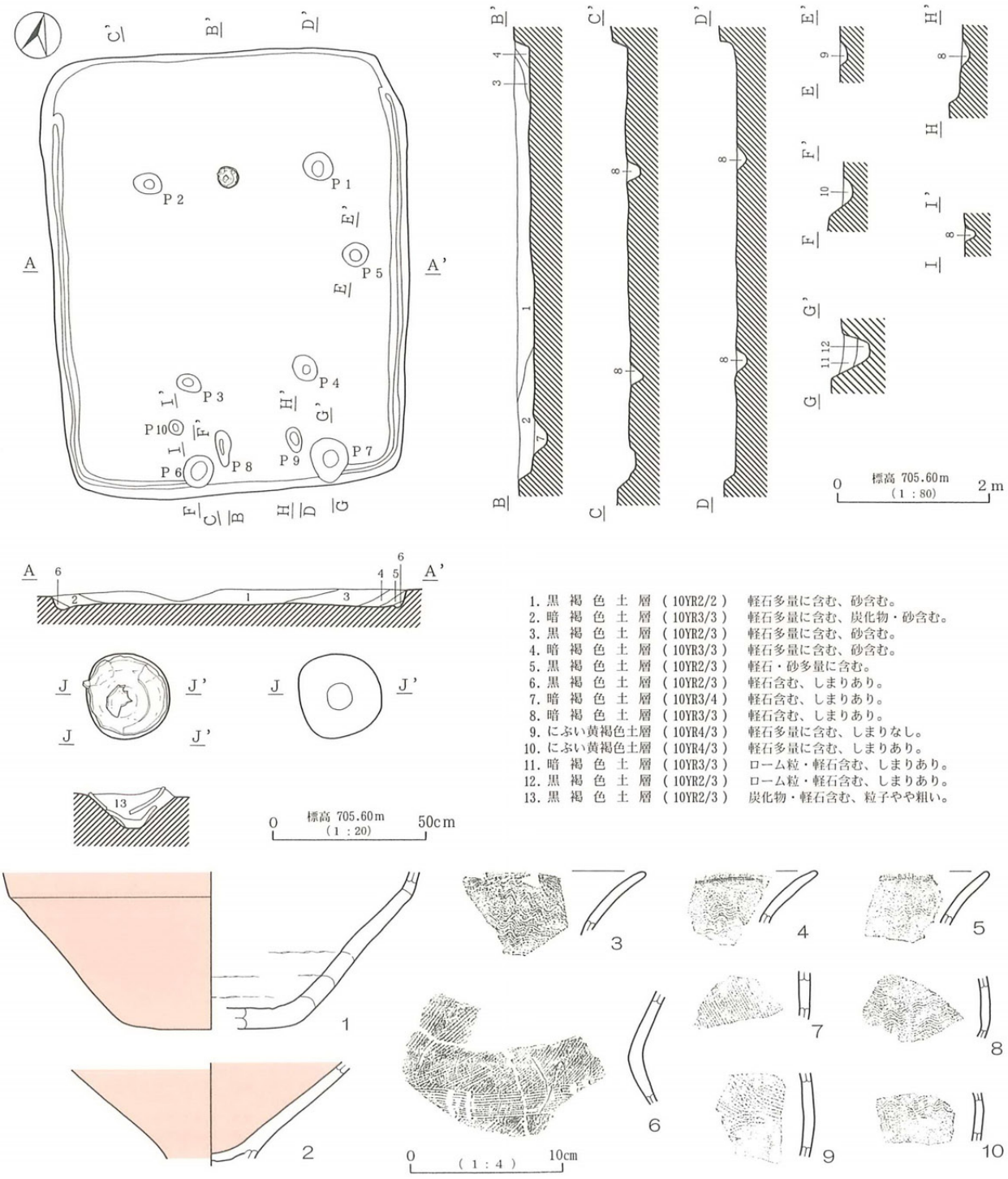


第23図　長土呂遺跡群下伯母塚遺跡全体図

第Ⅴ章　長土呂遺跡群下伯母塚遺跡

第１節　竪穴住居址

Ｈ１号住居址（第24図、図版14・20）



1. 黒褐色土層（10YR2/2）　軽石多量に含む、砂含む。
2. 暗褐色土層（10YR3/3）　軽石多量に含む、炭化物・砂含む。
3. 黒褐色土層（10YR2/3）　軽石多量に含む、砂含む。
4. 暗褐色土層（10YR3/3）　軽石多量に含む、砂含む。
5. 黒褐色土層（10YR2/3）　軽石・砂多量に含む。
6. 黒褐色土層（10YR2/3）　軽石含む、しまりあり。
7. 暗褐色土層（10YR3/4）　軽石含む、しまりあり。
8. 暗褐色土層（10YR3/3）　軽石含む、しまりあり。
9. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）　軽石多量に含む、しまりなし。
10. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）　軽石多量に含む、しまりあり。
11. 暗褐色土層（10YR3/3）　ローム粒・軽石含む、しまりあり。
12. 黒褐色土層（10YR2/3）　ローム粒・軽石含む、しまりあり。
13. 黒褐色土層（10YR2/3）　炭化物・軽石含む、粒子やや粗い。

第24図　Ｈ１号住居址

本住居址は調査区北側、Ⅶ－Ｒ－こ－６グリッドに位置する。他遺構との重複関係はない。南北5.48m、東西4.20mの隅丸長方形を呈し、壁残高13～22cm、床面積22.5m²を測る。長軸方位はＮ－17°－Ｗを示す。周溝は北壁と南壁中央を除いて壁下に巡る。覆土は１層黒褐色土層が主体を占め、自然堆積である。

ピットは９基が検出された。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴であり、17cm～22cmの深さを有する。Ｐ６～Ｐ９は南壁下中央に位置し、この部分で周溝が途切れていることから出入り口に関する柱穴と考えられる。

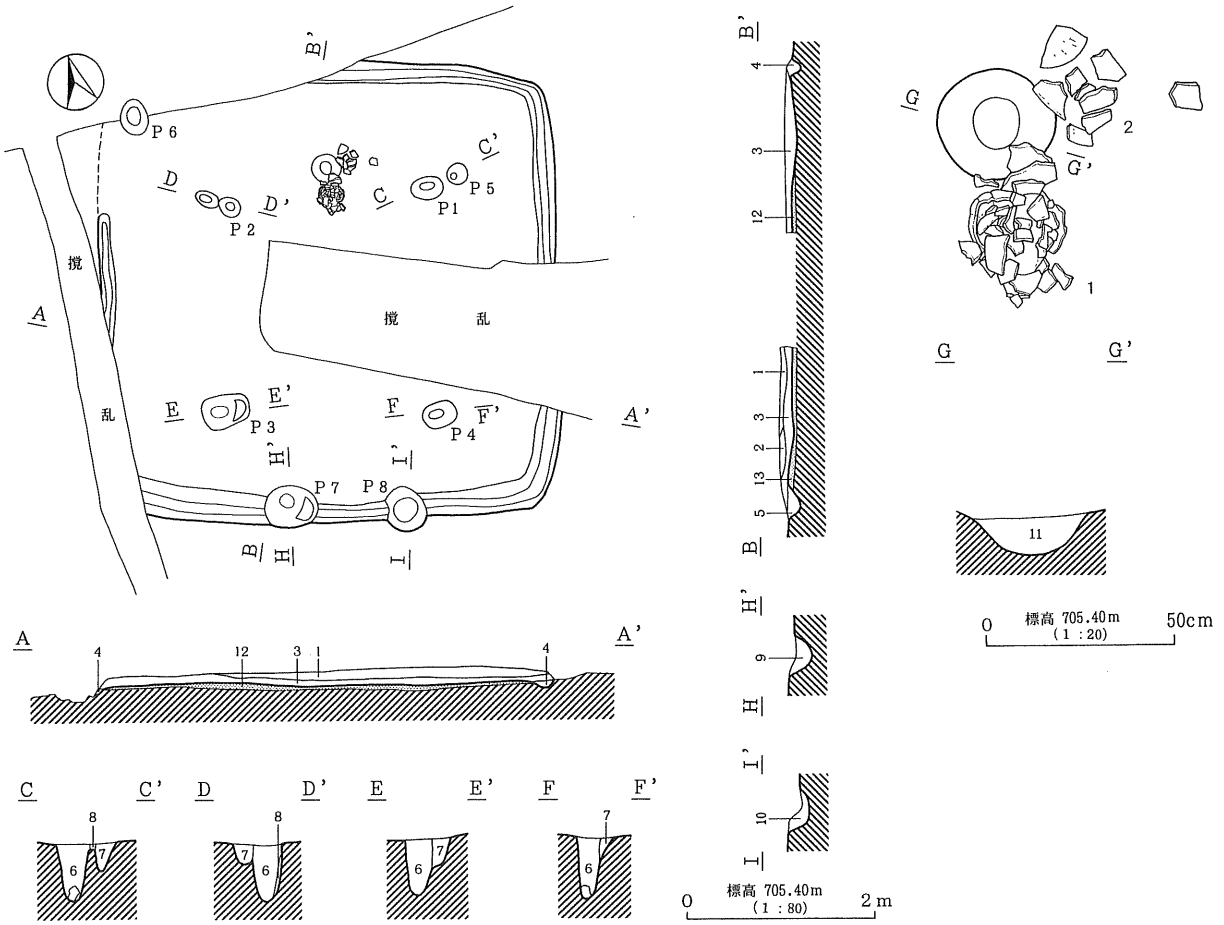
炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間に位置し、径28cm、深さ11cmの円形の掘り方に壺の底部（１）と高坏の坏部（２）を埋設して設けられる。

遺物は壺（１）、高坏（２）、甕（３～10）を図示した。

１は外面に赤色塗彩された壺の底部、２は高坏の坏部であり、炉址内に埋設された状態で出土した。甕には櫛描波状文の３～５、８・10と櫛描斜走文の６・７・９がある。

第10表　Ｈ１号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	－	(11.8)	〈10.2〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	剥離	炉
2	高坏	－	－	〈5.8〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩	炉



1. 暗褐色土層（10YR3/3）　軽石多量に含む、砂含む、しまりあり。
2. 褐色土層（10YR4/4）　軽石多量に含む、砂含む、しまりあり。
3. 黒褐色土層（10YR2/3）　軽石多量に含む、砂・炭化物含む、しまりあり。
4. 黒褐色土層（10YR2/3）　砂含む、しまりあり。
5. 褐色土層（10YR4/6）　軽石多量に含む、砂含む、しまりあり。
6. 黒褐色土層（10YR2/3）　炭化物含む、しまりなし、柱痕。
7. 黒褐色土層（10YR3/2）　軽石多量に含む。
8. 褐色土層（10YR4/4）　軽石含む、しまりややあり。
9. 黒褐色土層（10YR2/3）　軽石多量に含む、ロームブロック含む、しまりあり。
10. 暗褐色土層（10YR3/3）　軽石多量に含む、しまりあり。
11. 黒褐色土層（10YR2/3）　軽石・ローム粒・炭化物含む。
12. 黒褐色土層（10YR2/2）　軽石多量に含む、砂・炭化物含む、掘り方埋め土。
13. 黒褐色土層（10YR2/2）　軽石多量に含む、砂含む、掘り方埋土。

第25図　Ｈ２号住居址（１）

Ｈ２号住居址（第25・26図、図版14・15・20）

本住居址は調査区中央西側、Ⅶ－Ｓ－あ－８グリッドに位置する。他遺構との重複関係はないものの、北壁西側・西壁南側及び東壁から住居址中央にかけて撹乱による破壊を受ける。南北4.9m、東西4.8mの隅丸方形を呈し、壁残高は南壁中央で12cmを計測する。床面積は約23m²を測る。周溝は全周するものと思われる。覆土は自然堆積であり、床面は12・13層を埋め戻して構築される。

ピットは９基が検出された。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴であるが、これらに隣接してピットが検出されており、柱の建て替えが想定される。また、Ｐ１・Ｐ４の底面より径15cm・12cmの柱材が出土している。Ｐ７・Ｐ８は南壁中央より検出され、出入り口に関する柱穴と思われる。

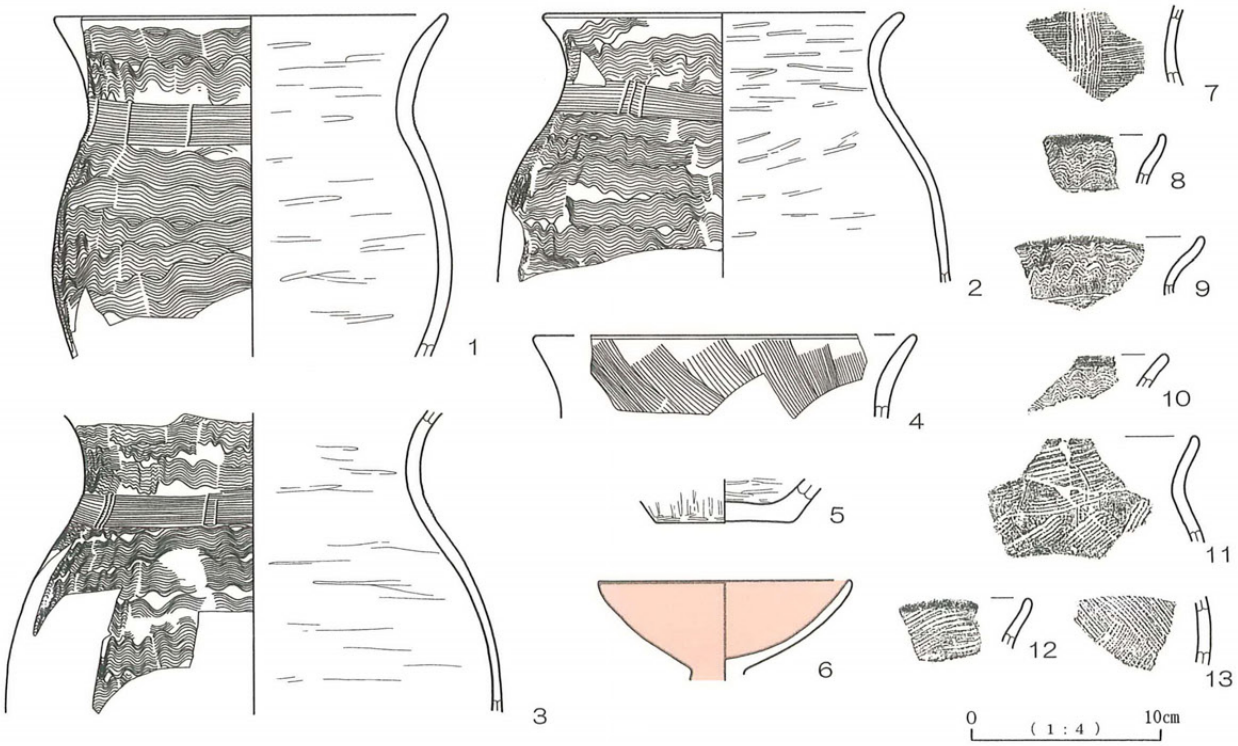
炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間北側に位置し、径30cm、深さ10cmの地床炉である。周囲からは甕（１・２）、高坏（６）が出土している。

遺物は甕（１～５・８～13）、高坏（６）、壺（７）を図示した。

甕の施文は櫛描によるもので、頸部に簾状文を巡らし、口縁部から胴部に波状文を施文する１～３・８～10と斜走文または羽状文の施文される４・11～13がある。また、11は頸部に簾状文の施文は行われていない。高坏は６が１点出土しており、内外面ともに赤色塗彩が行われる。壺には櫛描Ｔ字文が施文される頸部片（７）がある。

Ｈ３号住居址（第27・28図、図版15・20・21）

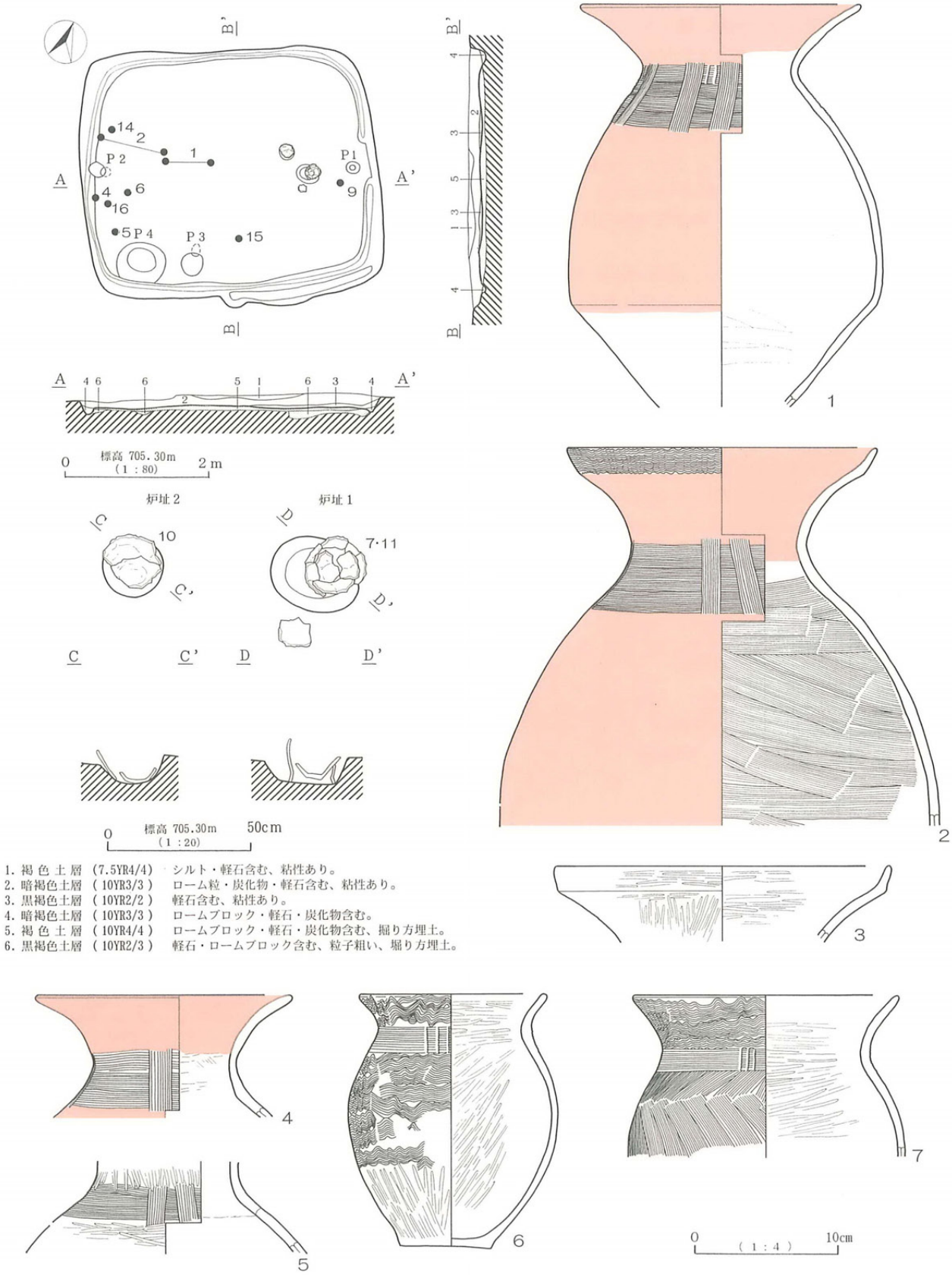
本住居址は調査区中央、Ⅶ－Ｒ－き－10グリッドに位置し、他遺構との重複関係はない。南北3.1m、東西3.84mの東西に長い隅丸長方形を呈し、南壁東半部にテラスを有する。壁残高14cm～21cm、床面積10.8m²を測る小型の住居址である。長軸方位はＮ－70°－Ｅを示す。周溝は東壁中央でわずかに断絶するもののほぼ全周する。覆土は自然堆積



第26図　Ｈ２号住居址（２）

第11表　Ｈ２号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	20.8	－	〈18.0〉	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
2	甕	(19.2)	－	〈14.2〉	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
3	甕	－	－	〈15.7〉	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
4	甕	(20.4)	－	〈4.4〉	櫛描斜走文	ヘラミガキ	
5	甕	－	7.4	〈1.8〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
6	高坏	13.5	－	〈5.2〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩	



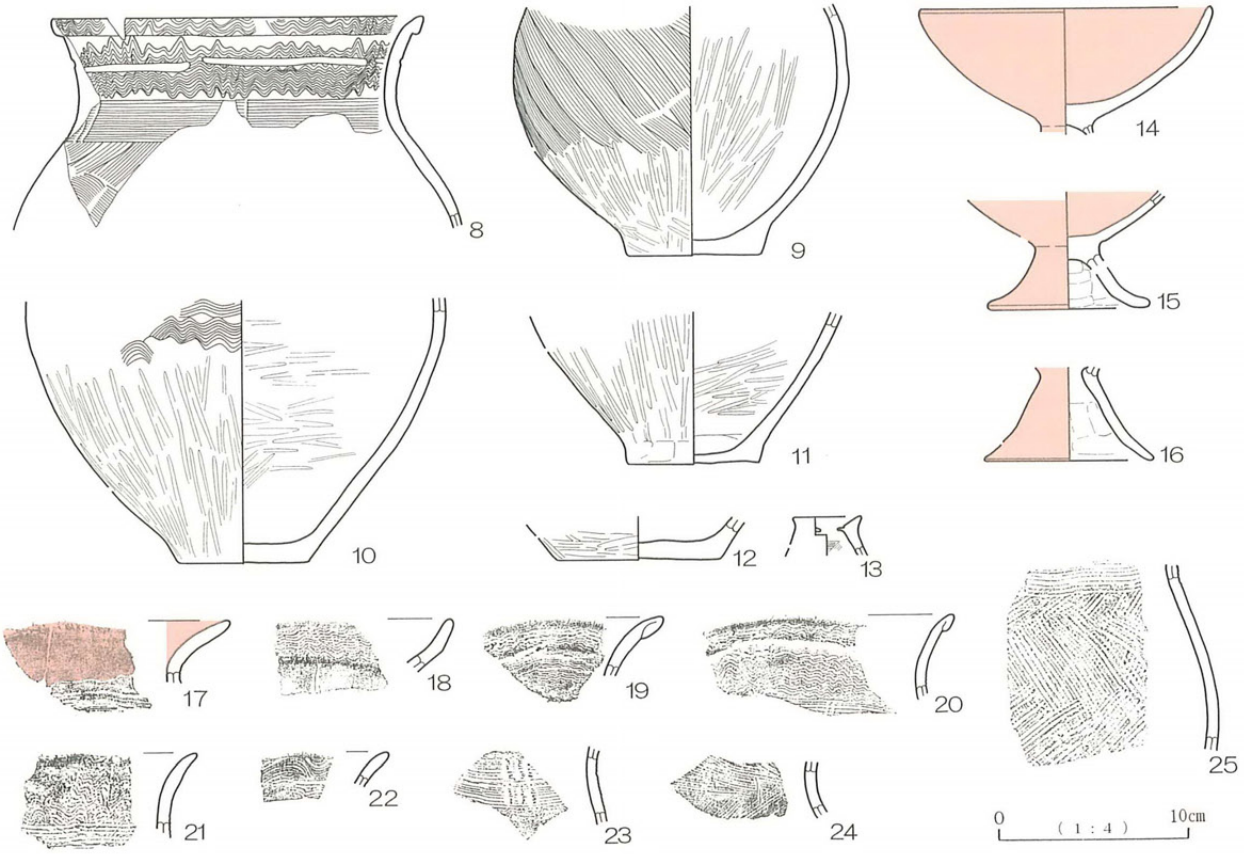
1. 褐色土層 (7.5YR4/4)　シルト・軽石含む、粘性あり。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)　ローム粒・炭化物・軽石含む、粘性あり。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)　軽石含む、粘性あり。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3)　ロームブロック・軽石・炭化物含む。
5. 褐色土層 (10YR4/4)　ロームブロック・軽石・炭化物含む、掘り方埋土。
6. 黒褐色土層 (10YR2/3)　軽石・ロームブロック含む、粒子粗い、掘り方埋土。

第27図　H３号住居址（１）

であり、床面は５・６層を埋め戻して構築される。

ピットは４基が検出された。東壁・南壁下中央より検出されたＰ１・Ｐ２が主柱穴であろうか。各々16cm・31cmの深さを有する。

炉址は中央東側より２基が検出された。炉址１はＰ１の西40cmに位置し、径32cm×25cm、深さ10cmの楕円形の掘り方に甕の上半部（７）を口縁部を下に置き、さらにその中に甕の底部（11）を埋設して設けられる。炉址２は炉址１



第28図　Ｈ３号住居址（２）

第12表　Ｈ３号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	(19.8)	－	〈28.1〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描Ｔ字文	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩 胴部ナデ	
2	壺	21.8	－	〈26.2〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 口縁部櫛描波状文 頸部櫛描Ｔ字文	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩 胴部ハケメ	
3	壺	(23.5)	－	〈5.2〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
4	壺	18.0	－	〈8.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描Ｔ字文	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩 胴部ナデ	
5	壺	－	－	〈6.5〉	ヘラミガキ、頸部櫛描Ｔ字文	ナデ	
6	甕	13.2	6.4	17.7	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
7	甕	18.7	－	〈11.2〉	口辺部櫛描波状文、 胴部櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
8	甕	(19.8)	－	〈11.0〉	口辺部櫛描波状文、箆描沈線 胴部櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
9	甕	－	7.2	〈13.2〉	櫛描斜走文	ヘラミガキ	
10	甕	－	7.1	〈13.9〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	
11	甕	－	7.1	〈7.8〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
12	甕	－	8.7	〈1.9〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
13	蓋	3.7	－	〈2.1〉	ヘラミガキ	ナデ	
14	高坏	15.7	－	〈6.7〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
15	高坏	－	(8.7)	〈5.8〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	
16	高坏	－	(9.0)	〈4.9〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ、赤色顔料付着	

の北西より検出され、径21cm、深さ10cmの円形の掘り方に甕の下半部（10）を埋設して構築される。

遺物は壺（１～５・17・18）、甕（６～12・19～25）、蓋（13）、高坏（14～16）を図示した。

壺は頸部に櫛描Ｔ字文が施文されるが、単純口縁の１・４と受口口縁の２・３がある。また、２は口縁部に波状文が巡る。１・２・４は外面と口縁部内面に赤色塗彩が行われるが、３・５には行われていない。１の赤彩は被熱により口縁部外面にわずかに残っているのみである。

甕は口縁部から体部に櫛描による波状文または羽状文が施文された後、頸部に簾状文が巡らされる。口縁部と体部に波状文を施し、頸部に簾状文を巡らす６の他に、口縁部に波状文、体部に羽状文を施文した後頸部に簾状文を巡らせる７・８がある。また、８は口縁部に波状文を巡らせた後、篦状工具による沈線が加えられる。７・11は炉址１、10は炉址２に埋設されていたものである。蓋には13があり、ヘラミガキが施される。

高坏には14～16があるが、全体の器形が知れるものはない。いずれも脚部内面を除いて赤色塗彩が行われる。

Ｈ４号住居址（第29図、図版16・21）

本住居址は調査区西端部、Ⅶ－Ｘ－お－１グリッドに位置する。Ｍ２号溝址と重複し、南東部分を切られる。また、住居址中央部分と北西部分を撹乱による破壊を受けている。南北6.8m、東西5.0mの隅丸長方形を呈し、床面積34m²前後を測る。壁残高は南西隅で10cmを計測するが、東壁・北壁付近は床面まで削平を受けている。長軸方位はＮ－34°－Ｗを示す。周溝は南壁下中央を除いて全周する。

ピットは９基が検出され、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴である。38cm～46cmの深さを有し、整然とした配置である。Ｐ５～Ｐ８は南壁下中央に位置し、この部分で周溝が途切れていることから出入り口に関する柱穴と考えられる。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間に位置し、径50cm、深さ８cmの円形に掘り窪めて設けられる。

遺物は甕（１・７～９）、鉢（２・３）、甑（４）、高坏（５）、壺（６）を図示した。

１は小型の甕で口縁部から体部に櫛描波状文が巡るが、頸部の簾状文は施文されていない。鉢２・３は内外面に赤色塗彩が行われる。４はヘラミガキ調整が施され、体部が直線的に開く単孔の甑である。５は赤色塗彩される高坏の坏部で口縁端部が屈曲して開き、口唇部に突起が加えられる。

Ｈ５号住居址（第30～32図、図版16・17・21）

本住居址は調査区中央南側、Ⅶ－Ｗ－き－３グリッドに位置する。他遺構との重複関係はない。南北8.14m、東西6.08mの隅丸長方形を呈し、床面積46.6m²の大型の住居址である。壁残高は31cm～43cmを計測し、長軸方位はＮ－30°－Ｗを示す。周溝は全周する。覆土は自然堆積であり、床面は13～17層を埋め戻して構築される。

ピットは床面上から６基、南西隅から１基、北壁から３基の10基、掘り方から６基が検出されたが、北壁から検出されたＰ９・Ｐ10・Ｐ12については本址に伴うものかどうか不明である。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴であり、31cm～50cmの深さを有し、南北4.7m、東西2.5mの整然とした配置である。また、Ｐ１～Ｐ４の内側掘り方より検出されたＰ11～Ｐ14は本址の建て替え以前の主柱穴である。掘り方の状態から住居址の拡張が想定される。Ｐ15・Ｐ16は南壁下中央の床下から検出され、出入り口に関する柱穴と考えられる。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間に位置し、51cm×41cm、深さ８cmの楕円形に掘り窪めた後、高坏の坏部（19）を埋設して設けられる。また掘り方Ｐ11・Ｐ12間より建て替え以前の炉址が検出された。46cm×41cmの円形の掘り方に扁平な礫を１個埋設しており、壺の底部（４）が出土した。

遺物は壺（１～４）、甕（５～14・26・27）、蓋（15）、高坏（16～22）、鉢（23～25）、石器（28～34）を図示した。

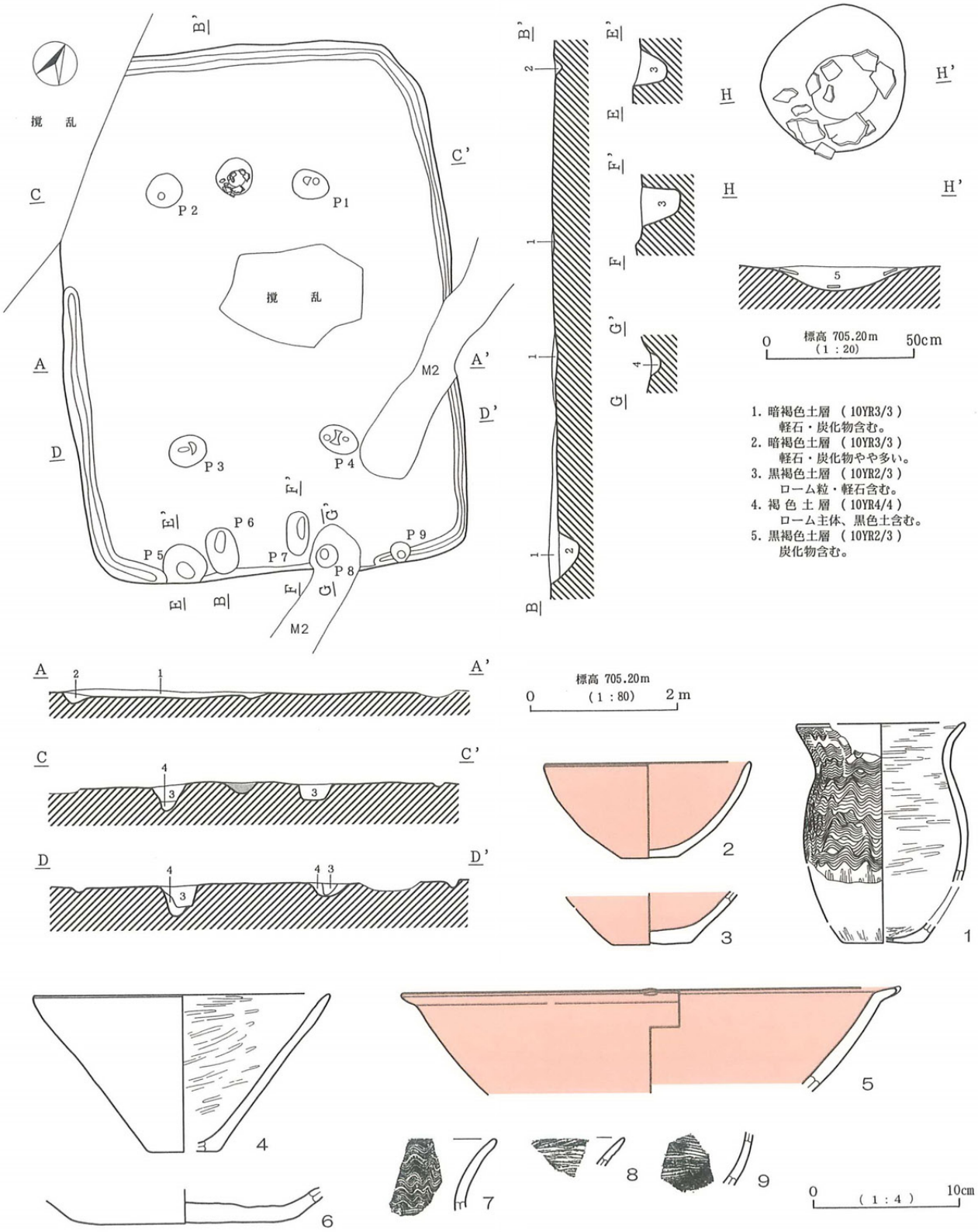
壺には全体の器形が知れるものはないが、１・２は受口状の口縁部をもつ。無彩の１・２と赤彩される３・４があり、２は頸部に簾状文が巡る。

甕には櫛描による波状文が施文される５・７・８・26・27と羽状文の６がある。また、５・６には頸部の簾状文が施文されない。台付甕は14の台部が１点出土しているのみである。15は無彩の蓋で内外面ヘラミガキ調整が施される。

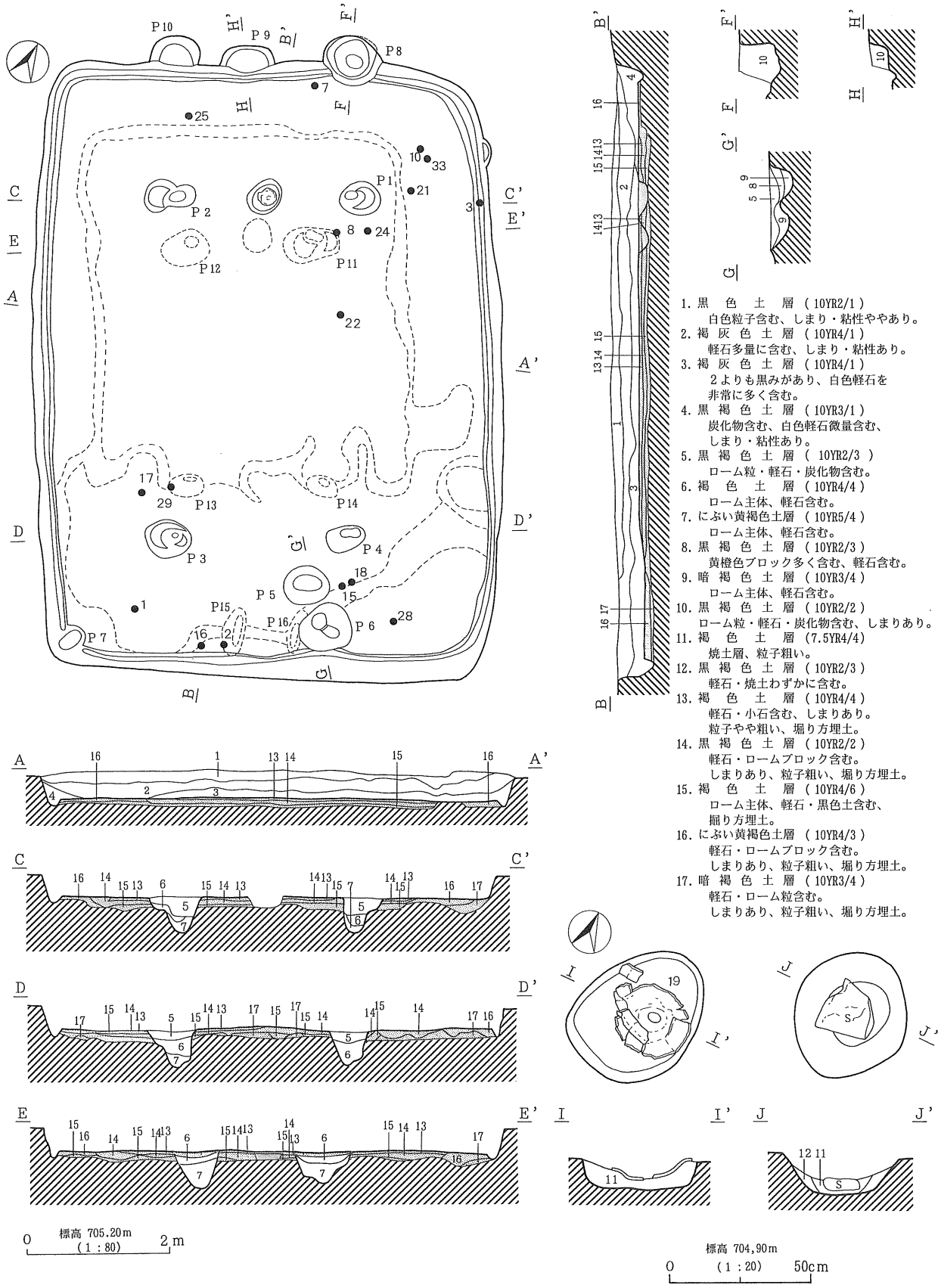
高坏は16～22の８点があるが、全てが脚部内面を除いて赤色塗彩が行われる。坏部の形態はいずれも口縁端部が屈曲して開くが、16・17・19は中位の稜が明瞭であるのに対し、18は曲線的で不明瞭である。脚部は「ハ」の字状に開く20・21と裾部で大きく開く22がある。

鉢には赤色塗彩される23と無彩の24・25がある。23・24には口縁端部に片口が造り出される。25は直線的な体部から口縁部が内彎するもので、24とともにヘラミガキ調整が施される。

石器には28～33の敲石と34の台石があり、いずれも安山岩製である。

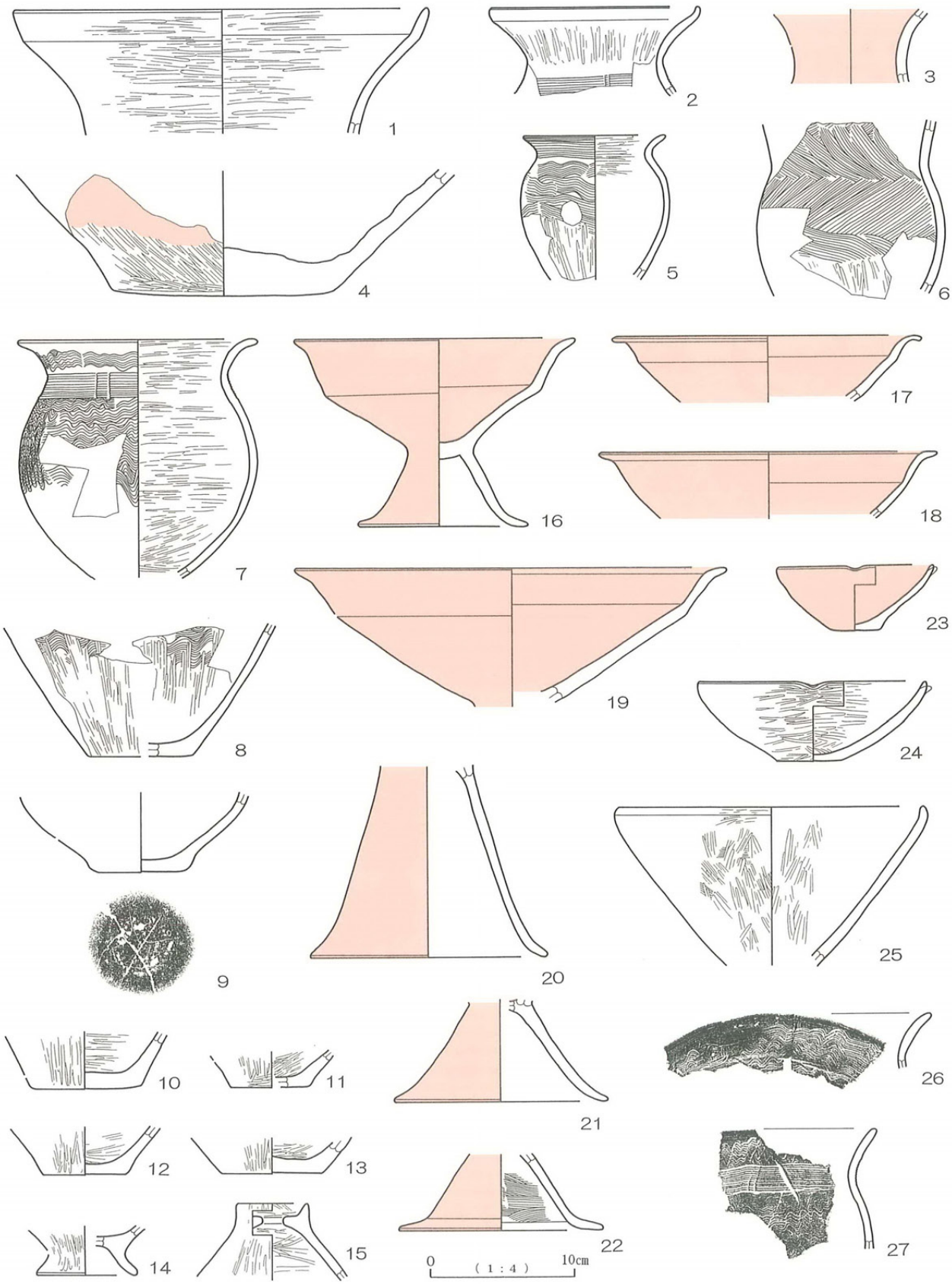

撹　乱
P 1
P 2
P 3
P 4
P 5
P 6
P 7
P 8
P 9
M2
標高 705.20m
(1：20)
0
50cm
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
軽石・炭化物含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
軽石・炭化物やや多い。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
ローム粒・軽石含む。
4. 褐色土層 (10YR4/4)
ローム主体、黒色土含む。
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
炭化物含む。
標高 705.20m
(1：80)
0
2m
(1：4)
10cm

第29図　Ｈ４号住居址



1. 黒　色　土　層（10YR2/1）
白色粒子含む、しまり・粘性ややあり。
2. 褐　灰　色　土　層（10YR4/1）
軽石多量に含む、しまり・粘性あり。
3. 褐　灰　色　土　層（10YR4/1）
2よりも黒みがあり、白色軽石を非常に多く含む。
4. 黒　褐　色　土　層（10YR3/1）
炭化物含む、白色軽石微量含む、しまり・粘性あり。
5. 黒　褐　色　土　層（10YR2/3）
ローム粒・軽石・炭化物含む。
6. 褐　色　土　層（10YR4/4）
ローム主体、軽石含む。
7. にぶい黄褐色土層（10YR5/4）
ローム主体、軽石含む。
8. 黒　褐　色　土　層（10YR2/3）
黄橙色ブロック多く含む、軽石含む。
9. 暗　褐　色　土　層（10YR3/4）
ローム主体、軽石含む。
10. 黒　褐　色　土　層（10YR2/2）
ローム粒・軽石・炭化物含む、しまりあり。
11. 褐　色　土　層（7.5YR4/4）
焼土層、粒子粗い。
12. 黒　褐　色　土　層（10YR2/3）
軽石・焼土わずかに含む。
13. 褐　色　土　層（10YR4/4）
軽石・小石含む、しまりあり。
粒子やや粗い、堀り方埋土。
14. 黒　褐　色　土　層（10YR2/2）
軽石・ロームブロック含む。
しまりあり、粒子粗い、堀り方埋土。
15. 褐　色　土　層（10YR4/6）
ローム主体、軽石・黒色土含む、堀り方埋土。
16. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
軽石・ロームブロック含む。
しまりあり、粒子粗い、堀り方埋土。
17. 暗　褐　色　土　層（10YR3/4）
軽石・ローム粒含む。
しまりあり、粒子粗い、堀り方埋土。

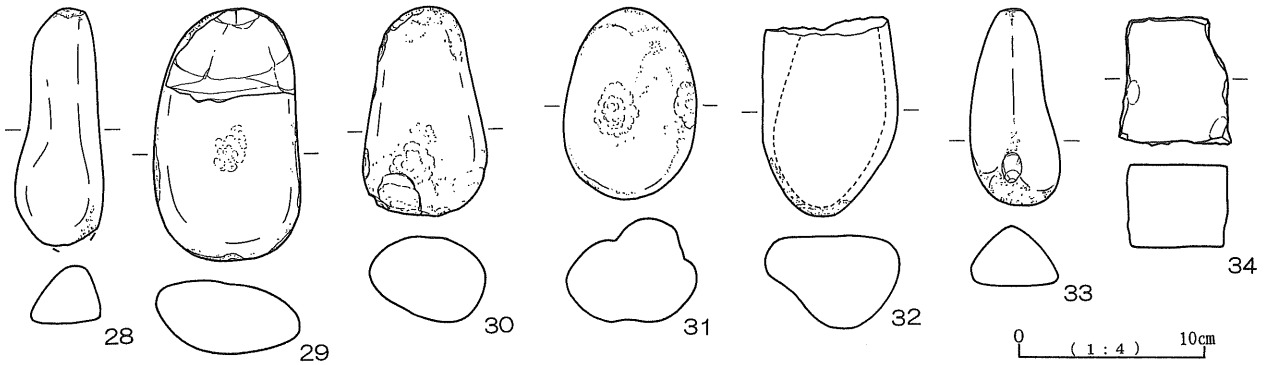
第30図　Ｈ５号住居址（１）



第31図　Ｈ５号住居址（２）

第13表　Ｈ４号住居址出土遺物観察表

No	器　種	法　量			成　形　・　調　整　・　文　様		備　考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外　面	内　面	
1	甕	10.7	(5.6)	(15.0)	櫛描波状文	ヘラミガキ	
2	鉢	(14.2)	(4.0)	6.5	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
3	鉢	－	5.6	〈3.3〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	炉
4	甑	(20.3)	(5.0)	10.7	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
5	高坏	(34.0)	－	〈7.0〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
6	壺	－	(15.4)	〈1.7〉	剥離	剥離	



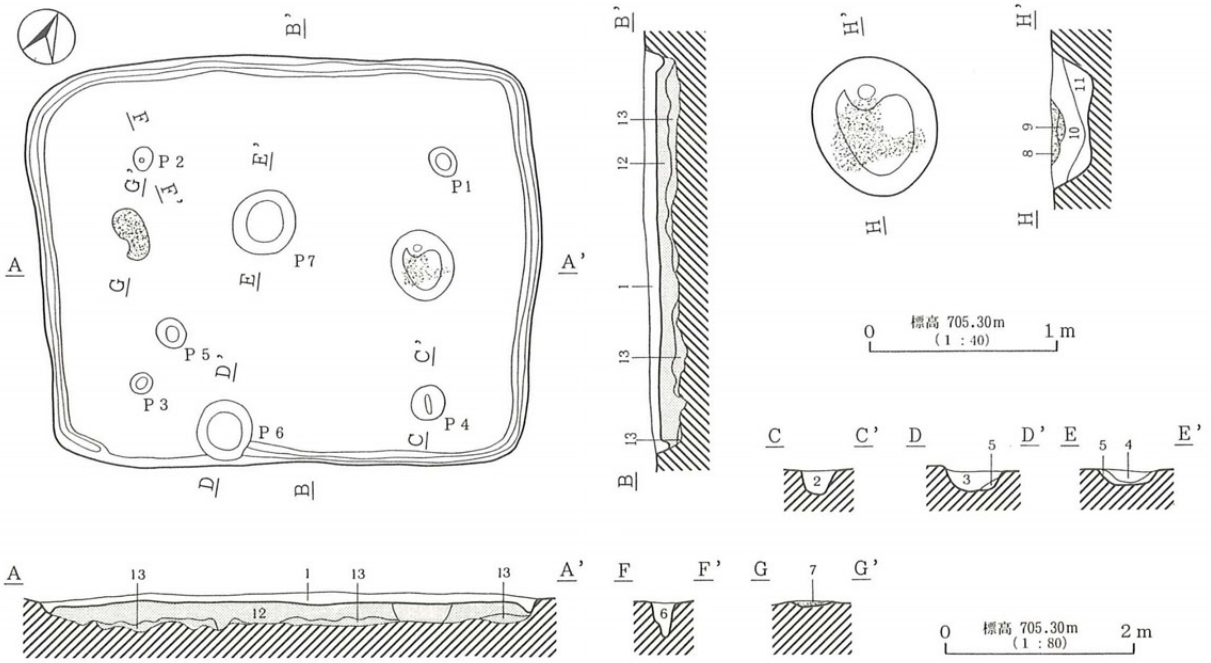
第32図　Ｈ５号住居址（３）

第14表　Ｈ５号住居址出土遺物観察表

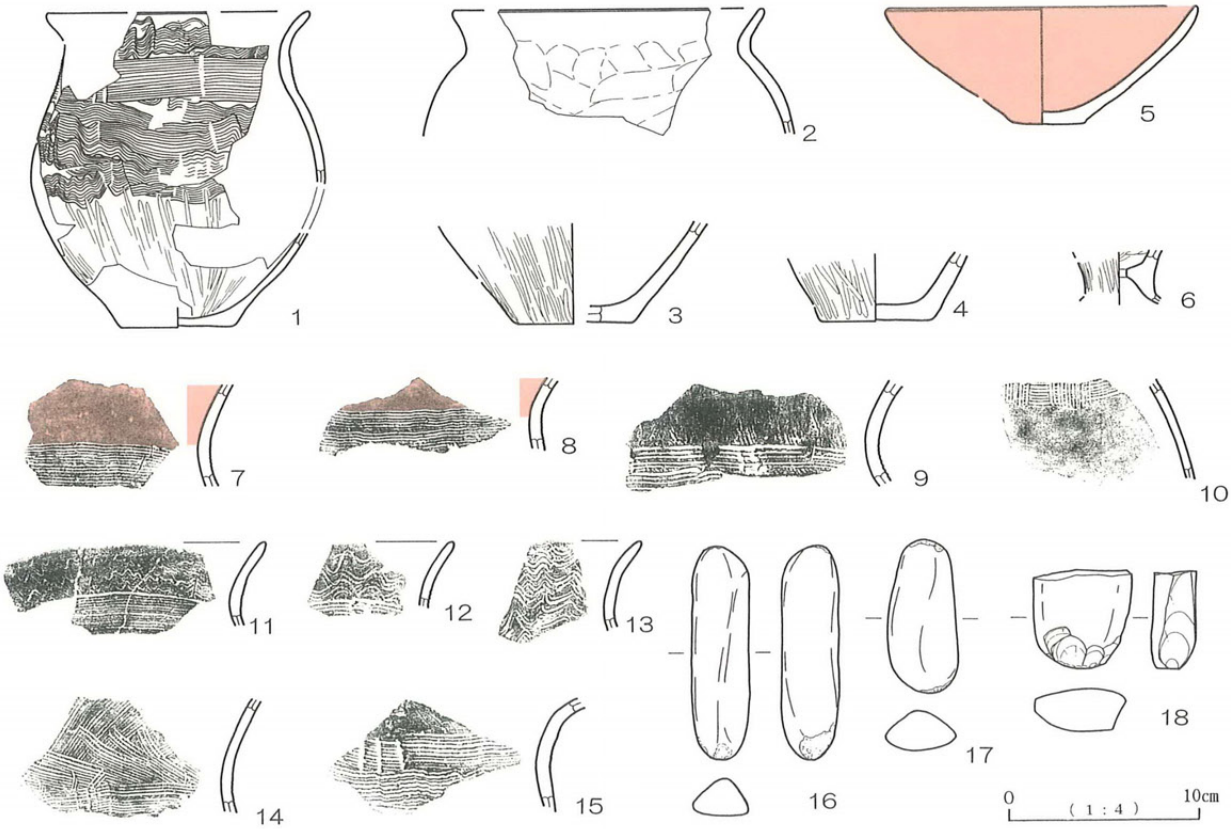
No	器　種	法　量			成　形　・　調　整　・　文　様		備　考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外　面	内　面	
1	壺	(29.0)	－	〈8.7〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
2	壺	(14.4)	－	〈5.9〉	ヘラミガキ、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
3	壺	－	－	〈4.8〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
4	壺	－	15.6	〈8.4〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	剥離	
5	甕	(10.0)	－	〈10.0〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	
6	甕	－	－	〈12.0〉	櫛描羽状文	ヘラミガキ	
7	甕	(16.7)	－	〈16.6〉	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
8	甕	－	(7.8)	〈9.0〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	
9	甕	－	7.1	〈5.2〉	摩滅、底部木葉痕	摩滅	
10	甕	－	7.8	〈3.7〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
11	甕	－	5.6	〈2.2〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
12	甕	－	(5.8)	〈3.2〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
13	甕	－	(7.0)	〈2.5〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
14	台付甕	－	7.1	〈3.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ、台部ナデ	
15	蓋	(5.0)	－	〈5.1〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
16	高坏	19.6	11.9	13.1	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ、赤色顔料付着	
17	高坏	(21.6)	－	〈4.6〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
18	高坏	(23.6)	－	〈4.6〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
19	高坏	(30.2)	－	〈9.6〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
20	高坏	－	(16.6)	〈13.3〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ、赤色顔料付着	
21	高坏	－	(14.9)	〈7.1〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ、赤色顔料付着	
22	高坏	－	(14.1)	〈5.3〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ、ナデ、赤色顔料付着	
23	鉢	11.1	3.4	4.5	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
24	鉢	16.0	4.5	5.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
25	鉢	(21.9)	－	〈11.0〉	ヘラミガキ	ハケメ、ヘラミガキ	
28	敲石	12.5	4.8	3.2			250g
29	敲石	13.3	7.8	3.9			590g
20	敲石	11.0	6.6	4.7			460g
31	敲石	10.0	7.1	5.6			520g
32	敲石	10.4	7.2	5.6			520g
33	敲石	10.4	4.9	3.2			200g
34	台石	6.8	6.0	4.4			370g

Ｈ６号住居址（第33図、図版17・22）

本住居址は調査区南側、Ⅶ－Ｗ－け－４グリッドに位置し、他遺構との重複関係はない。南北3.88m、東西4.92mの東西に長い隅丸長方形を呈し、壁残高２～10cm、床面積18.9m²を計測する。長軸方位はＮ－75°－Ｅを示す。周溝は南壁西側で一部断絶するもののほぼ全周する。覆土は黒色土の単層で、床面は12・13層を埋め戻して構築される。



1. 黒 色 土 層 （10YR2/1） 炭化物多量に含む、ローム粒・白色粒子含む、しまりややあり、粘性あり。
2. 黒褐色土層 （10YR2/3） ローム粒・軽石含む。
3. 黒褐色土層 （10YR2/3） ローム粒・軽石・炭化物含む。
4. 黒褐色土層 （10YR2/2） ローム粒・軽石・炭化物含む。
5. 黒褐色土層 （10YR3/2） ローム粒・軽石・炭化物含む。
6. 黒褐色土層 （10YR2/2） ローム粒・軽石含む。
7. 黄褐色土層 （10YR5/6） 焼土層、暗褐色土含む。
8. 褐 色 土 層 （7.5YR4/4） 焼土層、炭化物・黒色土含む。
9. 明褐色土層 （7.5YR5/6） 焼土層、灰含む。
10. 暗褐色土層 （10YR3/3） 軽石・焼土含む。
11. 黒褐色土層 （10YR3/2） 軽石・焼土含む。
12. 黒褐色土層 （10YR2/2） 軽石多く含む、ローム粒含む、堀り方埋土。
13. 褐 色 土 層 （10YR4/4） ローム主体、軽石多く含む、しまりあり、堀り方埋土。



第33図　Ｈ６号住居址

ピットは７基が検出された。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴と考えられ、13cm～36cmの深さを有する。

炉址は住居址東側、Ｐ１・Ｐ４間より検出された。37cm×33cm、深さ10cmの地床炉である。また、西側床面上より53cm×30cmの範囲で焼土の分布がみられた。

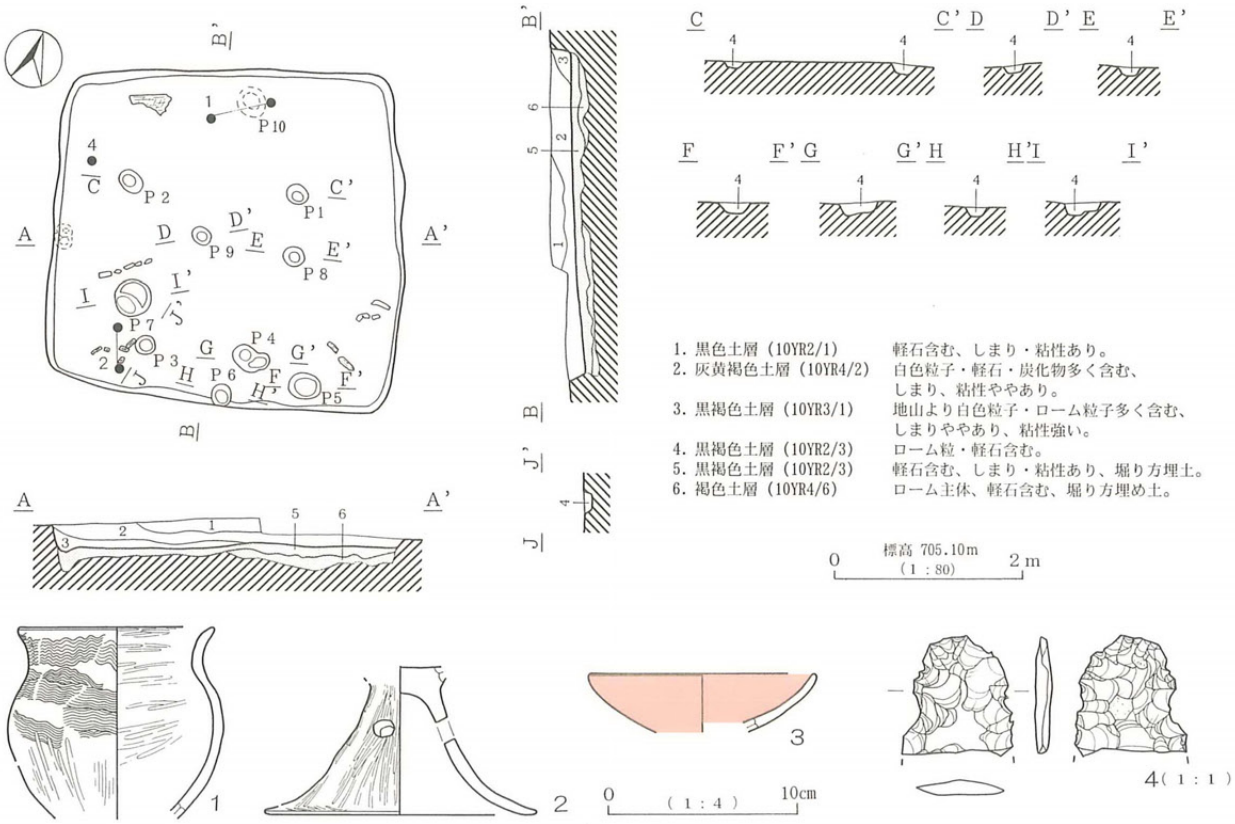
遺物は甕（１～４・11～15）、鉢（５）、器台（６）、壺（７～10）の他、石器（16～18）を図示した。

甕には体部に櫛描波状文の施文される１・11～13・15と羽状文の14があるが、無文の２が１点出土している。鉢（５）は内外面に赤色塗彩が行われる。６は器台としたが判然としない。壺はいずれも小片であり器形の知れるものはないが、頸部文様には櫛描による横線文または簾状文の７～９とＴ字文の10がある。

16～18は敲石で安山岩製である。

第15表　Ｈ６号住居址出土遺物観察表

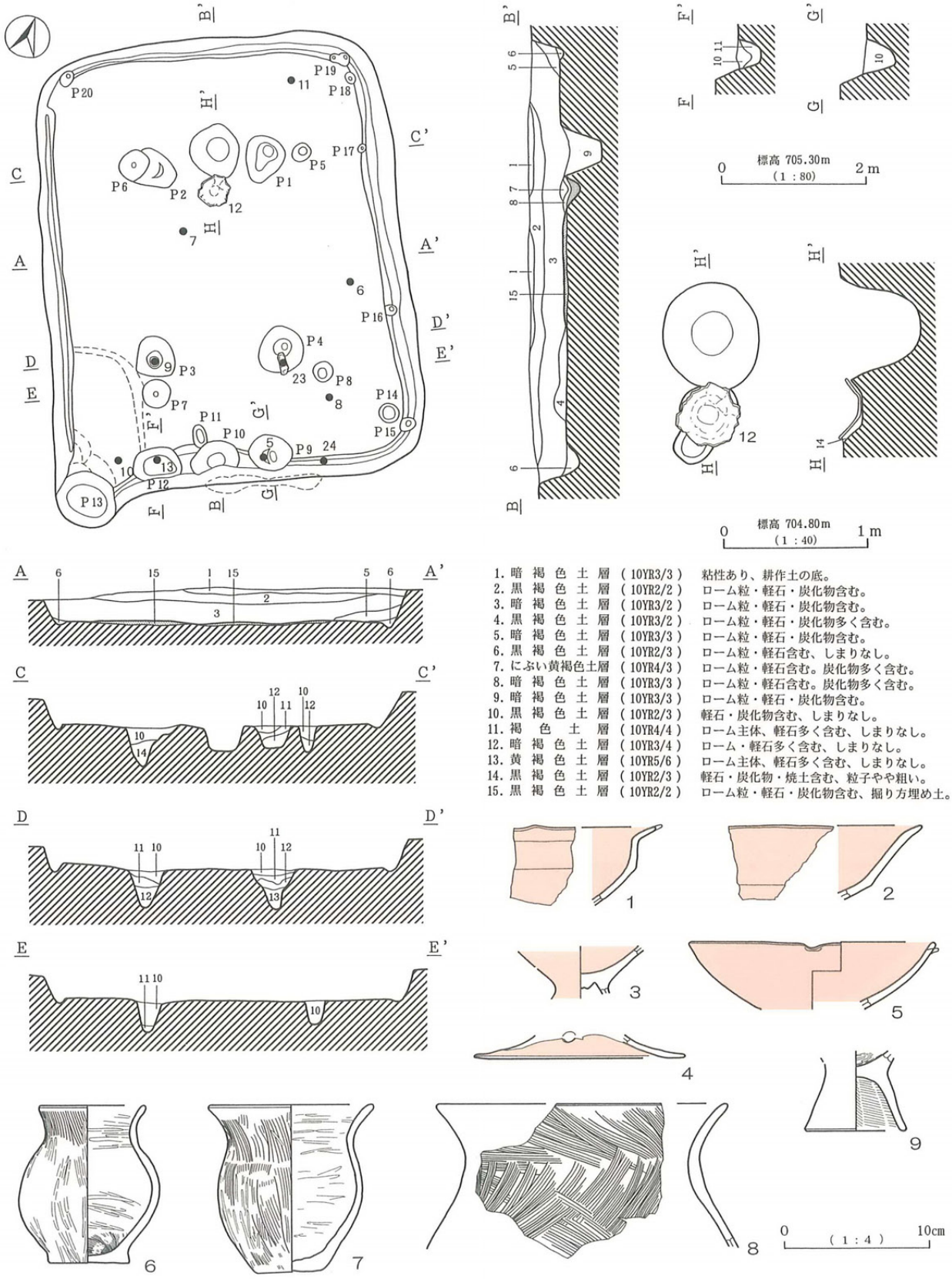
No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	(14.0)	(6.0)	(16.6)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
2	甕	(16.4)	－	〈6.6〉	ナデ	ナデ	
3	甕	－	6.4	〈5.2〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
4	甕	－	6.0	〈3.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
5	鉢	(16.6)	3.7	6.2	ヘラミガキ、赤色塗彩、摩滅	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	
6	器台	－	－	〈2.5〉	ヘラミガキ	器受部ヘラミガキ、脚部ナデ	
16	敲石	11.3	3.0	2.3			105.8g
17	敲石	8.0	3.8	2.2			96.9g
18	敲石	5.2	5.2	2.4			103.9g



第34図　Ｈ７号住居址

第16表　Ｈ７号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	10.4	－	〈10.1〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	
2	高坏	－	(14.4)	〈7.8〉	ヘラミガキ	ナデ	穿孔４
3	鉢	(12.0)	－	〈3.1〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
4	打製石鏃	1.6	1.5	0.2			0.5g



1. 暗　褐　色　土　層（10YR3/3）　粘性あり、耕作土の底。
2. 黒　褐　色　土　層（10YR2/2）　ローム粒・軽石・炭化物含む。
3. 暗　褐　色　土　層（10YR3/2）　ローム粒・軽石・炭化物含む。
4. 黒　褐　色　土　層（10YR3/2）　ローム粒・軽石・炭化物多く含む。
5. 暗　褐　色　土　層（10YR3/3）　ローム粒・軽石・炭化物含む。
6. 黒　褐　色　土　層（10YR2/3）　ローム粒・軽石含む、しまりなし。
7. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）　ローム粒・軽石含む。炭化物多く含む。
8. 暗　褐　色　土　層（10YR3/3）　ローム粒・軽石含む。炭化物多く含む。
9. 暗　褐　色　土　層（10YR3/3）　ローム粒・軽石・炭化物含む。
10. 黒　褐　色　土　層（10YR2/3）　軽石・炭化物含む、しまりなし。
11. 褐　色　土　層（10YR4/4）　ローム主体、軽石多く含む、しまりなし。
12. 暗　褐　色　土　層（10YR3/4）　ローム・軽石多く含む、しまりなし。
13. 黄　褐　色　土　層（10YR5/6）　ローム主体、軽石多く含む、しまりなし。
14. 黒　褐　色　土　層（10YR2/3）　軽石・炭化物・焼土含む、粒子やや粗い。
15. 黒　褐　色　土　層（10YR2/2）　ローム粒・軽石・炭化物含む、掘り方埋め土。

第35図　Ｈ８号住居址（１）

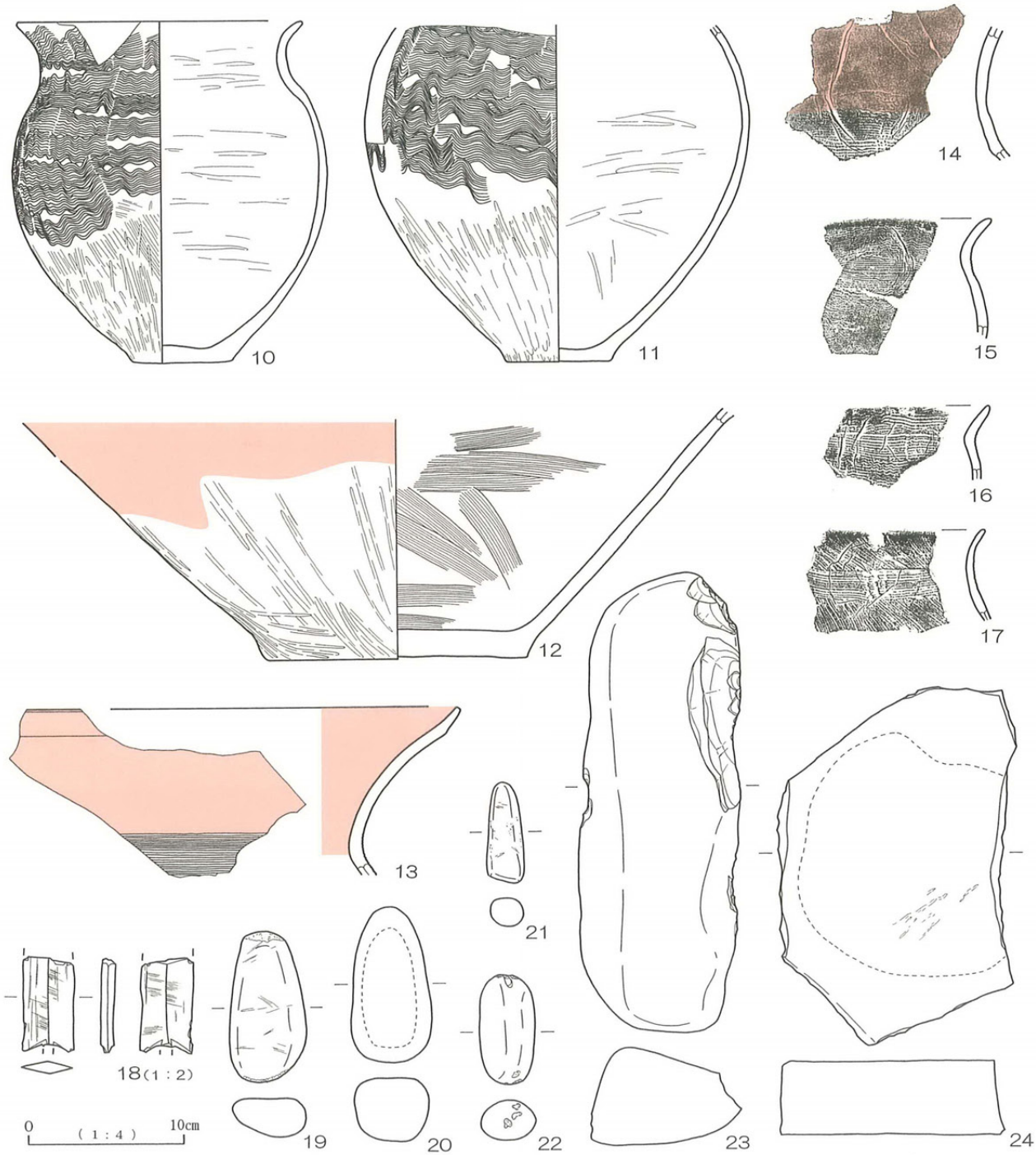
Ｈ７号住居址（第34図、図版17・22）

本住居址は調査区南側、Ⅶ－Ｗ－か－５グリッドに位置する。他遺構との重複関係はない。南北3.40m、東西3.55mの東西にやや長い隅丸方形を呈し、壁残高７～26cm、床面積11.6m²の小型の住居址である。長軸方位はＮ－80°－Ｗを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積で、床面は５・６層を埋め戻して構築される。また、床面上に炭化材の分布がみられる。

ピットは床面上から９基、掘り方から２基が検出されたが、その性格は不明である。炉址は検出されなかった。

遺物は甕（１）、高坏（２）、鉢（３）、石鏃（４）を図示した。

１は小型の甕で、口縁部から体部上半に櫛描波状文が巡るが、頸部の簾状文は施文されない。２は無彩の高坏脚部



第36図　Ｈ８号住居址（２）

で、ヘラミガキ調整が施され、４箇所に穿孔される。３は内外面に赤彩される鉢である。
石鏃は黒曜石製の打製石鏃（４）が１点出土している。

Ｈ８号住居址（第35・36図、図版18・19・22・23）

本住居址は調査区南側、Ⅶ－Ｘ－あ－４グリッドに位置し、Ｈ９号住居址を切る。南北5.40m、東西4.32mの隅丸長方形を呈し、壁残高29～44cm、床面積23.1m²を測る。長軸方位はＮ－19°－Ｗを示す。周溝は北西隅で一部断絶するもののほぼ全周する。覆土は自然堆積であり、床面は15層を薄く埋め戻して構築される。

ピットは総数で20基が検出された。このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴であり、整然と配置される。また、これに隣接してＰ５～Ｐ８が検出されていることから柱の建て替えが想定される。住居址の拡張あるいは縮小の痕跡は認められないことから上屋だけが建て替えられたものと推測される。南壁下中央のＰ９・Ｐ10は出入り口に関する柱穴と考えられ、壁下に配されるＰ14～Ｐ20は補助的な柱穴と思われる。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間より検出された。径40cm、深さ12cmの円形の掘り方に壺の底部（12）を埋設して設けられる。また、これの北側に隣接して75cm×68cm、深さ57cmの円形の落ち込みが確認された。

遺物は高坏（１～４）、鉢（５）、甕（６～11・15～17）、壺（12・13・14）、銅鏃（18）の他、石器（19～24）を図示した。

高坏には全体の器形が知れるものはないが、坏部中位に明瞭な稜を有し端部が大きく開く（１・２）。赤彩は内外面に行われる。４は脚裾部の破片で、外面に赤彩され円形の透かし孔を有する。５は内外面ともに赤彩され端部に片口が造り出される鉢である。

甕には無文の６・７と櫛描羽状文または斜走文の施文される８・17、波状文の施文される10・11・15・16がある。６・７は器高10.8cm・11.5cmの小型品でヘラミガキ調整が施されるが、外面にハケメ調整が残る。また、施文されるもののうち15～17は頸部に簾状文が巡るのに対し、８・10は簾状文が施文されない。台付甕は９が１点出土しており、内面にハケメ調整される。

壺は炉址内に埋設されていた底部（12）と受口状の口縁で頸部に櫛描の横線文が巡る13がある。

18の銅鏃は先端部と茎部が欠損しており、残存部の長さ３cm・幅1.7cm・厚さ0.3cmを計測する。石器には19～23の敲石と24の台石がある。

第17表　Ｈ８号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	高坏	－	－	〈5.3〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
2	高坏	－	－	〈5.1〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
3	高坏	－	－	〈3.2〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	
4	高坏	－	(14.6)	〈1.6〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ、赤色顔料付着	穿孔あり
5	鉢	(17.1)	－	〈4.6〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
6	甕	7.4	5.6	10.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ、ナデ	
7	甕	11.4	4.5	11.5	ハケメ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	
8	甕	(20.0)	－	〈9.9〉	櫛描羽状文	ヘラミガキ	
9	台付甕	－	7.1	〈5.0〉	ナデ	体部ヘラミガキ、台部ハケメ	
10	甕	18.4	6.4	21.9	櫛描波状文	ヘラミガキ	
11	甕	－	6.8	〈21.4〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	
12	壺	－	16.9	〈15.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ、剥離	
13	壺	－	－	〈10.7〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描横線文	ヘラミガキ、赤色塗彩	
18	銅鏃	〈3.0〉	1.7	0.4	先端部・茎部欠損		6.7g
19	敲石	9.7	5.0	2.7			230g
20	敲石	10.0	5.2	4.3			366g
21	敲石	6.5	2.5	2.0			43.7g
22	敲石	7.0	3.5	2.5			98.4g
23	敲石	29.4	10.5	6.3			2,870g
24	台石	22.9	15.5	4.8			3,200g

Ｈ９号住居址（第37図、図版18・19・23）

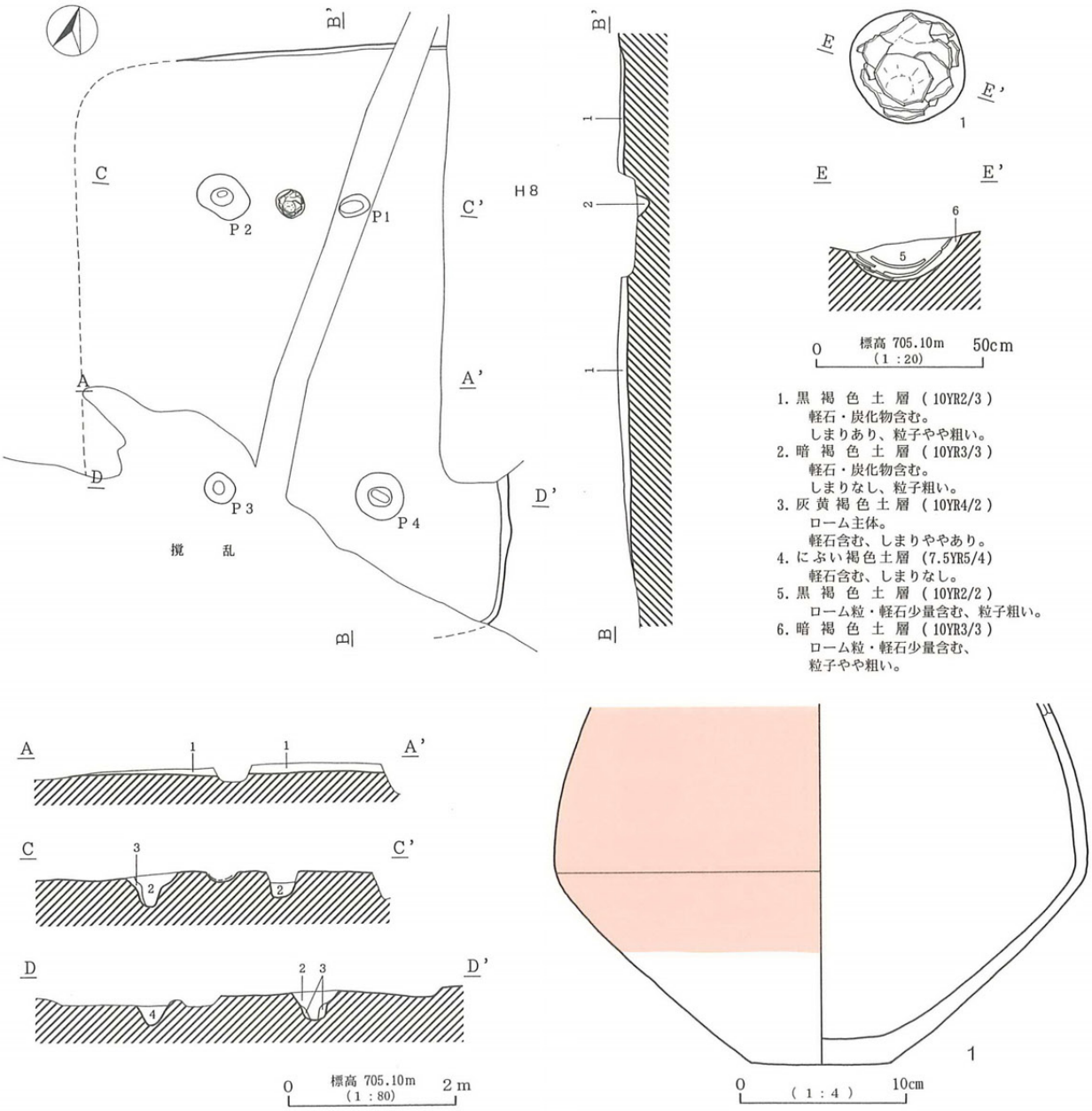
本住居址は調査区南側、Ⅶ－Ｘ－い－５グリッドに位置し、東壁部分をＨ８号住居址に切られる。また、南壁部分及び床面を攪乱による破壊を受け、西側は削平を受け残存しない。南北７m、東西５m前後の隅丸長方形を呈し、壁残高は残存部で４～９cmと浅い。周溝は検出されなかった。

ピットは主柱穴である４基が検出された。Ｐ２・Ｐ４は各々28cm・37cmの深さを有するが、Ｐ１・Ｐ３は撹乱により上面を破壊されており、残存部で19cm・24cmを計測する。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間より検出された。径35cm、深さ14cmの円形の掘り方に壺（１）を埋設して設けられる。出土状況から破損した土器を炉址内に敷き詰めたものと推測される。

遺物は壺（１）が１点図示できたのみである。

１は胴部中位に稜を有し、底部を除いて赤色塗彩が行われる。



第37図　Ｈ９号住居址

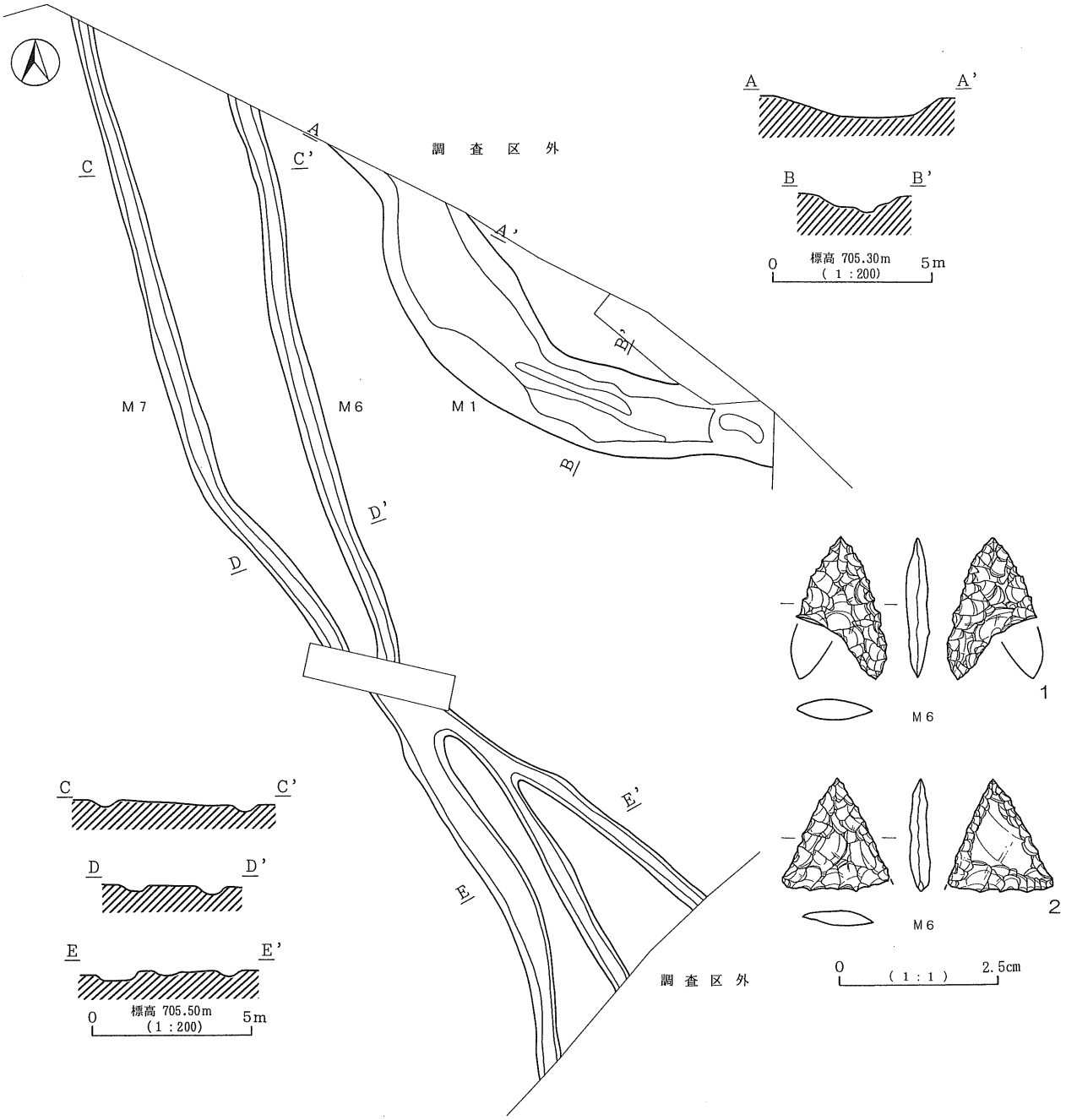
第18表　Ｈ９号住居址出土遺物観察表

No	器　種	法　量			成　形　・　調　整　・　文　様		備　考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外　面	内　面	
1	壺	－	8.4	〈21.3〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	炉

第2節　溝　址

M1・6・7号溝址（第38図、図版19・23）

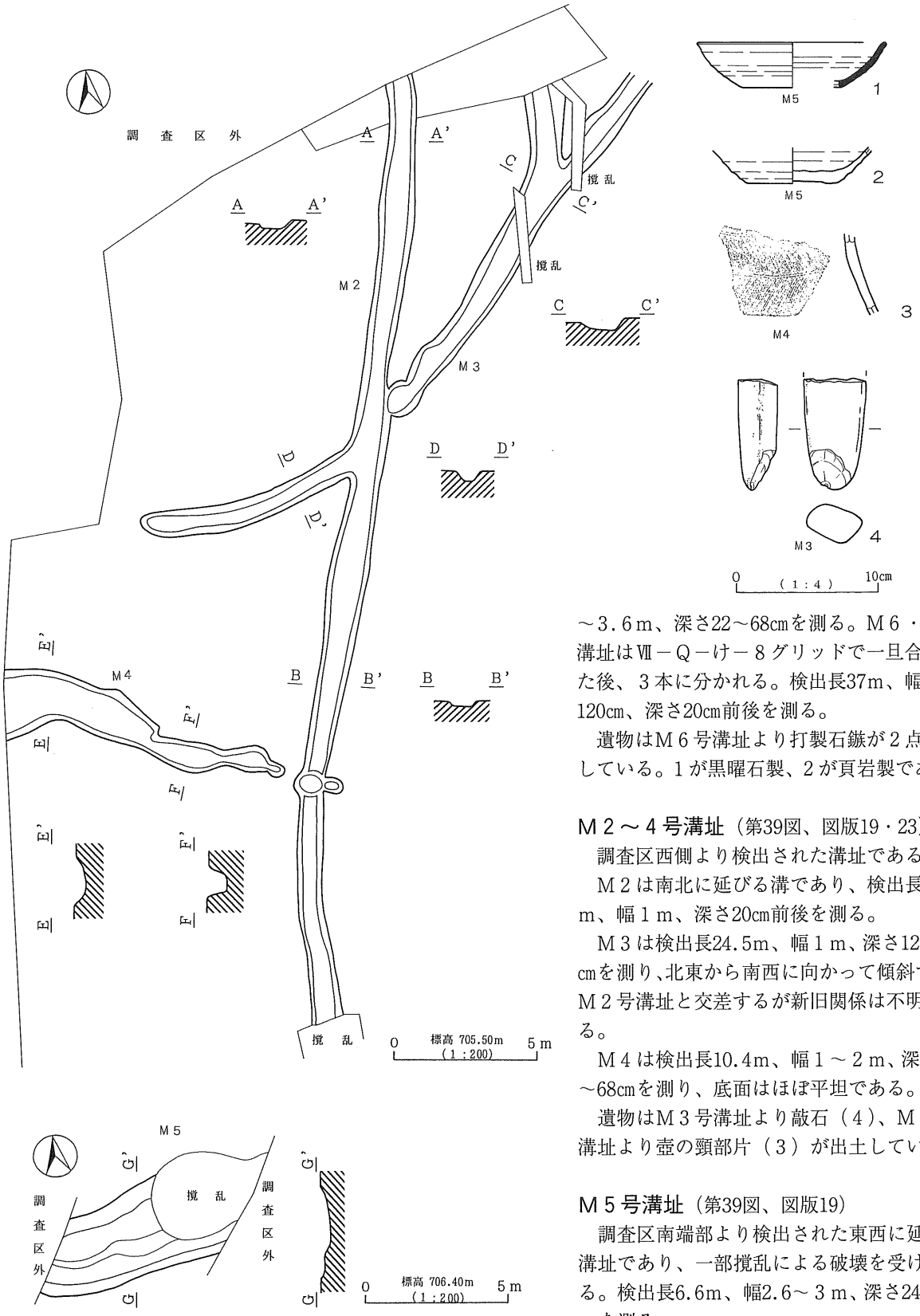
調査区北東部より検出された溝址であり、北西から南東に向かって傾斜する。M1号溝址は検出長19.7m、幅2.4



第38図　M1・6・7号溝址

第19表　M3・5・6号溝址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	打製石鏃	2.2	1.5	0.4			M6、0.7g
2	打製石鏃	1.8	1.7	0.3			M6、0.7g
1	須恵器　坏	(13.4)	(6.8)	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	M5
2	土師器　坏	—	6.4	〈2.3〉	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	M5
4	敲石	7.7	4.4	2.8			M3、119g



第39図　M２～５号溝址

～3.6m、深さ22～68cmを測る。M６・７号溝址はⅦ－Q－け－８グリッドで一旦合流した後、３本に分かれる。検出長37m、幅60～120cm、深さ20cm前後を測る。

遺物はM６号溝址より打製石鏃が２点出土している。１が黒曜石製、２が頁岩製である。

M２～４号溝址（第39図、図版19・23）

調査区西側より検出された溝址である。

M２は南北に延びる溝であり、検出長33.6m、幅１m、深さ20cm前後を測る。

M３は検出長24.5m、幅１m、深さ12～53cmを測り、北東から南西に向かって傾斜する。M２号溝址と交差するが新旧関係は不明である。

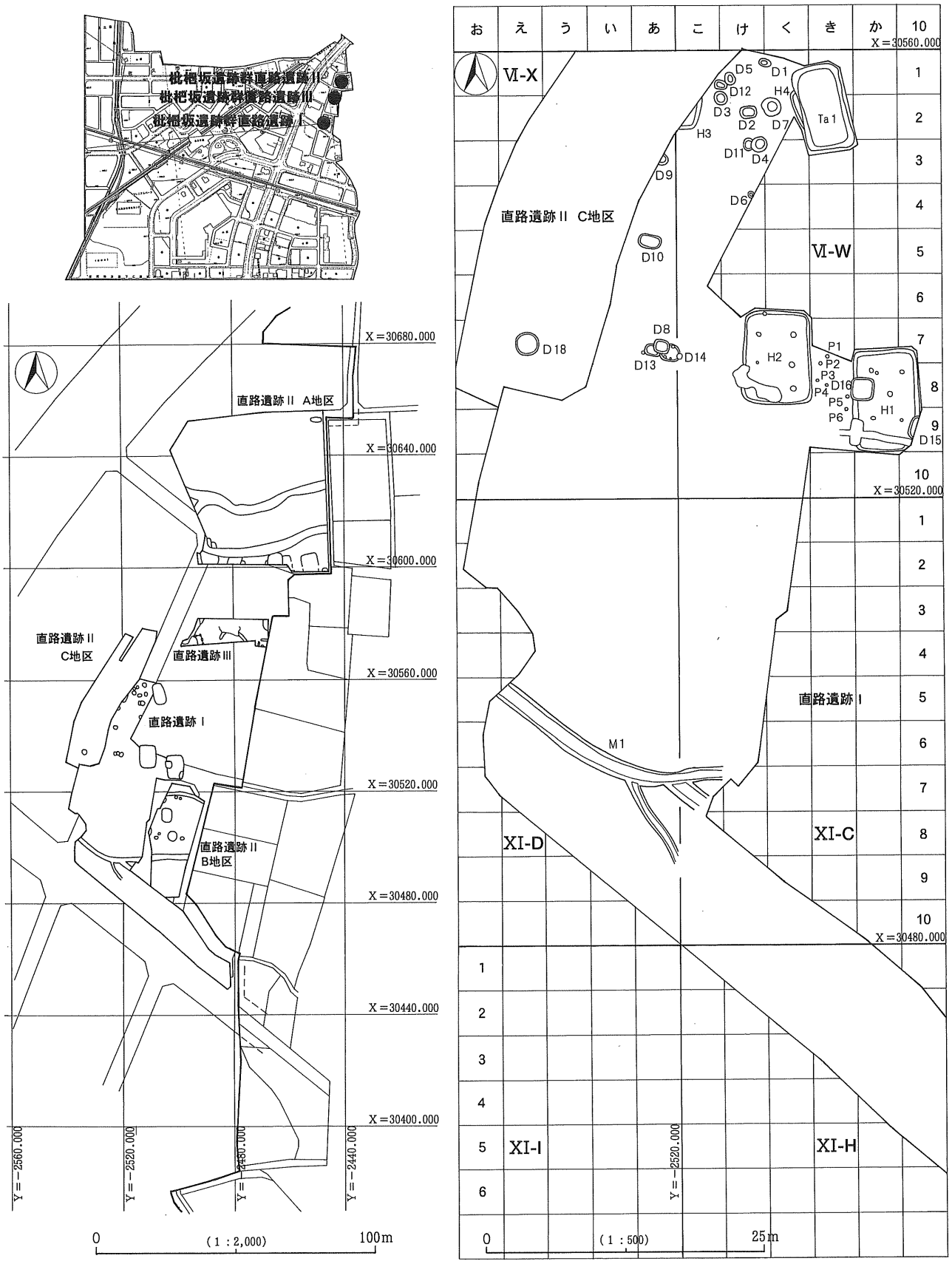
M４は検出長10.4m、幅１～２m、深さ36～68cmを測り、底面はほぼ平坦である。

遺物はM３号溝址より敲石（４）、M４号溝址より壺の頸部片（３）が出土している。

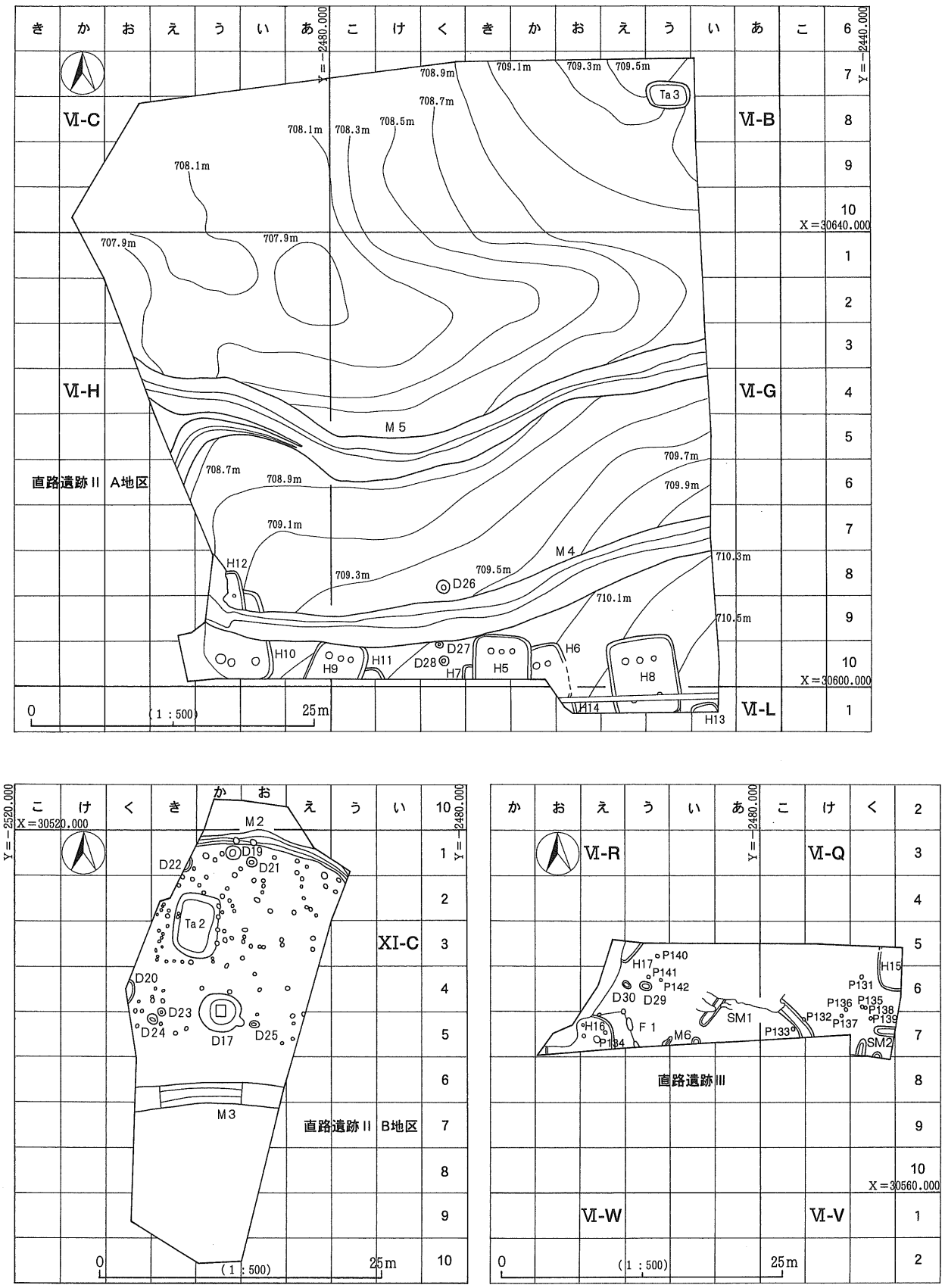
M５号溝址（第39図、図版19）

調査区南端部より検出された東西に延びる溝址であり、一部撹乱による破壊を受けている。検出長6.6m、幅2.6～３m、深さ24～41cmを測る。

遺物は須恵器坏（１）と土師器坏（２）がある。２は底部に回転糸切り痕が残る。



第40図　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅰ全体図



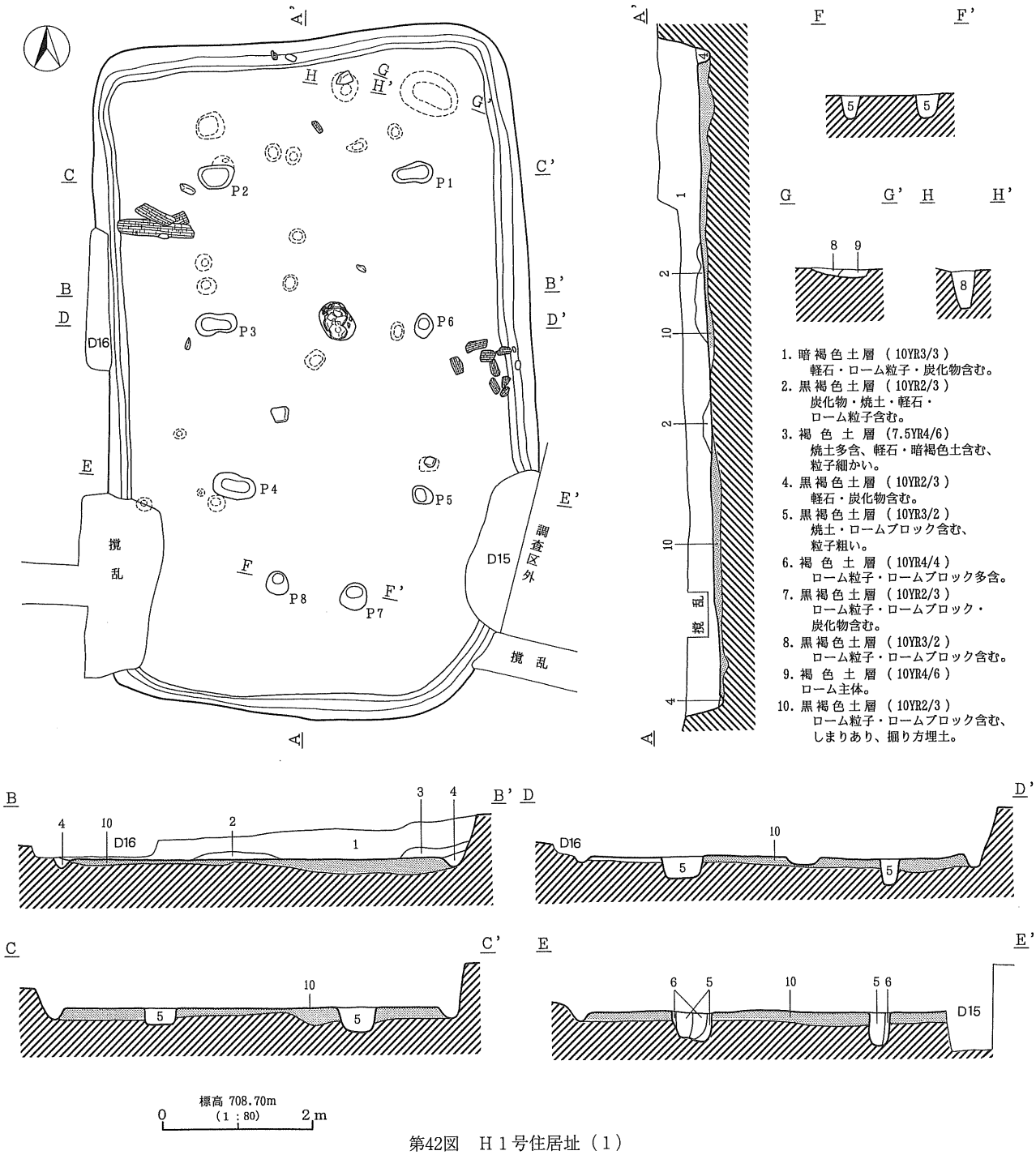
第41図　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ・Ⅲ全体図

第Ⅵ章　枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

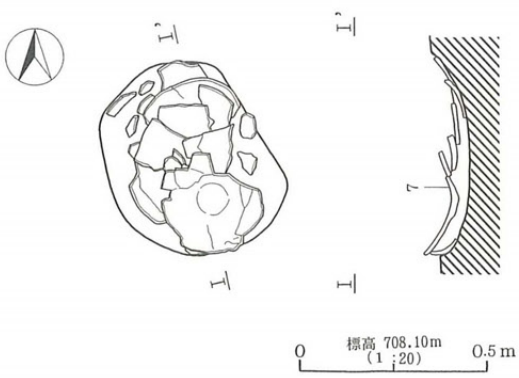
第１節　竪穴住居址

Ｈ１号住居址（第42～50図、図版24～26・44～48）

本住居址は直路遺跡Ⅰ調査区東端部、Ⅵ－Ｗ－か－８グリッドに位置し、東壁南側をＤ15号土坑、西壁中央をＤ16号土坑に切られる。また、南側は一部撹乱による破壊を受けている。南北8.16m、東西5.04mの隅丸長方形を呈し、



第42図　Ｈ１号住居址（１）

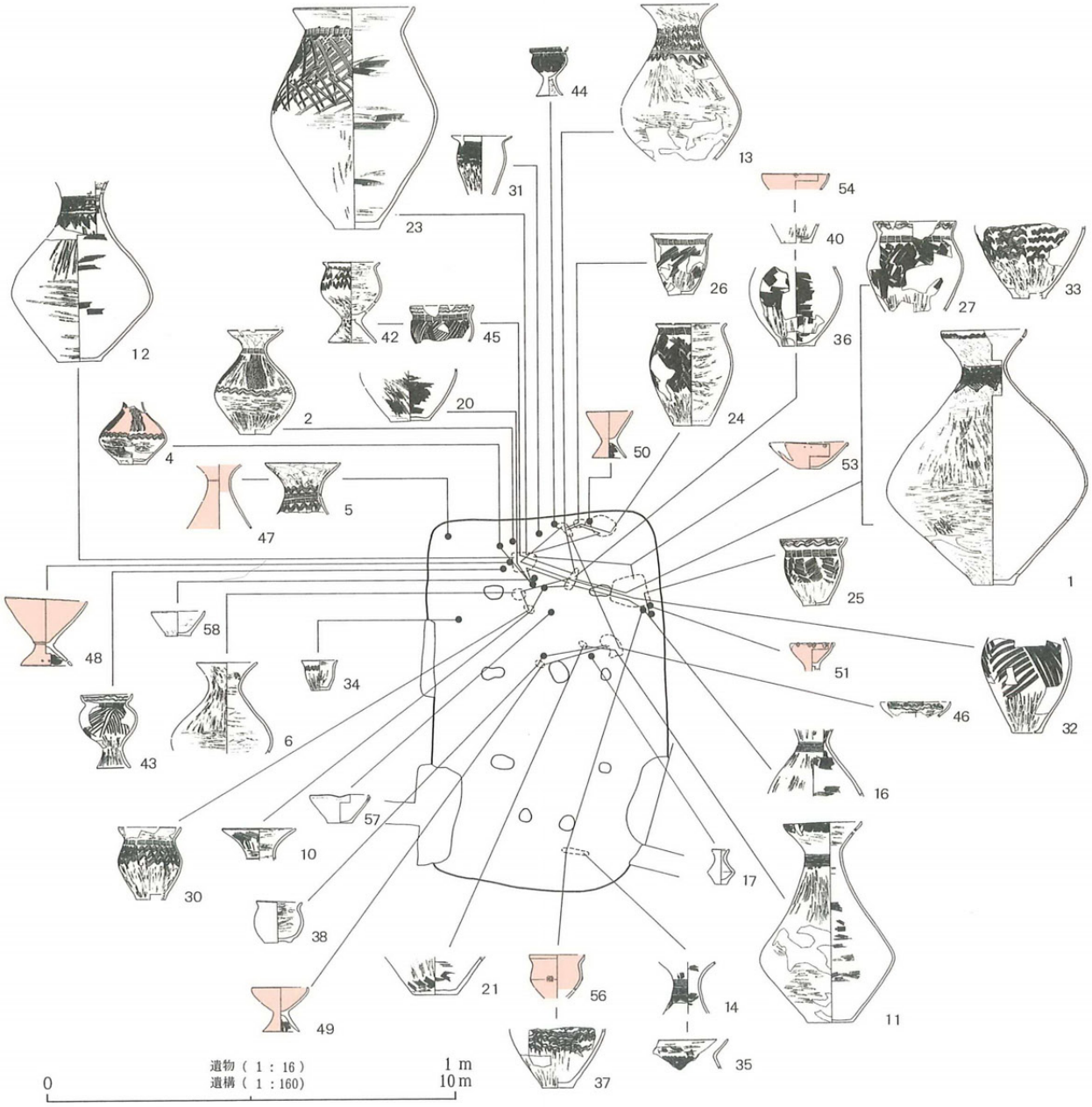


第43図　Ｈ１号住居址（２）

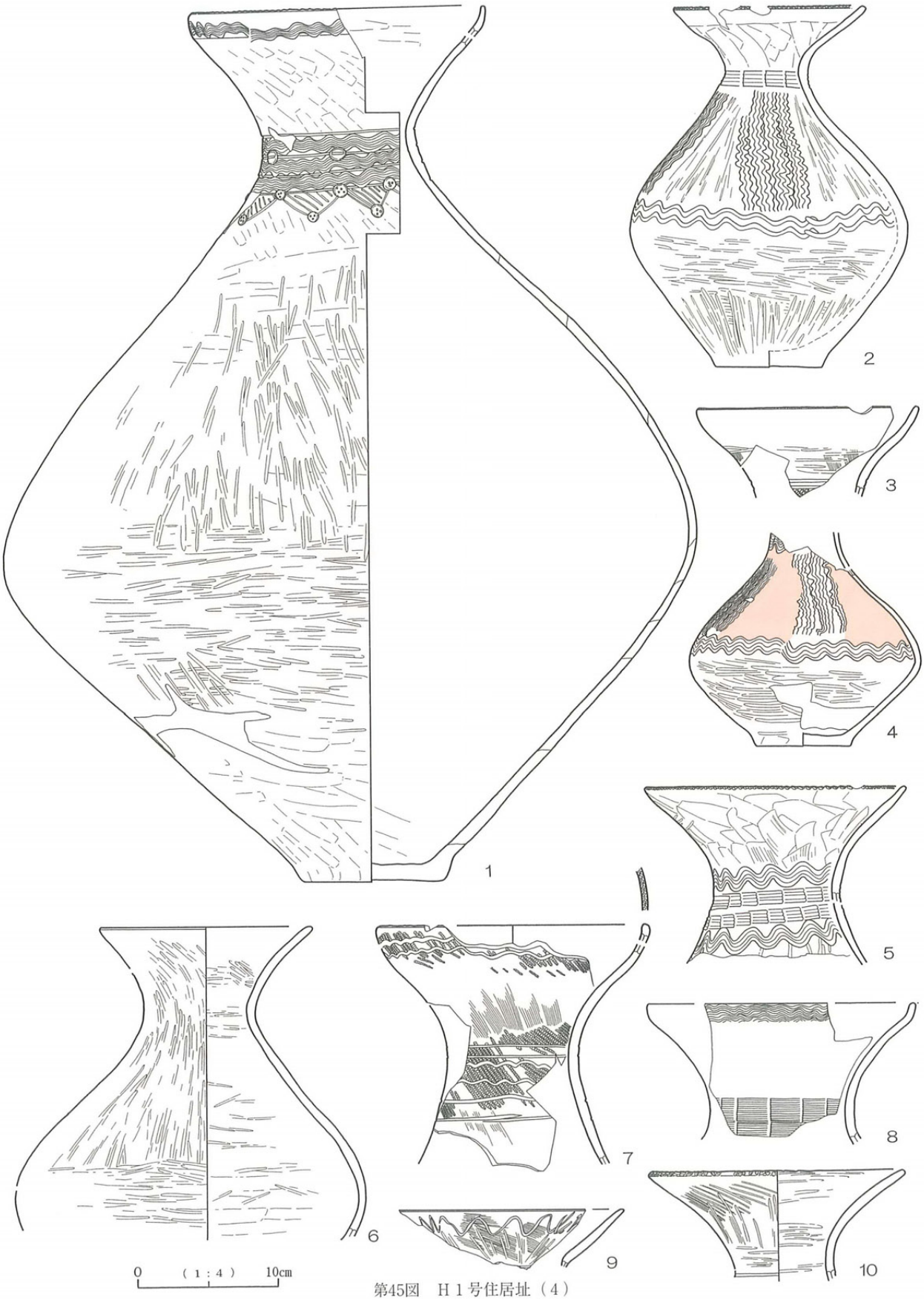
床面積41.1㎡を測る。壁残高は西壁で13㎝～28㎝を計測し、長軸方位はＮ－1°－Ｅとほぼ真北を示す。周溝は一部Ｄ15号土坑・攪乱によって破壊されているものの全周するものと考えられる。覆土は自然堆積であり、１層暗褐色土層が主体を占める。床面は10層を埋め戻して構築される。

ピットは床面上から８基が検出され、このうちＰ１～Ｐ６の６基が主柱穴を構成する。南北4.3m、東西2.7mの長方形に配され、20～30㎝の深さを有する。Ｐ７・Ｐ８は南壁より約1.4ｍ内側の床面上より検出され出入り口に関する柱穴と考えられる。

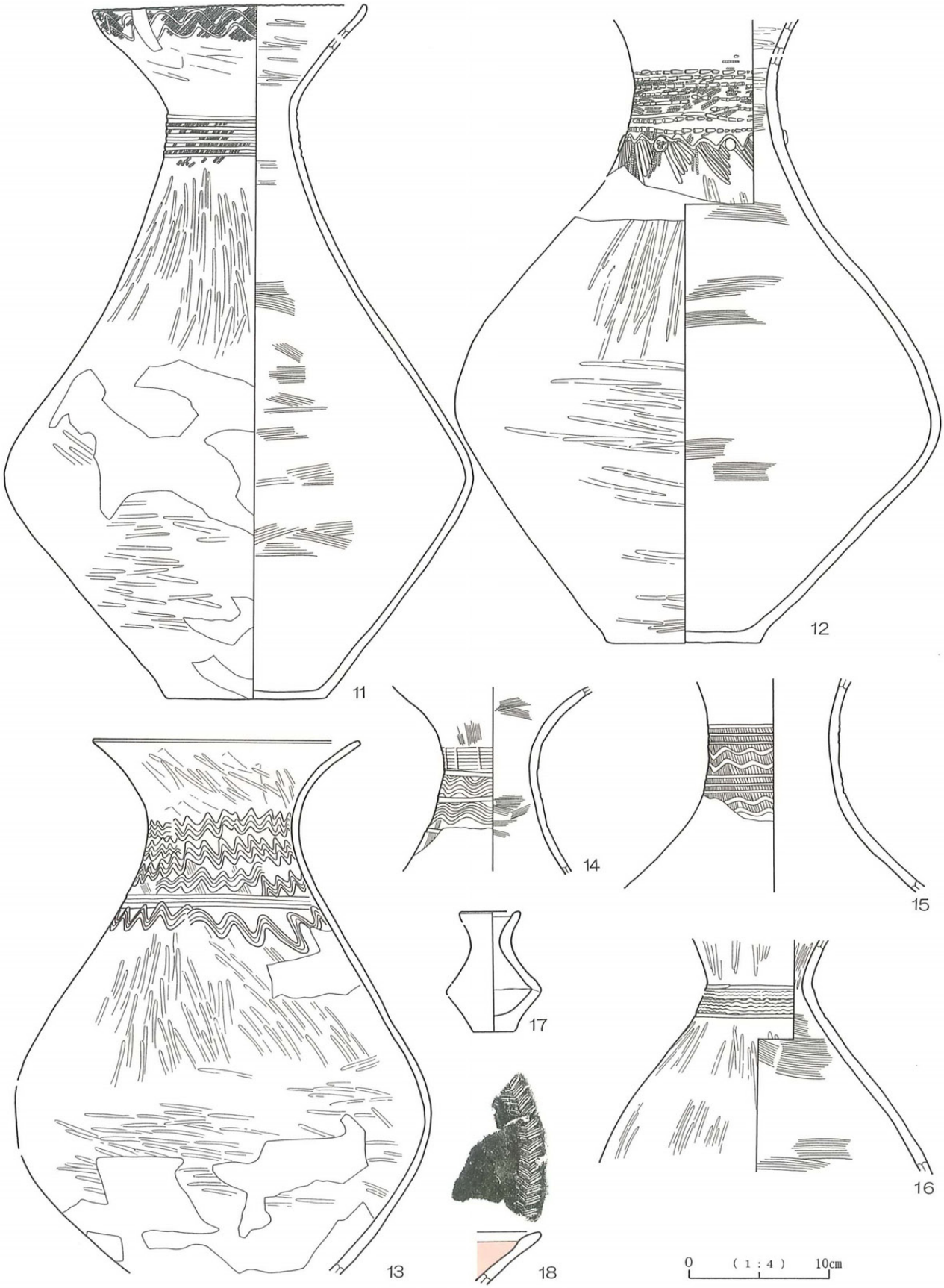
炉址は住居址のほぼ中央、Ｐ３・Ｐ６間に位置し、52㎝×42㎝、深さ10㎝の楕円形の掘り方に壺の底部（22）を埋設して設けられる。



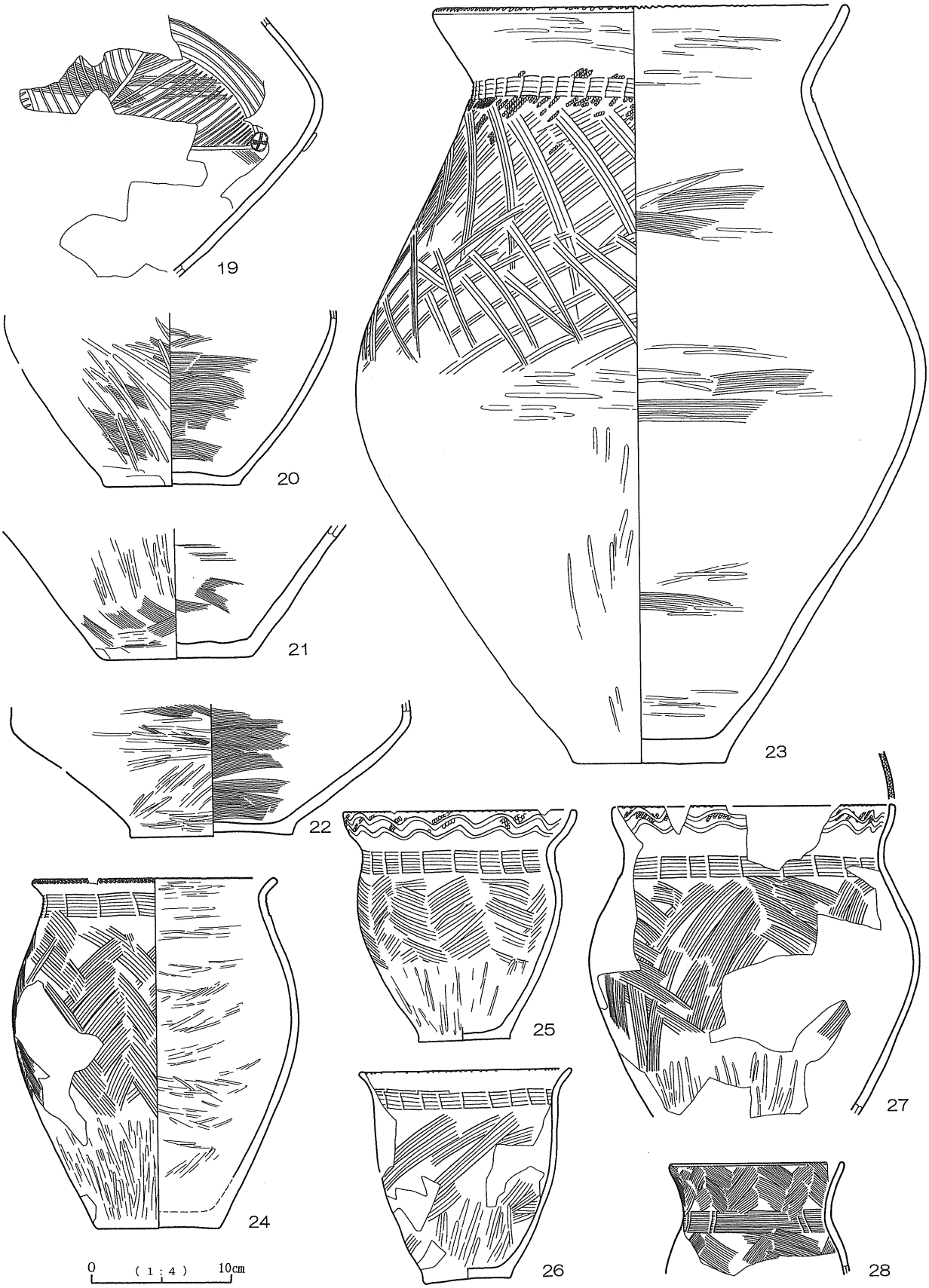
第44図　Ｈ１号住居址（３）



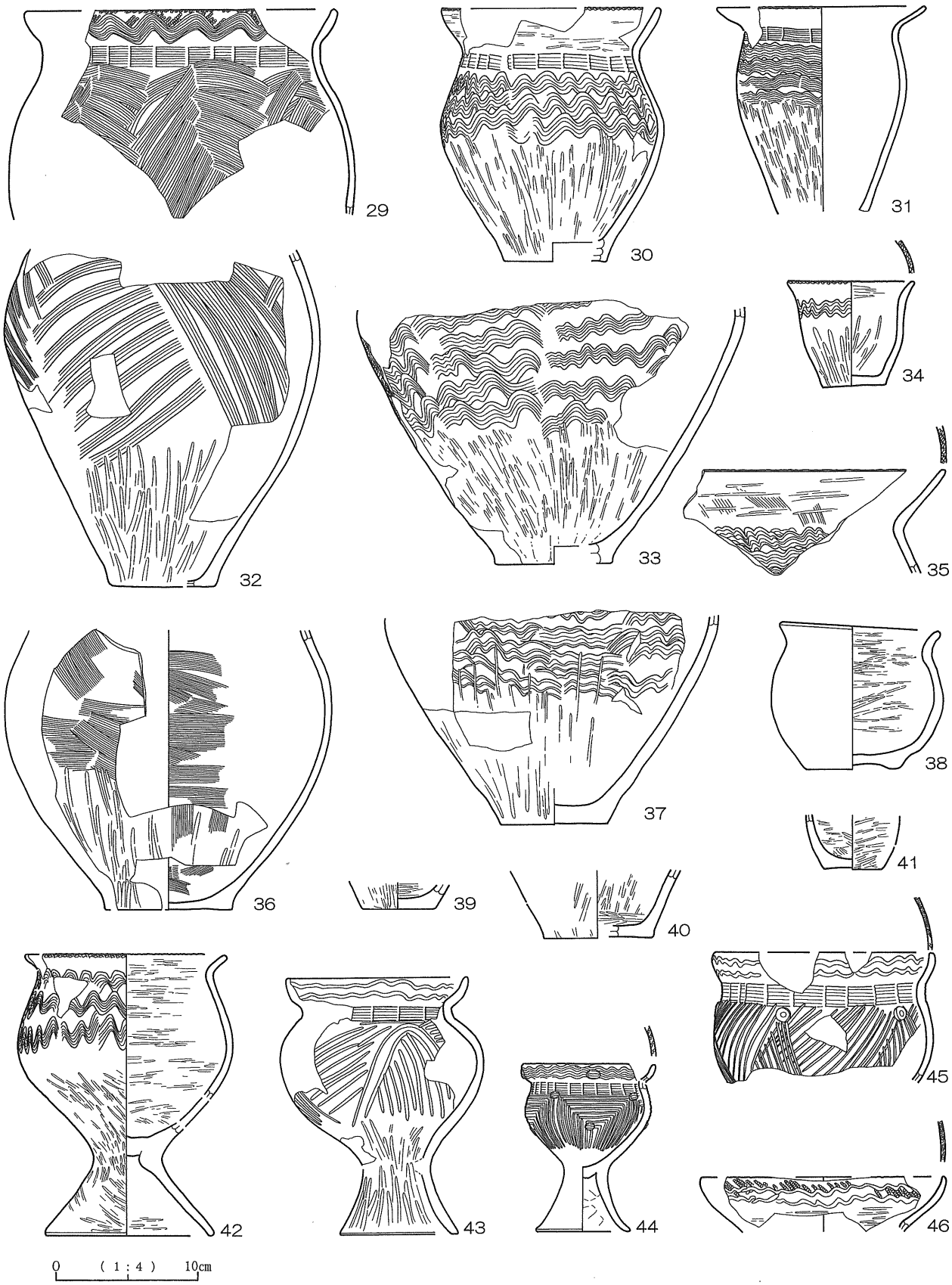
第45図　Ｈ１号住居址（４）



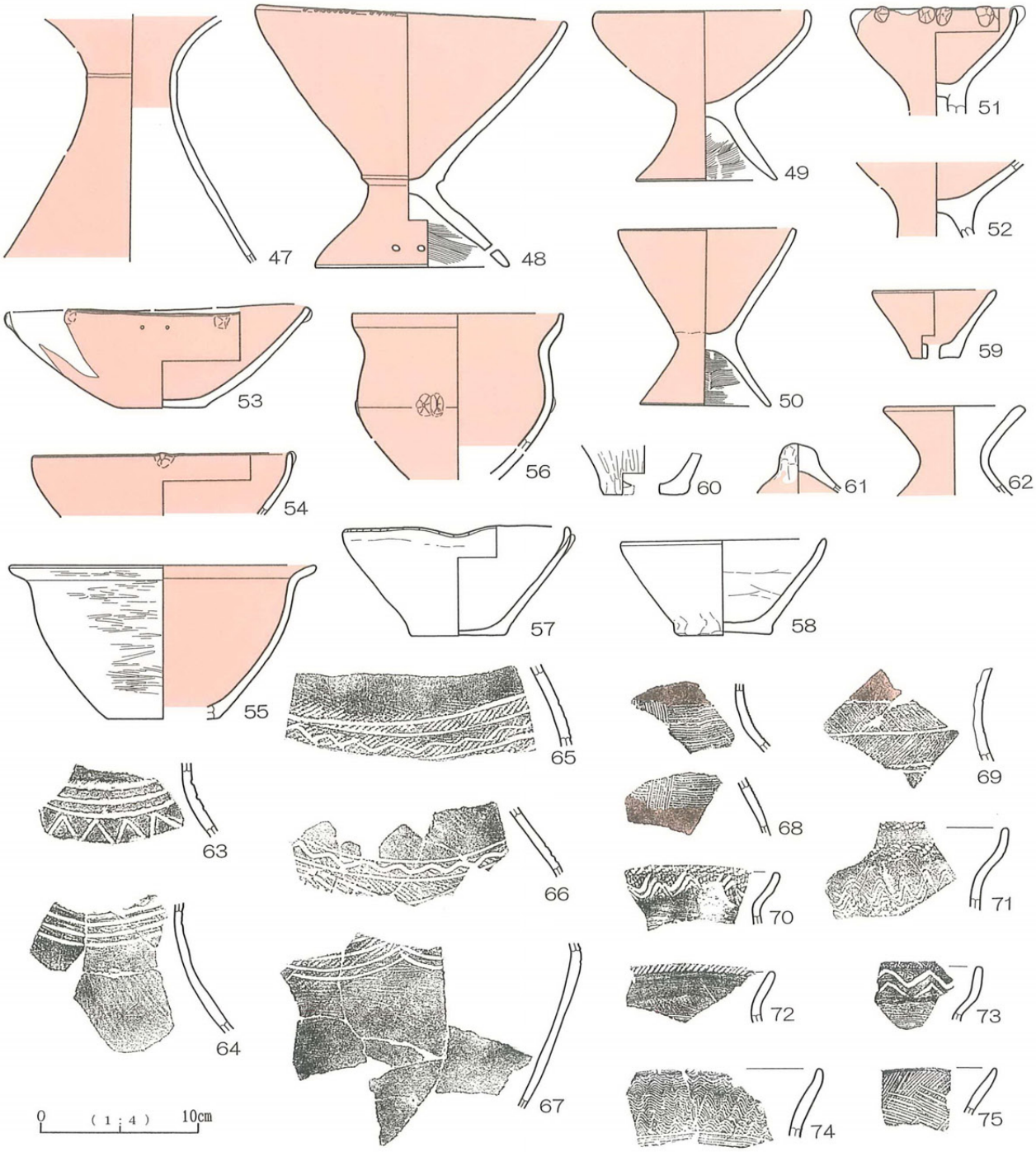
第46図　Ｈ１号住居址（５）



第47図　Ｈ１号住居址（６）



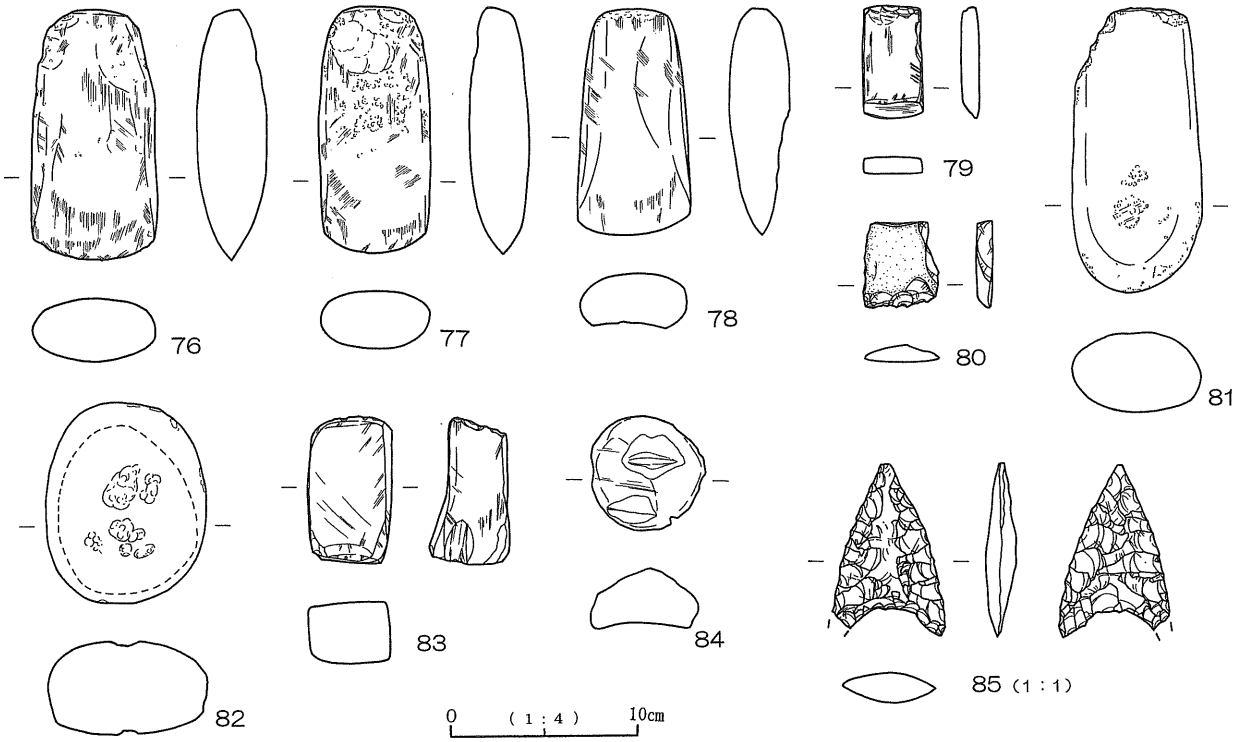
第48図　Ｈ１号住居址（７）



第49図　Ｈ１号住居址（８）

遺物は土器・石器が多量に出土しており、壺（１～23・46・47・62～69）、甕（24～37・39～45・70～75）、高坏（48～52）、鉢（38・53～58）、甑（59・60）、蓋（61）、石器（76～85）を図示した。遺物の分布状況については第44図に示したように、住居址北半部特に北壁下と炉址の周辺から集中して出土している。

壺には単純口縁のものと受口状のものとがある。受口状の１・８は口縁部に櫛描波状文が、７・11・46は縄文が施された後箆描による波状文が二条巡る。頸部文様には箆描横線文・鋸歯文、櫛描波状文の１、縄文を施した後箆描による刺突文・波状文・斜走文が巡る12、櫛描簾状文の２・８、波状文＋簾状文または横線文の５・13の他、縄文＋箆描横線文・波状文、箆描横線文＋櫛描簾状文・波状文など多様である。また、１・12には円形貼付文が加えられる。２・４は胴部最大径部分に箆描または櫛描による波状文が巡り、上半部に櫛描波状文が垂下される。頸部文様は２が



第50図　Ｈ１号住居址（９）

第20表　Ｈ１号住居址出土遺物観察表（１）

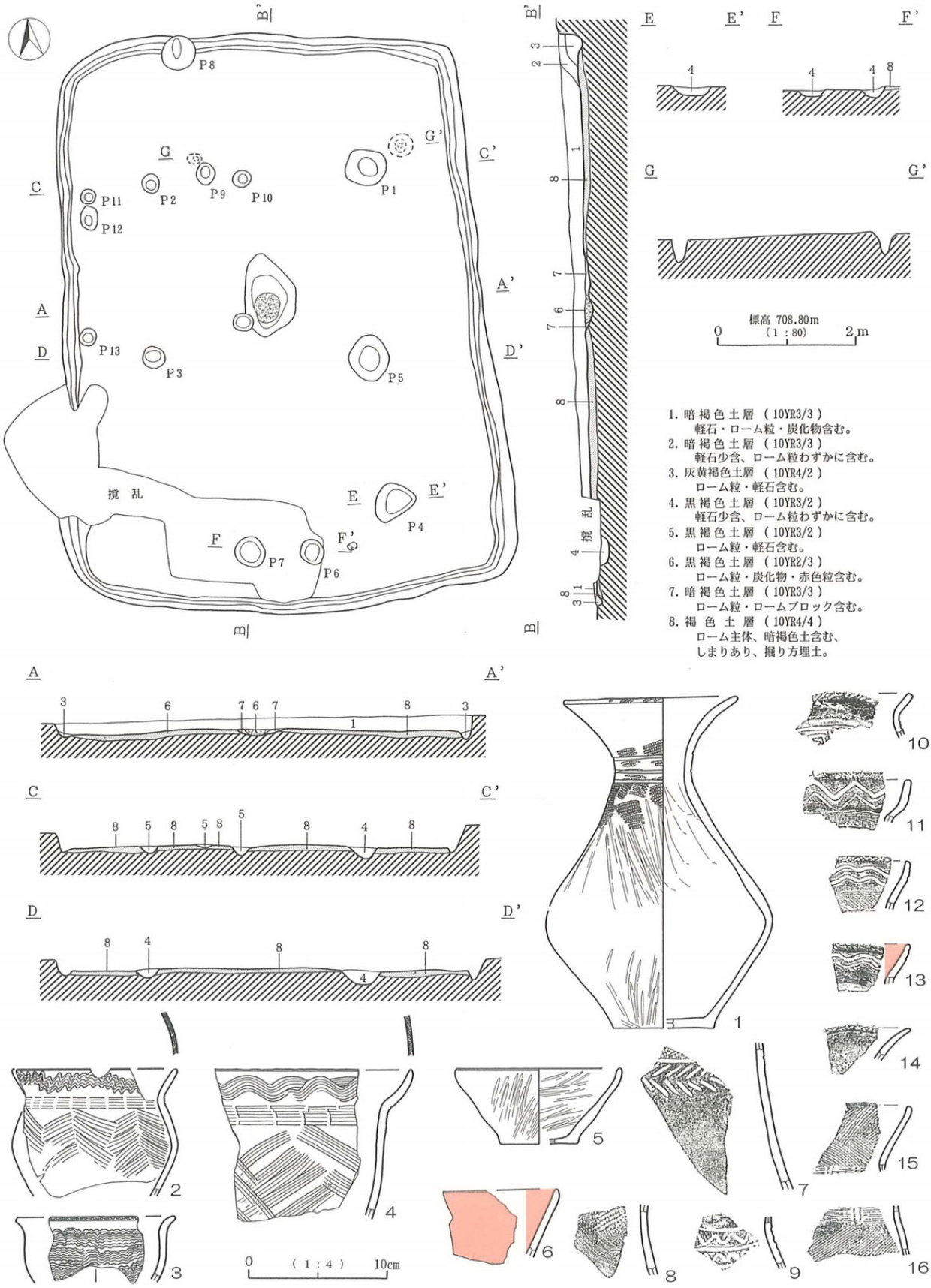
No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	(21.2)	10.2	62.1	口唇部縄文、口縁部櫛描波状文 頸部篦描横線文・鋸歯文、櫛描波状文	ヘラミガキ、ナデ	
2	壺	13.9	7.7	25.7	口唇部縄文、頸部櫛描簾状文、 櫛描垂下文、篦描波状文	ヘラミガキ	
3	壺	(16.0)	－	〈6.4〉	口唇部縄文、頸部篦描横線文・縄文	ヘラミガキ	
4	壺	－	6.8	〈15.1〉	ヘラミガキ、赤色塗彩、 櫛描波状文・櫛描垂下文		
5	壺	18.8	－	〈12.5〉	口唇部縄文、 頸部櫛描波状文・櫛描簾状文	ヘラミガキ	
6	壺	(15.2)	－	〈22.0〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
7	壺	(19.5)	－	〈17.0〉	口唇部縄文、口縁部縄文・篦描波状文 頸部縄文・篦描横線文・篦描波状文	ハケメ	
8	壺	(19.2)	－	〈9.6〉	口縁部櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
9	壺						
10	壺	18.5	－	〈7.5〉	口唇部縄文、頸部篦描横線文	ヘラミガキ	
11	壺	(19.6)	11.4	49.0	口唇部縄文、口縁部縄文、篦描波状文 頸部縄文、篦描横線文	ヘラミガキ、ハケメ	
12	壺	－	11.1	〈44.0〉	頸部縄文、篦描刺突文、波状文・斜走文 円形貼付文	ヘラミガキ、ハケメ	
13	壺	19.0	－	〈37.8〉	頸部櫛描横線文・櫛描波状文	ハケメ、ヘラミガキ	
14	壺	－	－	〈12.7〉	櫛描簾状文・波状文、篦描横線文	ヘラミガキ	
15	壺	－	－	〈14.6〉	篦描横線文・波状文	ヘラミガキ、剥離	
16	壺	－	－	〈16.4〉	櫛描波状文、篦描横線文	ヘラミガキ、ハケメ	
17	壺	(4.4)	2.9	8.5	ナデ	ナデ	
18	壺	－	－	〈3.7〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩 口縁部櫛描羽状文	
19	壺	－	－	〈18.5〉	篦描斜走文・横線文、円形貼付文	ハケメ、剥離	
20	壺	－	9.9	〈12.3〉	ハケメ、ヘラミガキ	ハケメ	
21	壺	－	(11.0)	〈9.3〉	ヘラミガキ	ナデ、剥離	
22	壺	－	11.8	〈9.4〉	ヘラミガキ	ハケメ	炉
23	甕	30.0	11.0	54.2	口唇部刻目、頸部縄文・櫛描簾状文 胴部櫛描斜格子目文	ヘラミガキ	
24	甕	(7.7)	(8.8)	25.0	口唇部縄文、頸部櫛描簾状文、 櫛描羽状文	ヘラミガキ	

簾状文、４が波状文である。赤彩は４・18・47にみられるのみであり、18は口縁部内面に櫛描羽状文が施文される。

甕の口縁部形態には短く外反する単純口縁のもの、内彎して受口状となるもの、端部がわずかに受口気味に立ち上がるものとがあり、28を除いて口唇部に縄文または刻目が施される。単純口縁の24・26・31は頸部に櫛描簾状文が巡り、胴部に櫛描羽状文・斜走文・波状文が施文される。小型の34は頸部に櫛描波状文が一条巡るのみである。口縁部が内彎して受口状となるものには、胴部に櫛描による羽状文を施文し、口縁部に縄文を施した後箆描による波状文を二条巡らす25・27と櫛描波状文を巡らせる29、胴部上半に波状文を施し口縁部は無文とする30がある。いずれも口唇

第21表　Ｈ１号住居址出土遺物観察表（２）

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
25	甕	16.8	6.6	16.4	口唇部縄文、口縁部縄文・箆描波状文 頸部櫛描簾状文、胴部櫛描羽状文	ヘラミガキ	
26	甕	(15.2)	6.1	15.2	口唇部刻目、頸部櫛描簾状文 胴部櫛描斜走文	ヘラミガキ	
27	甕	(20.4)	－	〈22.1〉	口唇部縄文、口縁部縄文・箆描波状文 頸部櫛描簾状文、胴部櫛描羽状文	ヘラミガキ	
28	甕	(12.6)	－	〈7.8〉	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
29	甕	(22.0)	－	〈14.4〉	口唇部縄文、口縁部縄文、櫛描波状文 櫛描羽状文	ヘラミガキ	炉
30	甕	15.6	7.2	17.7	口唇部縄文、頸部櫛描簾状文、 櫛描波状文	ヘラミガキ	
31	甕	(14.7)	－	〈14.3〉	口唇部縄文、頸部櫛描簾状文、 櫛描波状文	ヘラミガキ	
32	甕	－	7.5	〈23.5〉	櫛描羽状文	ヘラミガキ	
33	甕	－	(8.3)	〈17.7〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	
34	甕	9.0	4.9	7.4	口唇部縄文、頸部櫛描波状文	ヘラミガキ	
35	甕	－	－	〈7.2〉	口唇部縄文、頸部櫛描波状文	ヘラミガキ	
36	甕	－	(9.0)	〈19.5〉	ハケメ、ヘラミガキ	ハケメ	
37	甕	－	7.6	〈14.5〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	
38	鉢	11.4	6.6	10.0	ナデ	ヘラミガキ、ナデ	
39	甕	－	5.1	〈1.9〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
40	甕	－	7.8	〈4.7〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
41	甕	－	4.1	〈3.7〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
42	台付甕	14.2	11.9	19.7	口唇部縄文、櫛描波状文	ヘラミガキ	
43	台付甕	(12.8)	8.2	17.9	口縁部箆描波状文、頸部櫛描簾状文 体部箆描山形文・斜走文	ヘラミガキ	
44	台付甕	(9.4)	6.6	11.7	口唇部縄文、口縁部櫛描波状文、 頸部櫛描簾状文、胴部連続コ字文	体部ヘラミガキ、台部ナデ	
45	甕	(17.8)	－	〈9.2〉	口唇部縄文、口縁部箆描波状文、 頸部櫛描簾状文、胴部箆描斜走文	ヘラミガキ	
46	壺	(17.4)	－	〈3.8〉	口唇部縄文、口縁部縄文・箆描波状文	ヘラミガキ	
47	壺	－	－	〈15.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩、ナデ、剥離	
48	高坏	20.2	12.6	16.3	ヘラミガキ、赤色塗彩 口唇部縄文	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ハケメ	脚部穿孔２孔一対
49	高坏	(14.1)	9.2	10.9	ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ハケメ	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩	
50	高坏	11.5	8.5	11.3	ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ハケメ、赤色顔料付着	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩	
51	高坏	10.4	－	〈6.8〉	ヘラミガキ、赤色塗彩、口縁部突起	ヘラミガキ、赤色塗彩	
52	高坏	－	－	〈4.4〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
53	鉢	19.6	5.9	6.3	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁部突起６、穿孔
54	鉢	(16.7)	－	〈3.9〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
55	鉢	(19.7)	(7.2)	9.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ、赤色塗彩	
56	鉢	13.6	－	〈10.6〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 胴中位に突起	ヘラミガキ、赤色塗彩	
57	鉢	14.7	6.0	7.0	ヘラミガキ、口唇部刻目	ヘラミガキ	
58	鉢	13.3	6.3	6.0	ナデ	ナデ	
59	甑	3.1	8.0	4.4	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
60	甑	－	5.4	〈3.1〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
61	蓋	－	－	〈3.1〉	ナデ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
62	壺	(9.2)	－	〈5.7〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ、ヘラミガキ、赤色顔料付着	
76	磨製石斧	13.2	6.7	3.8			555 g
77	磨製石斧	13.0	5.9	3.3			455 g
78	磨製石斧	12.0	6.1	3.2			372 g
79	磨製石斧	6.0	3.2	0.9			41 g
80	スクレイパー	4.5	4.1	0.9			23 g
81	敲石	15.1	7.0	4.3			720 g
82	擦石	10.6	8.6	5.0			650 g
83	砥石	7.7	4.5	4.2			210 g
84	石製品	6.0	6.1	3.1			35.6 g
85	打製石鏃	2.3	1.5	0.4			0.9 g


P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
撹乱
標高 708.80m
0 (1:80) 2m
1. 暗褐色土層（10YR3/3）
軽石・ローム粒・炭化物含む。
2. 暗褐色土層（10YR3/3）
軽石少含、ローム粒わずかに含む。
3. 灰黄褐色土層（10YR4/2）
ローム粒・軽石含む。
4. 黒褐色土層（10YR3/2）
軽石少含、ローム粒わずかに含む。
5. 黒褐色土層（10YR3/2）
ローム粒・軽石含む。
6. 黒褐色土層（10YR2/3）
ローム粒・炭化物・赤色粒含む。
7. 暗褐色土層（10YR3/3）
ローム粒・ロームブロック含む。
8. 褐色土層（10YR4/4）
ローム主体、暗褐色土含む、
しまりあり、掘り方埋土。
0 (1:4) 10cm

第51図　Ｈ２号住居址

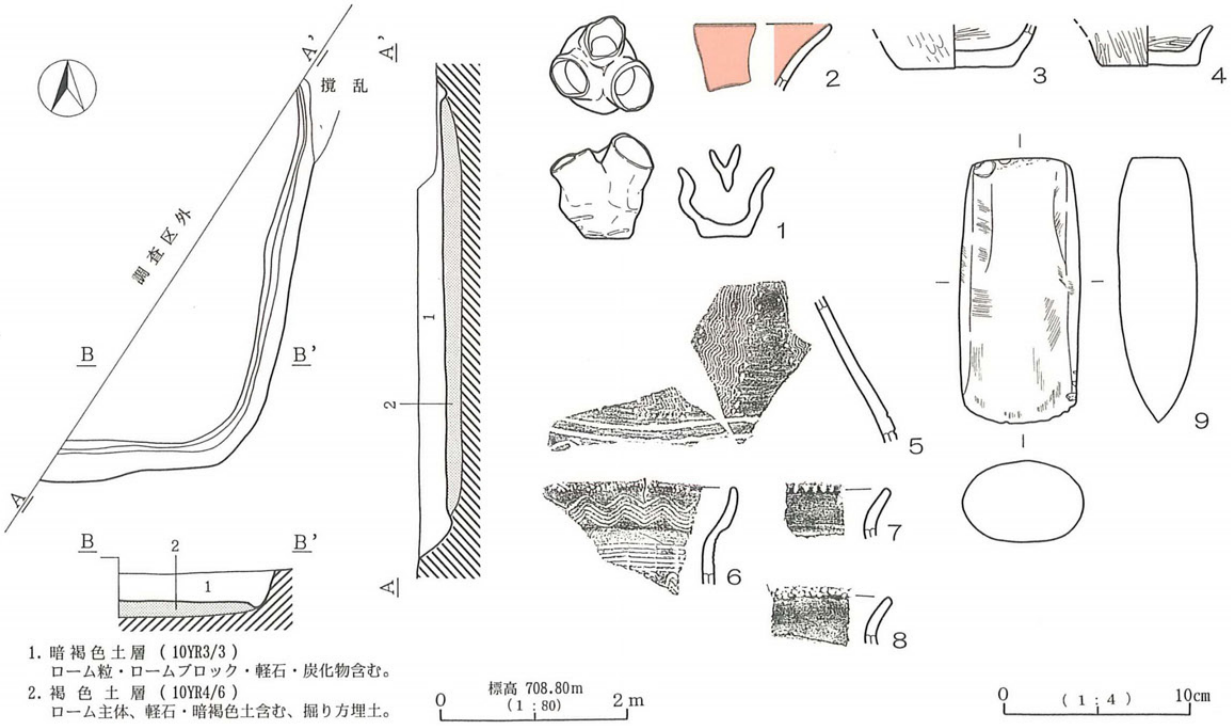
部に縄文が施され、頸部には簾状文が巡る。23・28は端部が受口状に立ち上がるものであり、23は胴部上半に櫛描斜格子目文、28は口縁部から胴部に羽状文が施文される。頸部には簾状文が巡るが、23には口唇部に刻目、頸部に縄文が施される。台付甕には単純口縁で波状文の施文される42と受口状の口縁部に箆描または櫛描による波状文、胴部に箆描の斜走文・コの字重ね文が施文される43～45がある。44・45は口唇部に縄文、口縁部・胴部に円形貼付文が加えられる。

高坏は脚部内面を除いて赤彩される。48は脚部に２孔一対の穿孔が行われ、51は口縁部に突起が付加される。鉢には体部が直線的に開く53・54・57・58、口縁部が短く外反する55の他、甕形の38・56があり、57には片口が造り出される。また、53・54は口縁部、56は体部中位に突起が付加される。甑は単孔で59は赤彩される。61は蓋で外面頂部を除いて内外面に赤彩される。

磨製石斧のうち76～78は太型蛤刃石斧であり、西壁下北側（76）・北壁下中央（77）・東壁下中央（78）より出土した。扁平片刃石斧である79はＰ２北側からの出土である。砥石（83）は四面が使用されている。打製石鏃は黒曜石製の85が１点出土している。

第22表　Ｈ２号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	12.7	(7.4)	23.8	口唇部縄文、頸部縄文、箆描横線文	ヘラミガキ、ナデ	
2	甕	(11.9)	－	〈9.1〉	口唇部縄文、口縁部櫛描波状文、頸部櫛描簾状文、胴部櫛描羽状文	ヘラミガキ	
3	甕	(11.5)	－	〈4.7〉	口唇部縄文、胴部櫛描波状文	ヘラミガキ	
4	甕	－	－	〈10.7〉	口唇部縄文、口縁部櫛描波状文、頸部櫛描簾状文、胴部櫛描羽状文	ヘラミガキ	
5	鉢	(12.0)	(5.7)	〈5.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
6	鉢	－	－	〈4.9〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	



第52図　Ｈ３号住居址

第23表　Ｈ３号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	ミニチュア土器	－	2.5	5.5	ナデ	ナデ	
2	壺	－	－	〈3.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
3	甕	－	6.1	〈2.1〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
4	甕	－	5.2	〈2.1〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
9	磨製石斧	14.0	6.5	4.3			710g

Ｈ２号住居址（第51図、図版26・48）

本住居址は直路遺跡Ⅰ調査区東側、Ⅵ－Ｗ－く－７グリッドに位置し、他遺構との重複関係はないものの、南西部分を撹乱による破壊を受けている。南北7.88m、東西5.60mの隅丸長方形を呈し、床面積42.8m²を測る。壁残高は西壁で約20cmを計測するが、南壁付近は床面近くまで削平を受けている。長軸方位はＮ－１°－Ｅとほぼ真北を示す。周溝は全周する。覆土は自然堆積であり、１層暗褐色土層が主体を占める。床面は８層を埋め戻して構築される。

ピットは13基が検出された。このうちＰ１～Ｐ５が主柱穴であり、南西に位置する主柱穴は撹乱によって破壊されており残存しない。Ｐ６・Ｐ７は南壁下中央から検出され、出入り口に関する柱穴と考えられる。上面を撹乱により破壊されているが、床面からの深さは15cm前後である。

炉址は住居址のほぼ中央に構築されており、108cm×76cmの規模を有する地床炉である。

遺物は壺（１・７～９）、甕（２～４・10～16）、鉢（５・６）を図示した。

１は単純口縁の所謂細頸壺である。口唇部と頸部に縄文を施した後、頸部に箆描による横線文が３条巡る。南壁直下東側からの出土である。甕には口縁部が外反する単純口縁のものと内彎して受口状になるものの他に端部がわずかに受口気味に立ち上がる15がある。単純口縁の２は頸部に簾状文が巡り、口縁部に波状文、胴部に羽状文が施文される。受口状となる４・11～13は櫛描または箆描による波状文が口縁部に巡る。

鉢には直線的に立ち上がる体部から端部がわずかに内彎する５・６があり、６は内外面に赤彩される。

Ｈ３号住居址（第52図、図版27・48）

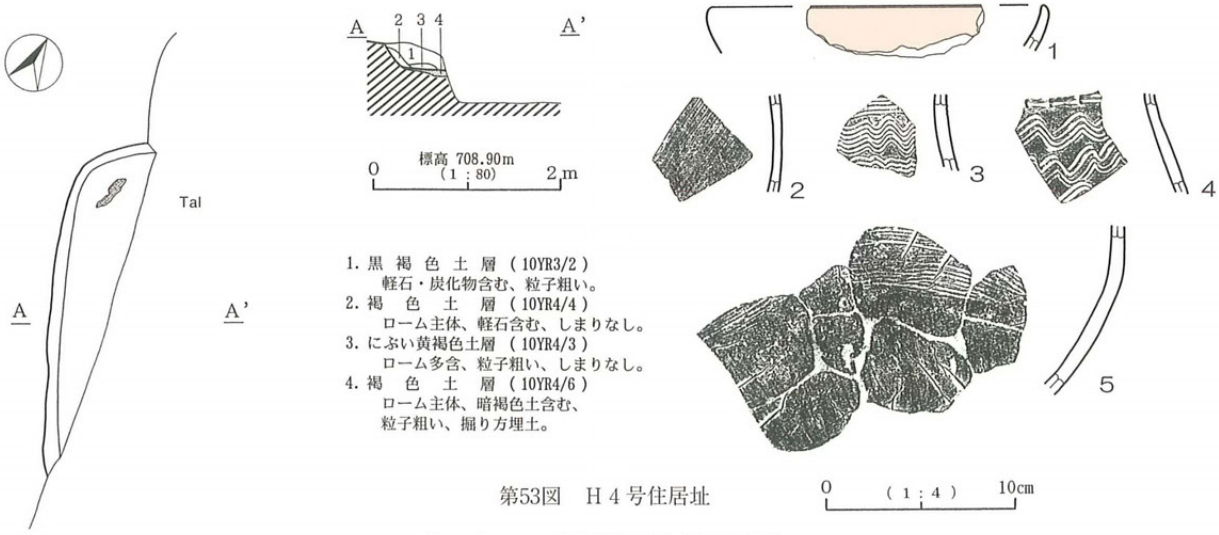
本住居址は直路遺跡Ⅰ調査区北側、Ⅵ－Ｗ－こ－２グリッドに位置する。大半が直路遺跡ⅡＣ地区に延びるが削平を受けたためか残存しない。したがって規模・形状等は不明である。壁残高は30cm内外を測る。調査部分の壁下からは幅10～15cmの周溝が確認された。覆土は１層からなり、床面は２層を埋め戻して構築される。ピット・炉址は調査範囲からは検出されなかった。

遺物はミニチュア土器（１）、壺（２・５）、甕（３・４・６～８）、石器（９）を図示した。

１は多口縁をもつミニチュア土器である。覆土上層からの出土であり混入品であろうか。９は太型蛤刃の磨製石斧であり、調査部分北端部床面上から出土した。

Ｈ４号住居址（第53図、図版27）

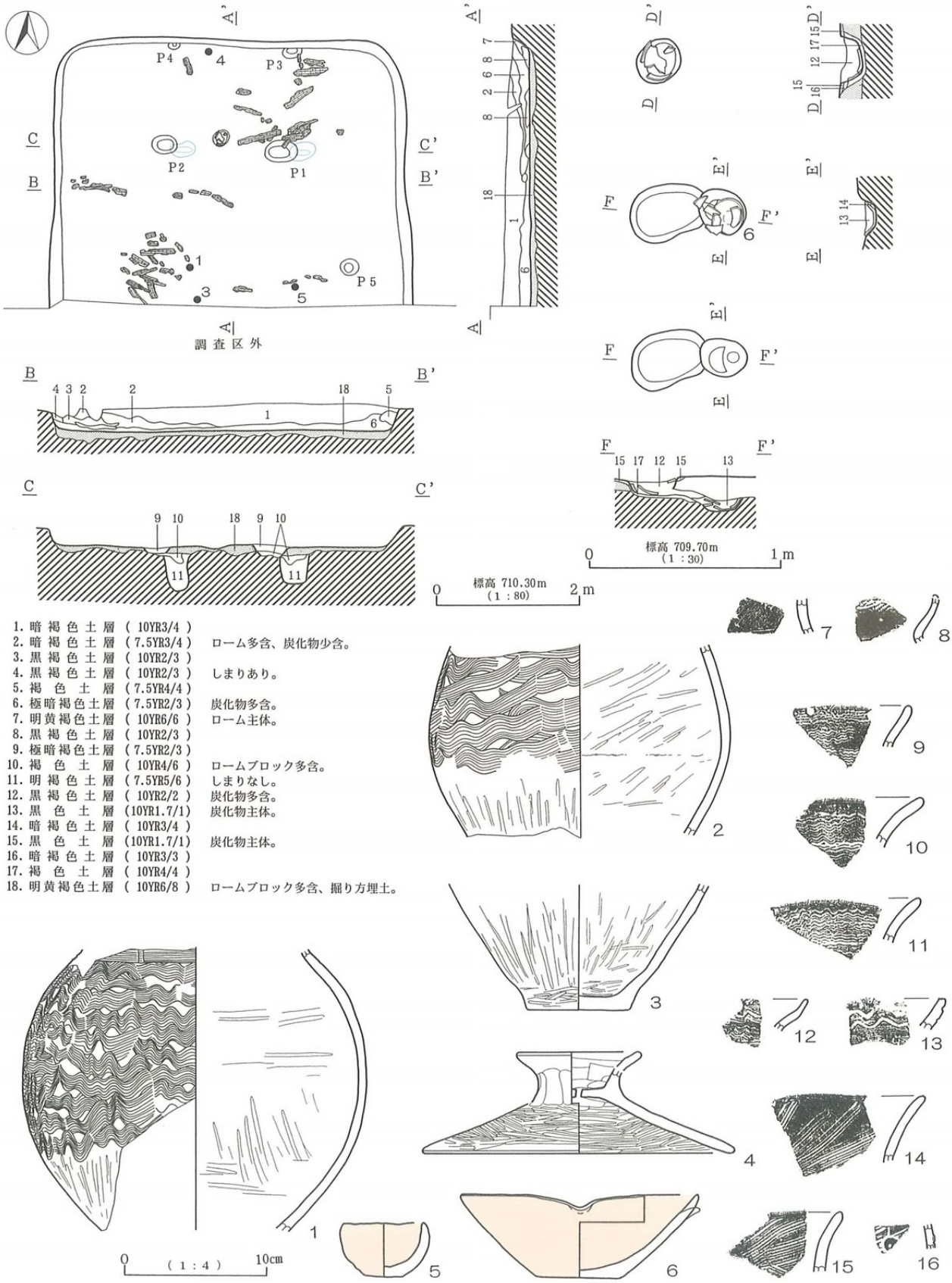
本住居址は直路遺跡Ⅰ調査区北端部、Ⅵ－Ｗ－く－２グリッドに位置するが、大半をTa１号竪穴状遺構に切られており、西壁北側が検出されたのみであるため、規模・形状等は不明である。壁残高は25cmを測る。覆土は自然堆積と



第53図　Ｈ４号住居址

第24表　Ｈ４号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	鉢	(18.1)	－	〈2.4〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	



1. 暗 褐 色 土 層 (10YR3/4)
2. 暗 褐 色 土 層 (7.5YR3/4)　ローム多含、炭化物少含。
3. 黒 褐 色 土 層 (10YR2/3)
4. 黒 褐 色 土 層 (10YR2/3)　しまりあり。
5. 褐 色 土 層 (7.5YR4/4)
6. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3)　炭化物多含。
7. 明黄褐色土層 (10YR6/6)　ローム主体。
8. 黒 褐 色 土 層 (10YR2/3)
9. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3)
10. 褐 色 土 層 (10YR4/6)　ロームブロック多含。
11. 明 褐 色 土 層 (7.5YR5/6)　しまりなし。
12. 黒 褐 色 土 層 (10YR2/2)　炭化物多含。
13. 黒 色 土 層 (10YR1.7/1)　炭化物主体。
14. 暗 褐 色 土 層 (10YR3/4)
15. 黒 色 土 層 (10YR1.7/1)　炭化物主体。
16. 暗 褐 色 土 層 (10YR3/3)
17. 褐 色 土 層 (10YR4/4)
18. 明黄褐色土層 (10YR6/8)　ロームブロック多含、掘り方埋土。

第54図　Ｈ５号住居址

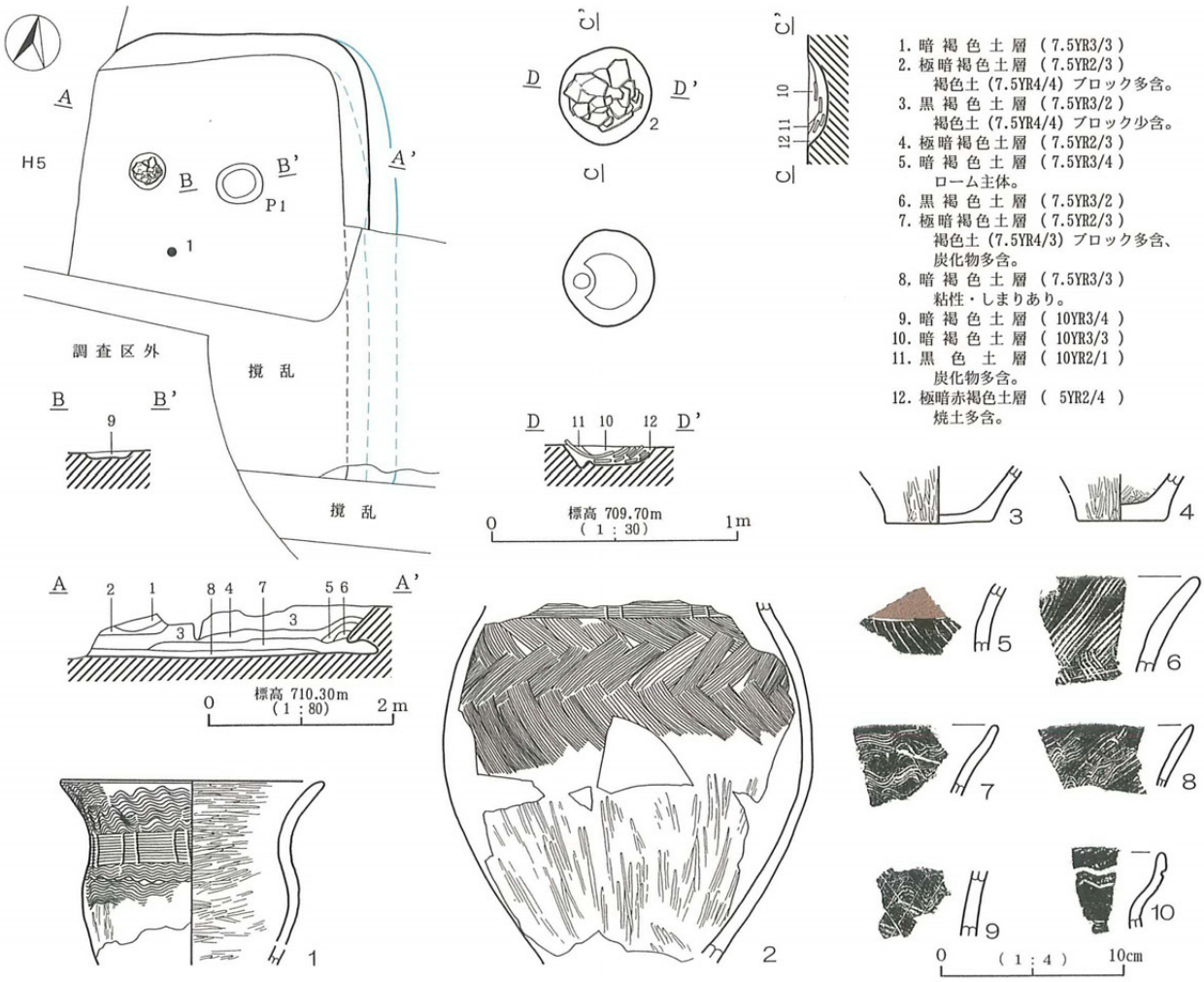
考えられ、床面は4層を埋め戻して構築される。残存する範囲からはピット・炉址は検出されなかったが、北側床面上に炭化材が認められた。

遺物は鉢（1）、甕（2～5）を図示した。

1は端部でわずかに内彎し内外面に赤彩される。鉢としたが高坏とも考えられる。甕の文様は櫛描によるもので斜走文と波状文がある。

第25表　H5号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	－	－	〈19.6〉	櫛描波状文、頭部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
2	甕	－	－	〈13.3〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	炉
3	甕	－	7.2	〈8.7〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
4	蓋	(8.8)	(21.8)	7.1	ヘラミガキ、ナデ	ヘラミガキ	
5	ミニチュア土器	5.8	2.7	3.8	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
6	鉢	16.6	6.0	5.8	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	炉



第55図　H6号住居址

第26表　H6号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	14.4	－	〈10.0〉	櫛描波状文、頭部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
2	甕	－	－	〈19.5〉	櫛描羽状文、頭部櫛描簾状文	ヘラミガキ	炉
3	甕	－	5.8	〈2.8〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ、摩滅	
4	甕	－	4.8	〈2.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	

Ｈ５号住居址（第54図、図版31・32・48）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南端部、Ⅵ－Ｇ－き－10グリッドに位置し、Ｈ６・７号住居址を切る。南半部は調査区外のため未調査である。東西4.7m、壁残高は東壁で31～40㎝、西壁で10～27㎝を測る。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積であり、床面は18層を埋め戻して構築される。本址は焼失住居であり床面上には炭化材が散在し、炭化物を多量に含む６層が床面を覆っている。

ピットは５基が検出され、Ｐ１・Ｐ２が主柱穴である。Ｐ１・Ｐ２が床面下約10㎝で西へズレていることから、本址で地盤のズレが生じていることが確認された。北壁下から検出されたＰ３・Ｐ４は７㎝・９㎝と浅く補助的な柱穴と考えられる。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間より検出されたが、同様に上部が西へズレている。床面上で径24㎝の規模を有し、鉢（６）と甕の胴部（２）を埋設して設けられる。

遺物は甕（１～３・８～16）、蓋（４）、ミニチュア土器（５）、鉢（６）、壺（７）を図示した。

甕は胴部が張り球形を呈するもので、櫛描簾状文・波状文が施文される。蓋（４）は体部が直線的に開き、把手部は頂部に凹みをもち中央は穿孔される。５は鉢型のミニチュア土器、６は片口が造り出される鉢であり、ともに内外面に赤色塗彩される。

Ｈ６号住居址（第55図、図版32・48）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南端部、Ⅵ－Ｇ－か－10グリッドに位置し、Ｈ５号住居址に切られる。また、撹乱による破壊を受けており、北東隅付近が検出されたのみであるため規模・形状等は不明である。壁残高は36～50㎝を測るが、本址も地盤のズレによる影響を受けており東壁が床面上約10㎝の高さで西へ40㎝程移動している。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

ピットは北東に配される主柱穴が１基検出された。径50㎝×44㎝の規模を有する。

炉址は北側主柱穴間に位置すると考えられ、径80㎝、深さ15㎝の円形の掘り方に甕（２）を埋設して設けられる。土器の出土状況から破損した土器片を敷き詰めたものと推測される。

遺物は甕（１～４・６～10）、壺（５）を図示した。

甕には頸部に櫛描による簾状文が巡り、口縁部から胴部に波状文が施文される１と羽状文が施文される２がある。

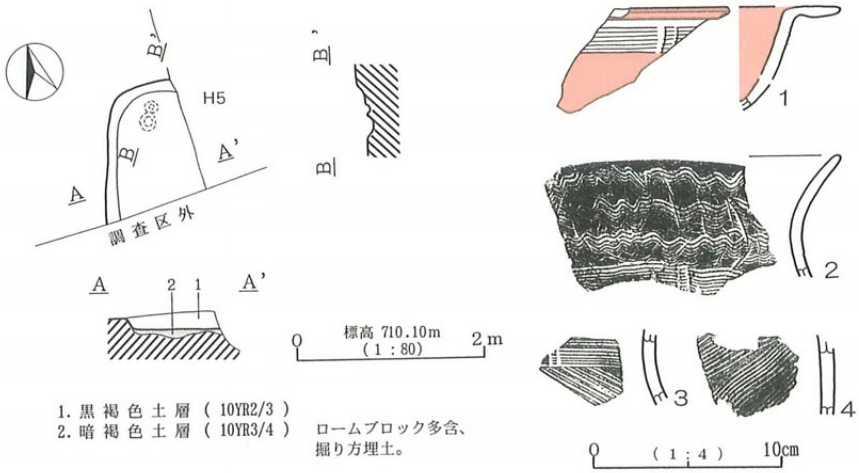
５は壺の頸部片で箆描による横線文・斜走文がみられ外面に赤彩される。

Ｈ７号住居址（第56図、図版32）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南端部、Ⅵ－Ｇ－き－10グリッドに位置し、Ｈ５号住居址に切られる。また、大半が調査区外であり北西隅部分がわずかに検出されたのみであるため規模・形状等は不明である。壁残高は８～14㎝を測る。周溝は検出されなかった。覆土は１層のみで、床面は２層を埋め戻して構築される。　調査範囲の床面上からはピット・炉址は検出されず、掘り方からピット２基が検出された。

遺物は高坏（１）、甕（２～４）を図示した。

１は口縁部が鍔状に屈曲する高坏の坏部で上部に簾状文が巡り赤彩される。甕には櫛描波状文の２と斜走文の３・４がある。

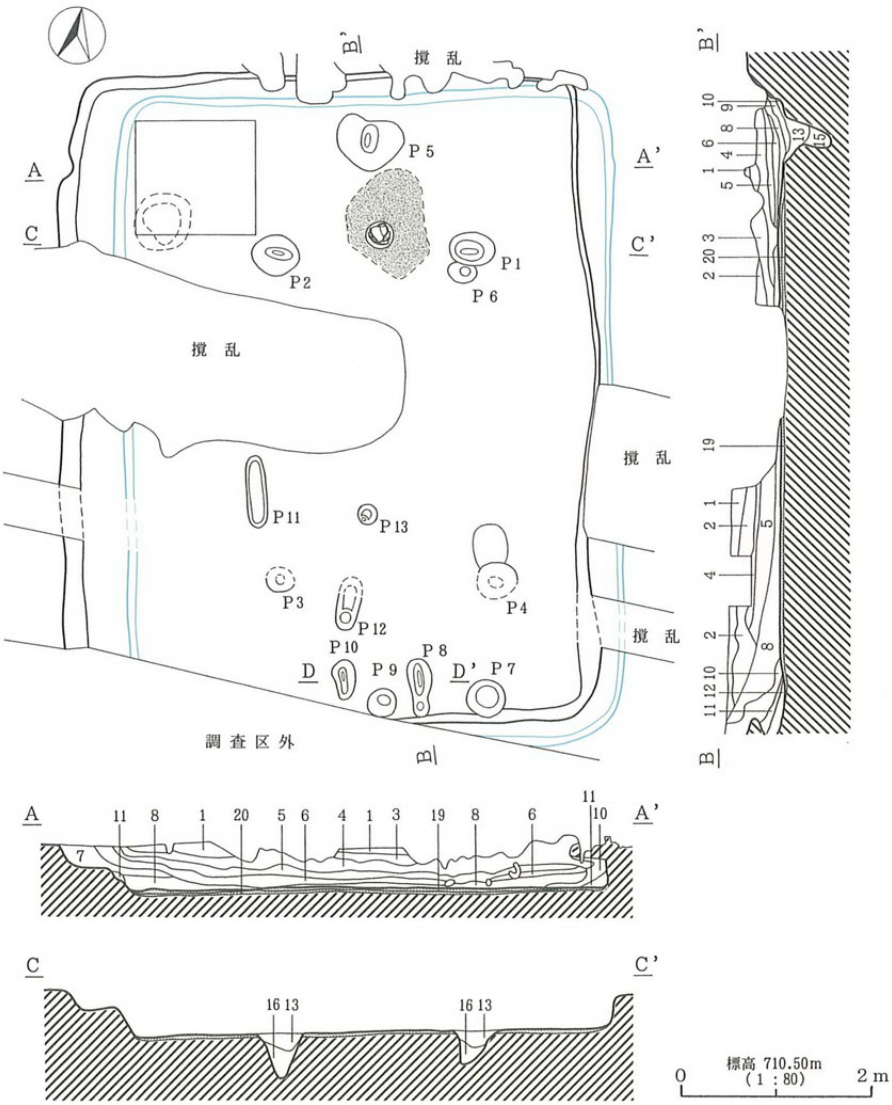


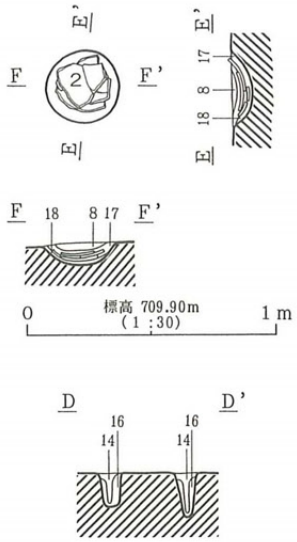
1. 黒褐色土層（10YR2/3）
2. 暗褐色土層（10YR3/4）　ロームブロック多含、掘り方埋土。

第56図　Ｈ７号住居址

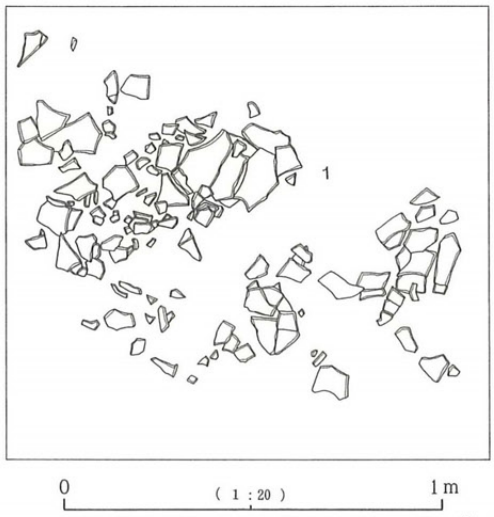
第27表　Ｈ７号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	高坏	－	－	〈5.4〉	ヘラミガキ、赤色塗彩、櫛描簾状文	ヘラミガキ、赤色塗彩	





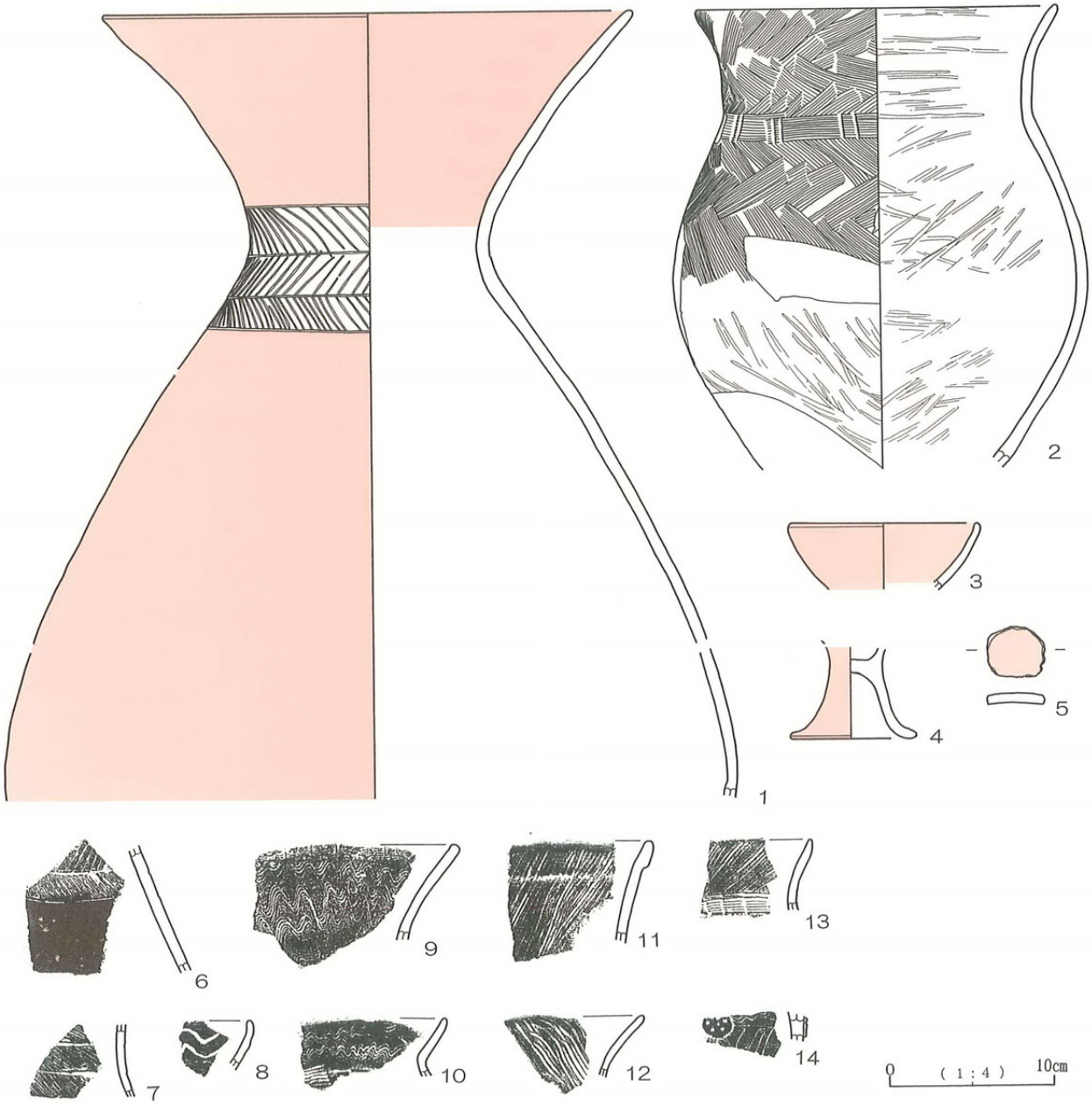
1. 褐　色　土　層（10YR4/6）
2. 黒褐色土層（10YR3/2）
　ローム多含。
3. 黒褐色土層（10YR3/2）
4. 褐　色　土　層（10YR4/4）
　ローム多含、しまりあり。
5. 暗褐色土層（10YR3/3）
　ローム・黒色土混在、しまりあり。
6. 褐　色　土　層（10YR4/4）
　ローム主体、しまりあり。
7. 暗褐色土層（10YR3/3）
8. 暗褐色土層（10YR3/4）
9. 褐　色　土　層（10YR4/6）
10. 黒褐色土層（10YR2/3）
11. 褐　色　土　層（10YR4/6）
　粘性・しまりあり。
12. 黒褐色土層（10YR2/3）
13. 暗褐色土層（10YR3/4）
　しまりなし。
14. 黒褐色土層（10YR2/3）
　ロームブロック多含。
15. 褐　色　土　層（10YR4/4）
　しまりなし。
16. にぶい褐色土層（7.5YR5/4）
　ローム主体。
17. 黒褐色土層（7.5YR2/2）
　炭化物多含。
18. 暗褐色土層（10YR3/3）
　しまりなし。
19. 暗褐色土層（7.5YR3/4）
　掘り方埋土。
20. 褐　色　土　層（10YR4/6）
　ローム多含、掘り方埋土。



第57図　Ｈ８号住居址（１）

Ｈ８号住居址（第57・58図、図版33・48・49）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南東部、Ⅵ－Ｇ－う－10グリッドに位置する。撹乱による破壊を受けており南壁西半部は調査区外のため未調査である。南北8.6m、東西5.6mの隅丸長方形を呈し、床面積は46m²内外を測る。壁残高は40cm前後を測るが、本址も地盤のズレによる影響を受けており、床面上約24cmの高さで壁体が西へ60cm・北へ30cm程移動している。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積で、床面は19・20層を薄く埋め戻して構築される。



第58図　Ｈ８号住居址（２）

第28表　Ｈ８号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	32.4	－	〈47.3〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部篦描横線文・斜走文	口縁部ヘラミガキ、赤色塗彩 剥離	
2	甕	(22.0)	－	〈27.7〉	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	炉
3	鉢	(11.7)	－	〈4.0〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
4	高坏	－	7.7	〈5.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	
5	土製円盤	3.5	－	0.6	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ	壺胴部片、9.9g

ピットは床面上から13基が検出された。このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴であり、南北3.5m、2.2mの長方形に配され、Ｐ１が36cm・Ｐ２が50cmの深さを有する。北壁下中央から検出されたＰ５は56cmの深さを有し棟持柱であろう。Ｐ８～Ｐ10・Ｐ12は南壁下中央から検出され出入り口に関する柱穴と考えられる。深さはＰ８が47cm、Ｐ10が34cmを測る。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間に位置し、径28cm、深さ８cmの円形の掘り方に甕（２）を埋設して設けられる。土器の出土状況から破損した土器片を炉底に敷設したものと推測される。また、炉址周辺の床面上には薄い炭の分布が認められた。

遺物は壺（１・６・７）、甕（２・８～14）、鉢（３）、高坏（４）、土製円盤（５）を図示した。

１の壺は第57図で示したように住居址北西隅の床面上から破砕した状態で出土した。頸部は箆描平行沈線４条によって区画された間に斜走文が綾杉状に充填される。外面と口縁部内面に赤色塗彩が行われる。

２は炉址内に埋設された甕で、口縁部から胴上半部にかけて櫛描による羽状文が施文された後頸部に簾状文が巡る。

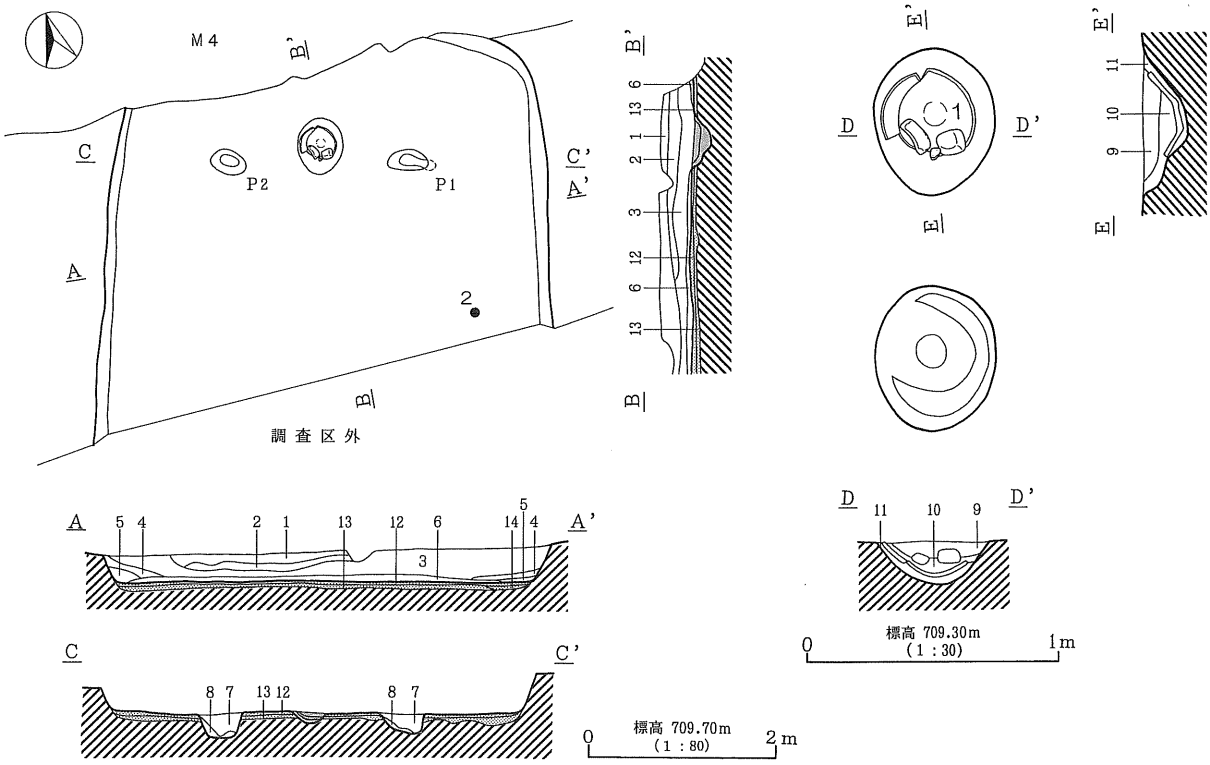
３は内外面ともに赤彩された鉢である。４は高坏の脚部で外面に赤色塗彩が施される。

５は壺の胴部片を利用した土製円盤で赤彩され裏面にハケメ調整が残る。

Ｈ９号住居址（第59・60図、図版34・49）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南端部西側、Ⅵ－Ｇ－こ－10グリッドに位置し、Ｈ11号住居址を切る。北壁部分をＭ４号溝址による破壊を受け、南半部は調査区外に延びており未調査であるため、東西4.5ｍが計測できたのみである。壁残高は24～48cmを測る。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積で、床面は13・14層を埋め戻した後12層を用いて貼り床としており、炭化物を含む６層が床面全体を薄く覆っている。

ピットは主柱穴であるＰ１・Ｐ２が検出された。Ｐ１は43cm×20cm、Ｐ２は38cm×26cmの楕円形を呈し、深さは各々20cm・30cmを計測する。



1. 黒褐色土層（10YR2/3）
2. 黒褐色土層（10YR3/2）　炭化物少含。
3. 暗褐色土層（10YR3/3）
4. 黒褐色土層（10YR2/3）
5. 黒褐色土層（10YR3/2）
6. 黒褐色土層（10YR3/2）　炭化物少含。
7. 暗褐色土層（10YR3/3）
8. 暗褐色土層（10YR3/4）
9. 暗褐色土層（7.5YR3/3）
10. 黒褐色土層（7.5YR2/2）　炭化物多含。
11. 暗褐色土層（10YR3/4）　炭化物少含、ローム多含。
12. 橙色土層（7.5YR6/6）　貼り床。
13. 赤褐色土層（5YR4/6）　掘り方埋土。
14. 暗褐色土層（7.5YR3/3）　ローム多含、掘り方埋土。

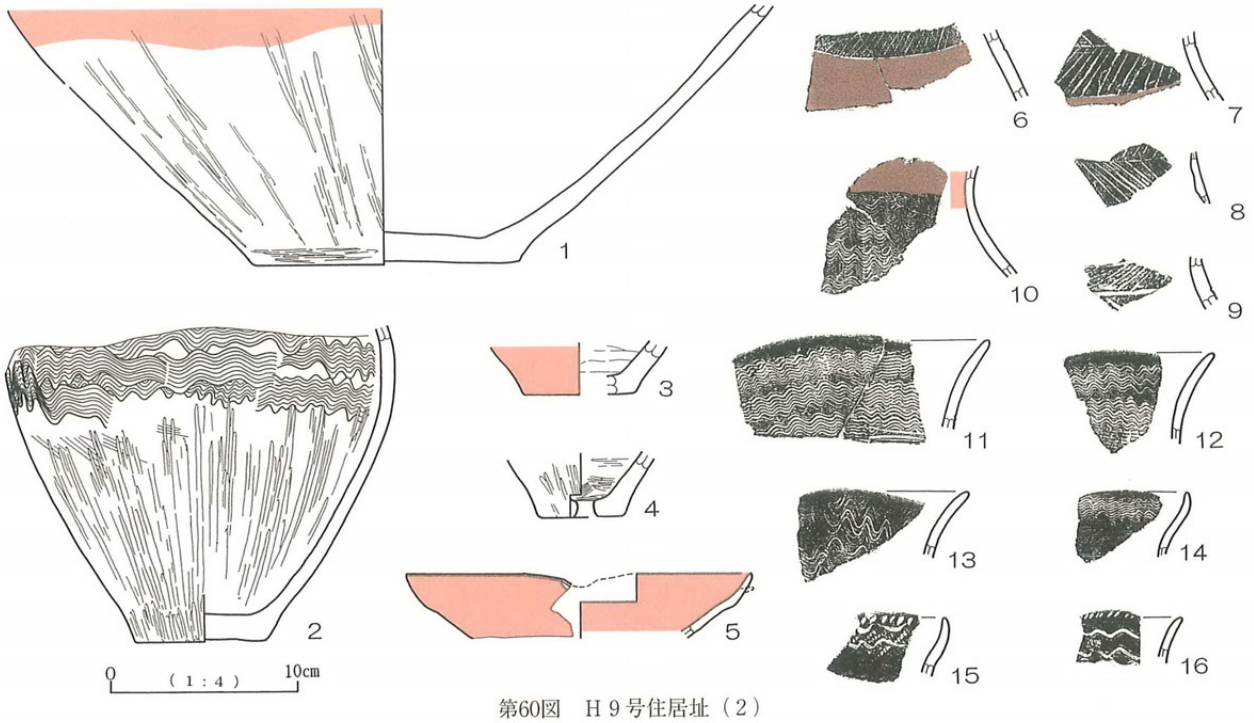
第59図　Ｈ９号住居址（１）

炉址はＰ１・Ｐ２間より検出された。径57cm×47cm、深さ16cmの掘り方に壺の底部（１）を埋設し、南側に礫を２個置いて設けられる。

遺物は壺（１・３・６～10）、甕（２・11～16）、甑（４）、鉢（５）を図示した。

１は炉址内に埋設されていた壺の底部である。外面は底部付近を除いて赤彩され、内面は剥離が著しい。３は外面に赤彩される小型の壺である。頸部文様には箆描の平行沈線で区画された間に斜走文が充填される６～９と櫛描波状文が巡る10がある。

２は胴上半部に櫛描波状文が施文される甕で、調査範囲の南東部床面上から出土した。４は単孔の甑でヘラミガキ調整が行われる。５は内外面に赤彩される鉢で片口が造り出される。



第60図　Ｈ９号住居址（２）

第29表　Ｈ９号住居址出土遺物観察表

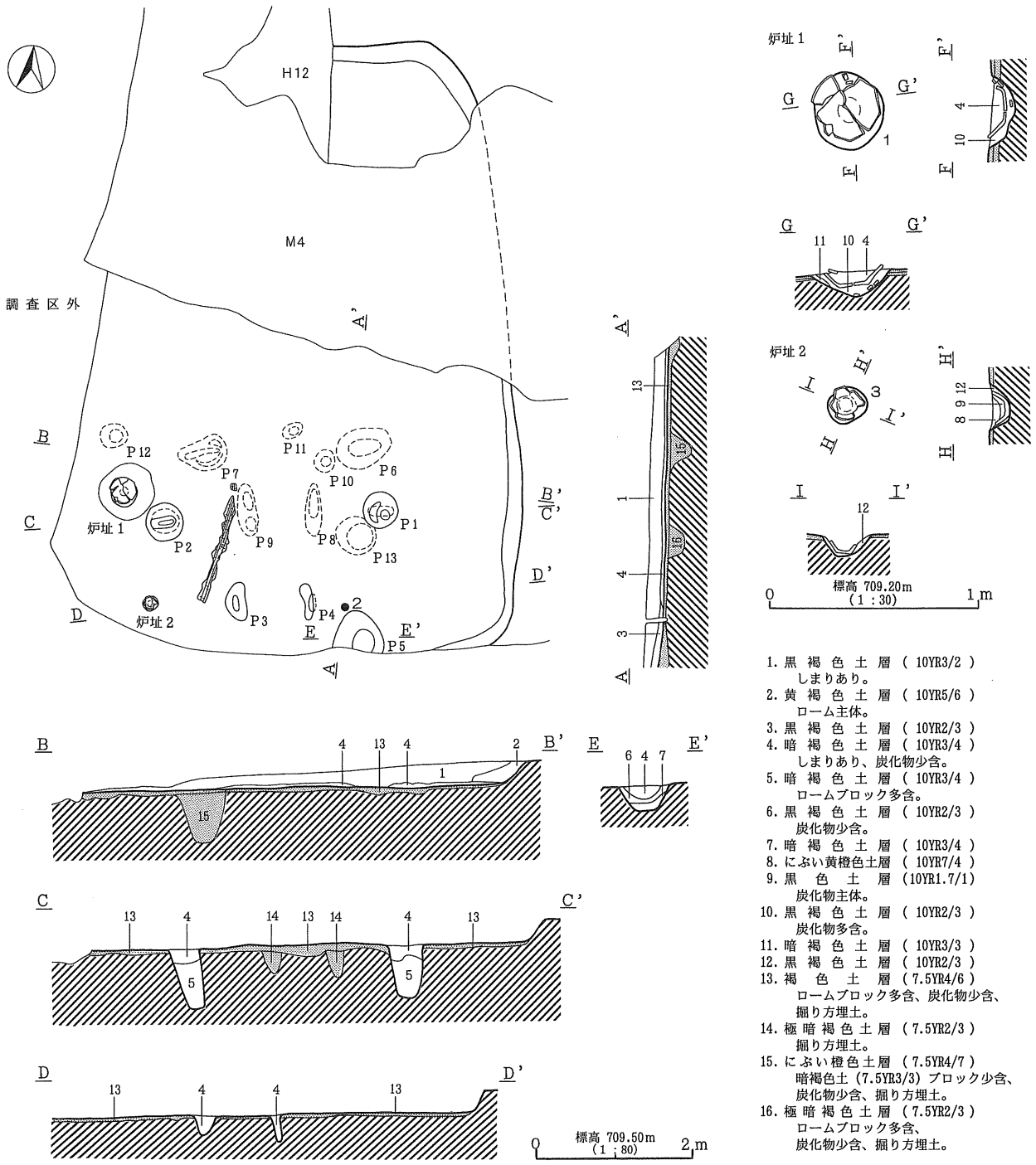
No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	－	14.2	〈13.4〉	赤色塗彩、ヘラミガキ	剥離	
2	甕	－	7.0	〈16.5〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	
3	壺	－	(6.0)	〈2.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	
4	甑	－	(4.6)	〈3.1〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
5	鉢	(18.4)	－	〈3.4〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	

Ｈ10号住居址（第61・62図、図版35・49）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南西端部、Ⅵ－Ｈ－い－９グリッドに位置し、北側をＨ12号住居址・Ｍ４号溝址に切られる。また、西側及び南側は調査区外であり削平されている。北東隅と南半部が検出されたのみであるため規模は不明であるが、南北7.6m、5.6m前後の隅丸長方形を呈するものと推定される。壁残高は残存する北壁で８～12cm、東壁南側で21～30cmを測る。調査範囲内では周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積で、炭化物を含む４層が床面を薄く覆っている。床面は13層を埋め戻して構築される。

ピットは床面上から５基、掘り方から８基が検出された。このうちＰ１・Ｐ２が南側に配される主柱穴であり、北側の主柱穴はＭ４号溝址によって破壊されており残存しない。Ｐ１・Ｐ２は62cm・74cmの深さを有する。Ｐ３・Ｐ４は南壁下中央に位置するもので出入り口に関する柱穴と考えられる。深さはＰ３が36cm、Ｐ４が28cmを計測する。また、Ｐ１・Ｐ２の北側掘り方から検出されたＰ６・Ｐ７は本址の建て替え以前の主柱穴であり、Ｐ８・Ｐ９は出入り口施設の柱穴であろう。したがって、本址では住居址の拡張が行われたものと考えられる。

炉址はＰ２の西側に隣接して炉址１が、Ｐ２から南へ80cm離れて炉址２が検出された。炉址１は壺の底部（１）を埋設して構築され72cm×66cmの規模を有する。炉址２は甕の底部（３）を埋設して設けられ38cm×32cmを計測する。

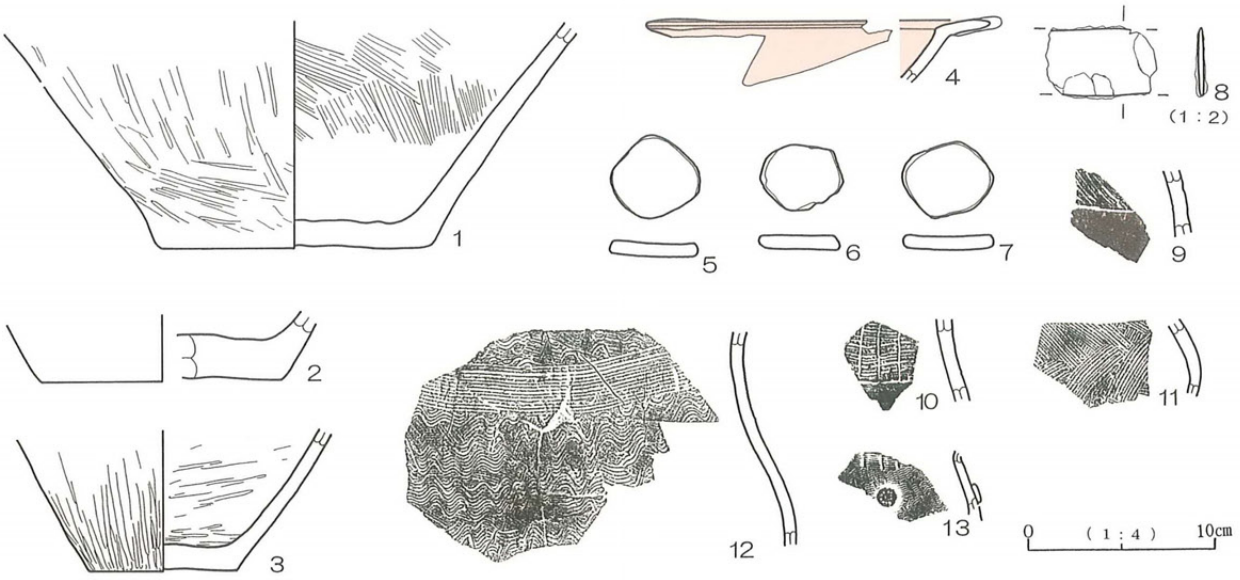


1. 黒褐色土層（10YR3/2）
しまりあり。
2. 黄褐色土層（10YR5/6）
ローム主体。
3. 黒褐色土層（10YR2/3）
4. 暗褐色土層（10YR3/4）
しまりあり、炭化物少含。
5. 暗褐色土層（10YR3/4）
ロームブロック多含。
6. 黒褐色土層（10YR2/3）
炭化物少含。
7. 暗褐色土層（10YR3/4）
8. にぶい黄橙色土層（10YR7/4）
9. 黒色土層（10YR1.7/1）
炭化物主体。
10. 黒褐色土層（10YR2/3）
炭化物多含。
11. 暗褐色土層（10YR3/3）
12. 黒褐色土層（10YR2/3）
13. 褐色土層（7.5YR4/6）
ロームブロック多含、炭化物少含、
掘り方埋土。
14. 極暗褐色土層（7.5YR2/3）
掘り方埋土。
15. にぶい橙色土層（7.5YR4/7）
暗褐色土（7.5YR3/3）ブロック少含、
炭化物少含、掘り方埋土。
16. 極暗褐色土層（7.5YR2/3）
ロームブロック多含、
炭化物少含、掘り方埋土。

第61図　H10号住居址（1）

第30表　H10号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	－	14.5	〈11.3〉	ヘラミガキ	ハケメ	炉1
2	壺	－	(12.8)	〈3.0〉	摩滅	摩滅	
3	甕	－	7.8	〈7.2〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	炉2
4	高坏	－	－	〈3.4〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
5	土製円盤	4.7		0.7	ヘラミガキ、摩滅	ハケメ、摩滅	壺胴部片、17.2g
6	土製円盤	4.4		0.8	ヘラミガキ、摩滅	ハケメ、摩滅	壺胴部片、16.8g
7	土製円盤	4.9		0.7	ヘラミガキ、摩滅	ハケメ、摩滅	壺胴部片、13.9g
8	鉄製品	3.0	1.8	0.2	鎌？		2.8g



第62図　H10号住居址（２）

遺物は壺（１・２・９・10）、甕（３・11～13）、高坏（４）、土製円盤（５～７）、鉄製品（８）を図示した。

１は炉址１内に埋設されていた壺の底部で内面にハケメ調整が残る。甕には炉址２内に埋設されていた底部（３）の他に櫛描羽状文の11、波状文の12・13があり13には円形貼り付け文が付加される。４は高坏の坏部片であり、口縁部が鍔状に開いて突起が貼り付けされ内外面に赤彩される。

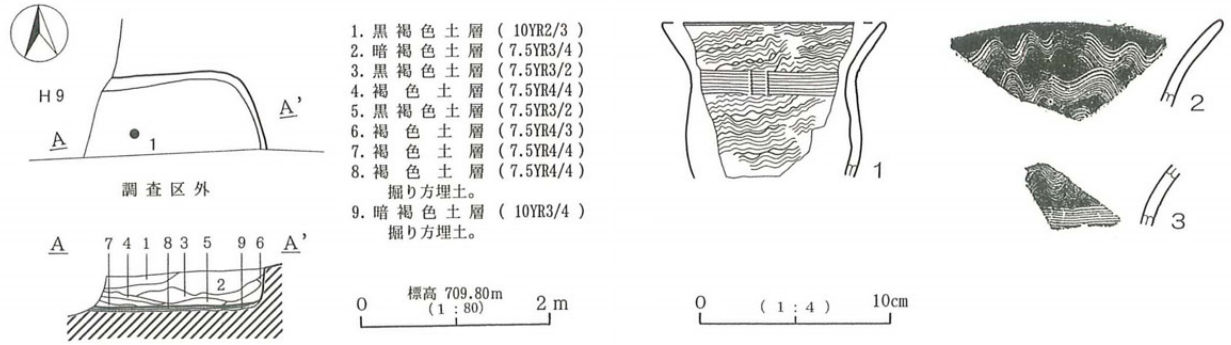
５～７は壺の胴部片を利用した土製円盤である。鉄製品には鎌と思われる８があり、幅1.8cm、残存長３cmを測る。

H11号住居址（第63図、図版36）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南端部、Ⅵ－Ｇ－こ－10グリッドに位置し、西側をＨ９号住居址に切られる。また、南側大半は調査区外であり未調査であることから、北東隅付近のわずかな範囲を調査したにすぎないため規模・形状等は不明である。壁残高は調査範囲内で33～42cmを測り、周溝は検出されなかった。覆土は７層からなり人為埋土であろうか。床面は８・９層を薄く埋め戻して構築される。調査範囲内からはピット・炉址は検出されなかった。

遺物は甕（１～３）を図示した。

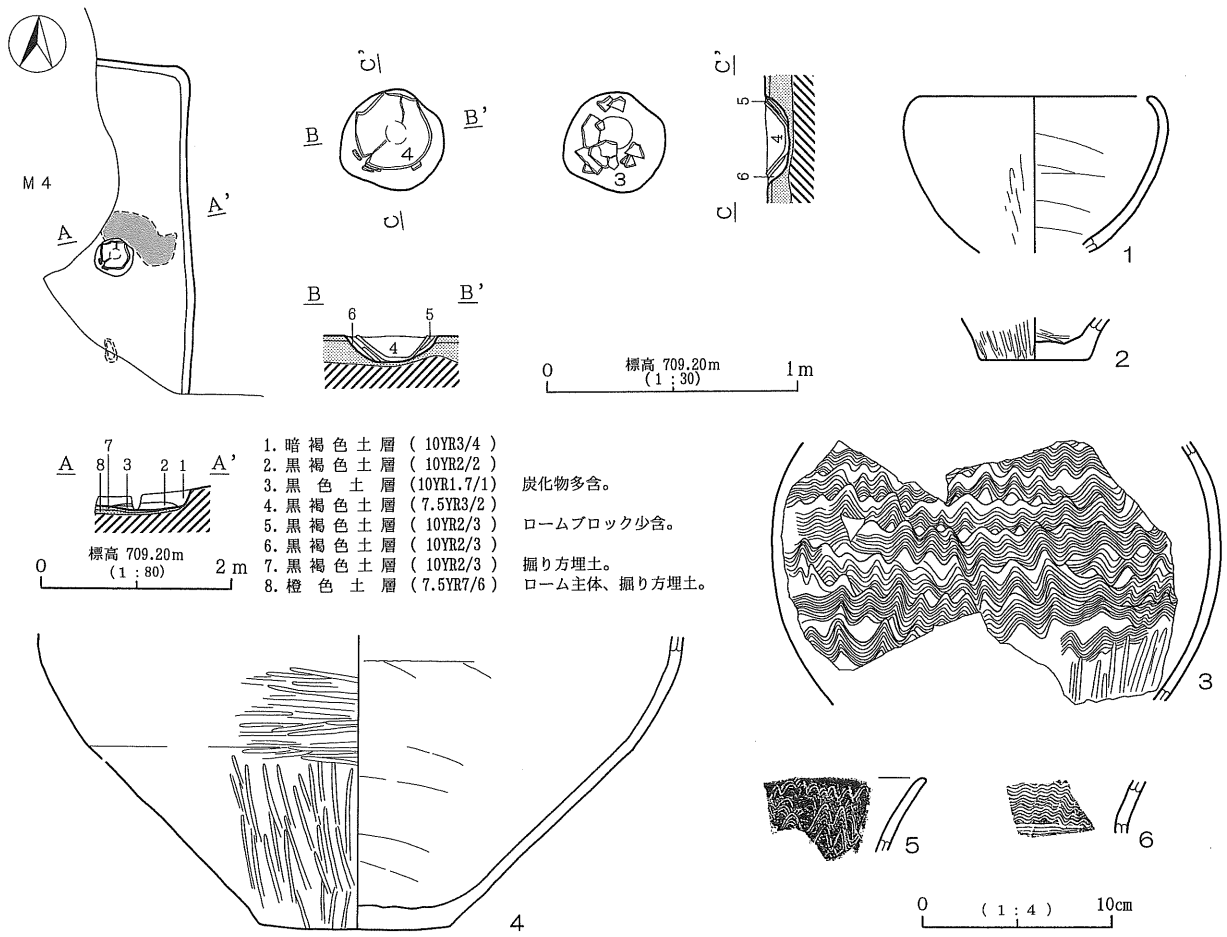
１は調査範囲内西側の床面上から出土した甕で、口縁部から胴部にかけて櫛描波状文が施文された後頸部に簾状文が巡る。２・３は同一個体であり１と同様な文様構成である。



第63図　H11号住居址

第31表　H11号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	(11.8)	－	〈8.2〉	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	



第64図　H12号住居址

第32表　H12号住居址出土遺物観察表

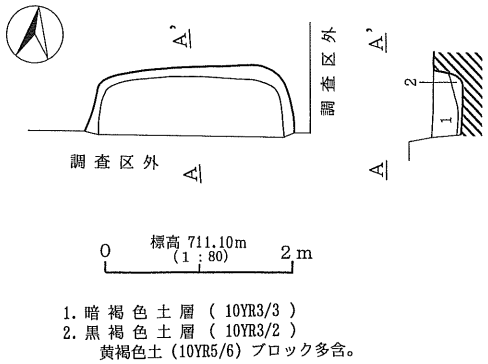
No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	鉢	(12.4)	－	〈8.2〉	ヘラミガキ、剥離	ナデ	
2	甕	－	(5.8)	〈2.3〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
3	甕	－	－	〈13.7〉	櫛描波状文	ヘラミガキ	炉
4	壺	－	10.1	〈15.5〉	ヘラミガキ	ナデ、剥離	炉

H12号住居址（第64図、図版36・49）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、A地区南西端部、Ⅵ－H－う－8グリッドに位置しH10号住居址を切る。M4号溝址に大半を切られており、北壁及び東壁の一部がわずかに残存しているのみであるため規模・形状等は不明である。壁残高は残存部で8～18cmを測り、周溝は検出されなかった。床面は7・8層を埋め戻して構築される。

ピットは検出されなかった。

炉址は、残存部南側から検出された。径40cm、深さ10cmの円形の掘り方の底面に甕の胴部片（3）を敷設し、さらに壺の底部（4）を埋設して設けられる。また、炉址北側の床面上には薄い炭の分布が認められた。



第65図　H13号住居址

遺物は鉢（1）、甕（2・3・5・6）、壺（4）を図示した。

1は口縁部が内彎する鉢で、ヘラミガキ調整され無彩である。

甕には炉址底面に敷設されていた3の胴部片がある。球形を呈し櫛描波状文が施文される。

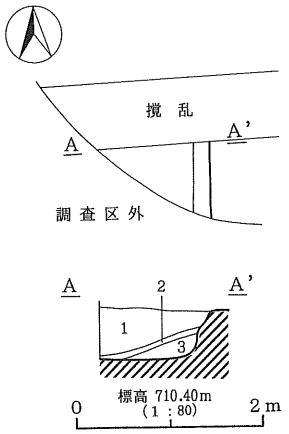
4は炉址内に埋設され炉体として使用されていた壺の底部であり、外面にはヘラミガキ調整が施されるが内面は剥離が著しい状態である。

H13号住居址（第65図、図版36）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南東端部、Ⅵ－Ｌ－い－１グリッドに位置する。他遺構との重複関係はないものの、南側大半が調査区外であり北壁部分がわずかに検出されたのみであるため東西長2.2mが計測し得るのみであり形状は不明である。この規模から住居址とは異なる性格の遺構とも考えられる。壁残高は22～32cmを測り、周溝は検出されなかった。覆土は２層からなり自然堆積である。

ピット・炉址は調査範囲内からは検出されなかった。

出土遺物はなく時期は不明である。



第66図　H14号住居址

H14号住居址（第66図）

本住居址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区南端部、Ⅵ－Ｌ－お－１グリッドに位置する。大半が調査区外であり、北側を撹乱により破壊を受けているため東壁の極くわずかな範囲が確認されたのみである。したがって、壁残高54cmが計測し得るのみであり規模・形状は不明である。周溝は検出されなかった。覆土は３層からなり自然堆積である。

ピット・炉址は調査範囲内からは検出されなかった。

出土遺物はなく時期は不明である。

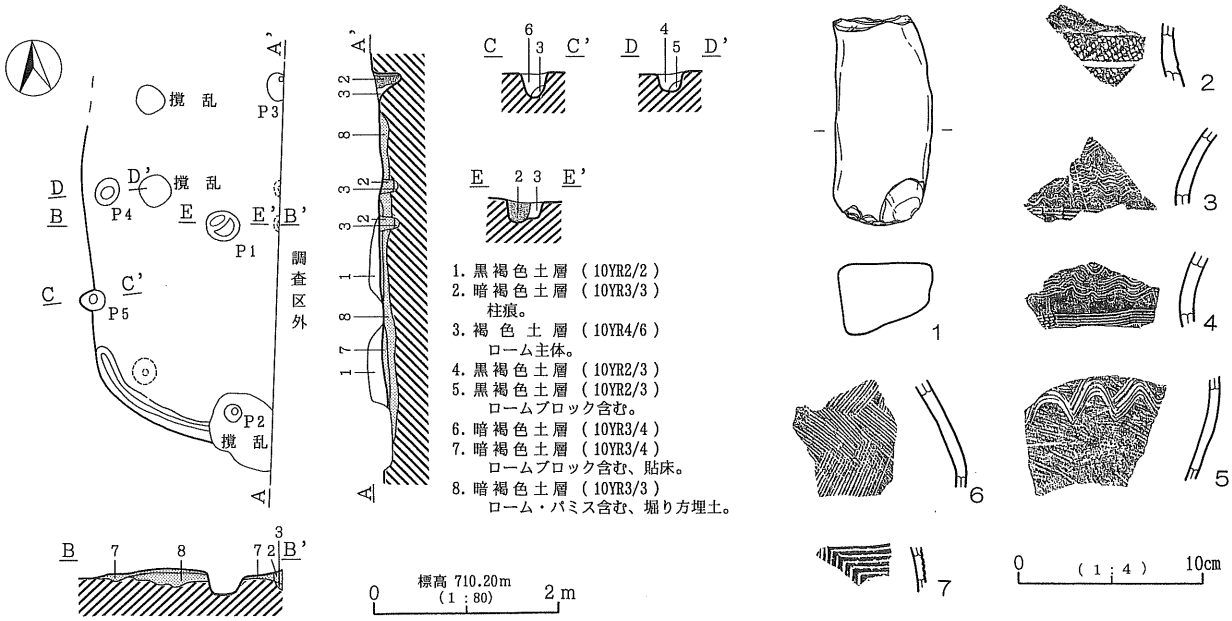
H15号住居址（第67図、図版41・49）

本住居址は直路遺跡Ⅲ調査区北東端部、Ⅵ－Ｑ－く－５グリッドに位置し、東側は調査区外のため未調査である。また、北半部は削平を受け残存しないため南西隅付近が検出されたのみであり規模・形状は不明である。壁残高は南壁で７cmを測る。周溝は南壁下で検出された。床面は７・８層を埋め戻して構築される。

ピットは床面上から５基が検出された。Ｐ１が主柱穴と考えられ、径20cmの柱痕が確認された。Ｐ３～Ｐ５は本址に伴うものかどうか判然としない。炉址は調査範囲には存在しない。

遺物は石器（１）、壺（２）、甕（３～７）を図示した。

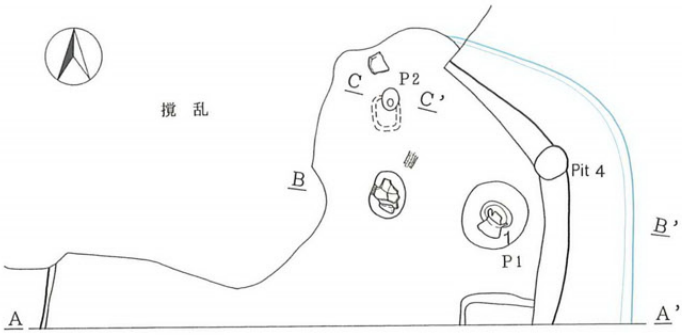
１は安山岩製の敲石である。２は壺の頸部片であり、３～７は甕の口縁部・胴部である。

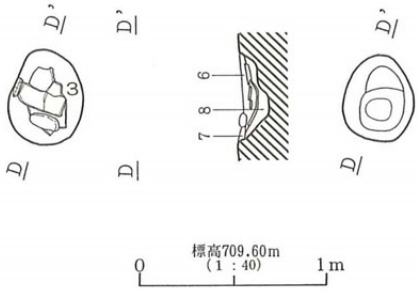


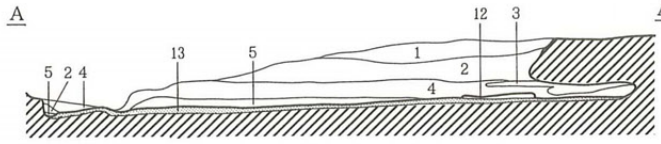
第67図　H15号住居址

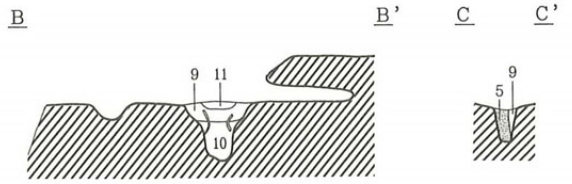
第33表　H15号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	擦石・敲石	11.3	5.4	3.8			352g



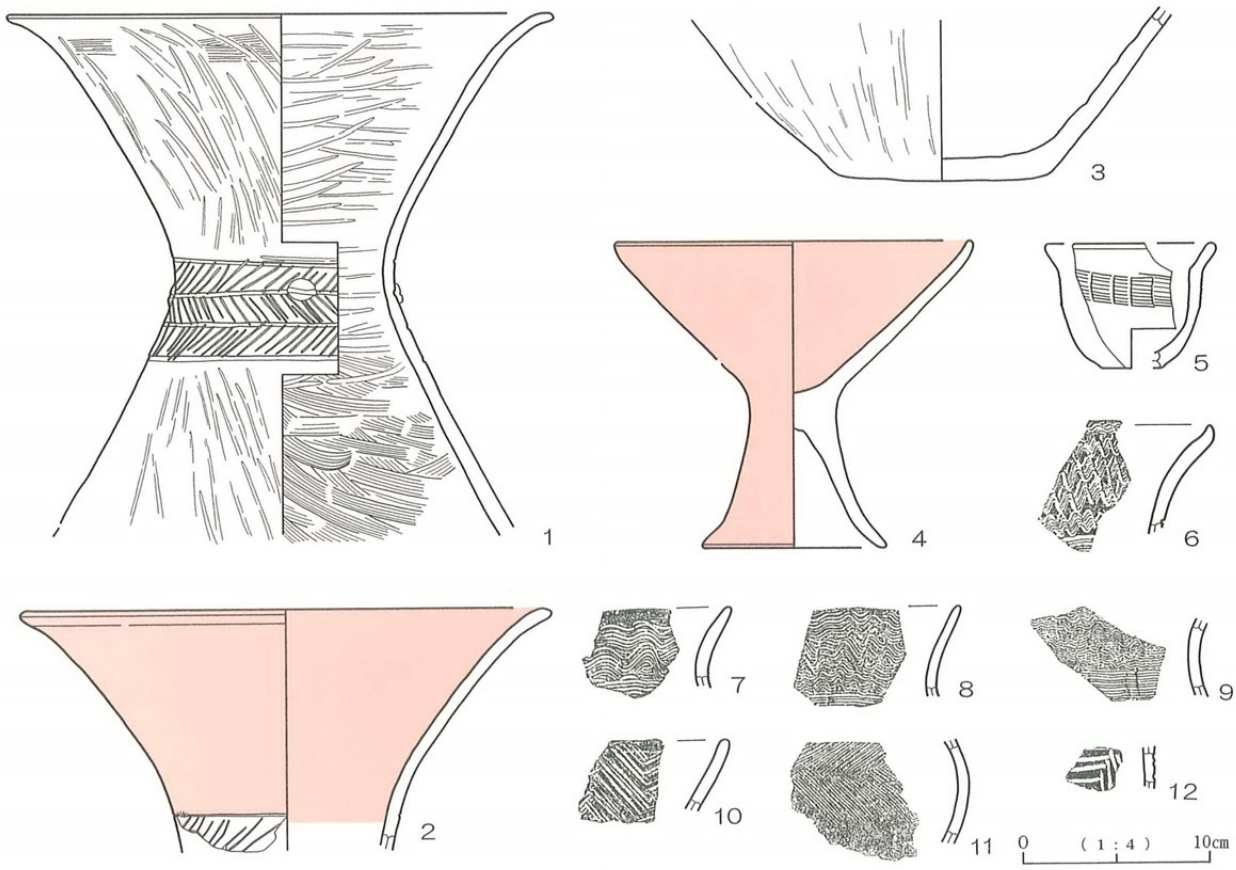






1. 黒　褐　色　土　層（10YR2/2）　～5mm大パミス含む。
2. 黒　褐　色　土　層（10YR3/2）　～1cm大パミス・ローム粒子多含。
3. 暗　褐　色　土　層（10YR3/3）　10YR5/6ローム含む。
4. 黒　褐　色　土　層（10YR2/3）　～5mm大パミス・ローム粒子含む、しまりあり。
5. 黒　褐　色　土　層（10YR2/2）　柱痕、パミス・ローム粒子含む。
6. 黒　褐　色　土　層（10YR2/2）　炭化物粒子多含。
7. 黒　褐　色　土　層（10YR1.7/1）　6層より多く炭化物粒子含む。
8. 褐　色　土　層（7.5YR4/3）　ローム主体、焼ける。
9. 黒　褐　色　土　層（10YR2/3）　ローム粒子多含。
10. 暗　褐　色　土　層（10YR3/4）　ローム粒子多含。
11. 黒　褐　色　土　層（10YR3/2）　～1cm大パミス多含、ロームブロック含む。
12. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）　ローム上面に貼る。
13. 褐　色　土　層（10YR4/4）　ローム主体、たたき床、しまる。

標高 709.60m
(1:80)
0　2m



第68図　H16号住居址（1）

H16号住居址（第68・69図、図版41・42・50）

本住居址は直路遺跡Ⅲ調査区南西端部、Ⅵ－Ｒ－え－７グリッドに位置し、北西部分を撹乱による破壊を受ける。また、南側大半は調査区外であり未調査のため規模・形状等は不明である。確認された範囲で東西5.1ｍを測り、壁残高は東壁で31～49㎝、西壁で７～20㎝を計測する。本址も地盤のズレにより床面付近で東壁が約１ｍ西へ移動している。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積で、床面は13層を薄く埋め戻して構築される。また、東壁下南側の床面上には幅80㎝、厚さ４㎝で12層が貼られている状況が確認された。

ピットは２基が検出された。このうちＰ１が主柱穴であり60㎝の深さを有する。Ｐ２は炉址の北70㎝の床面上から検出され径14㎝の柱痕が確認された。36㎝の深さを有し棟持柱であろう。

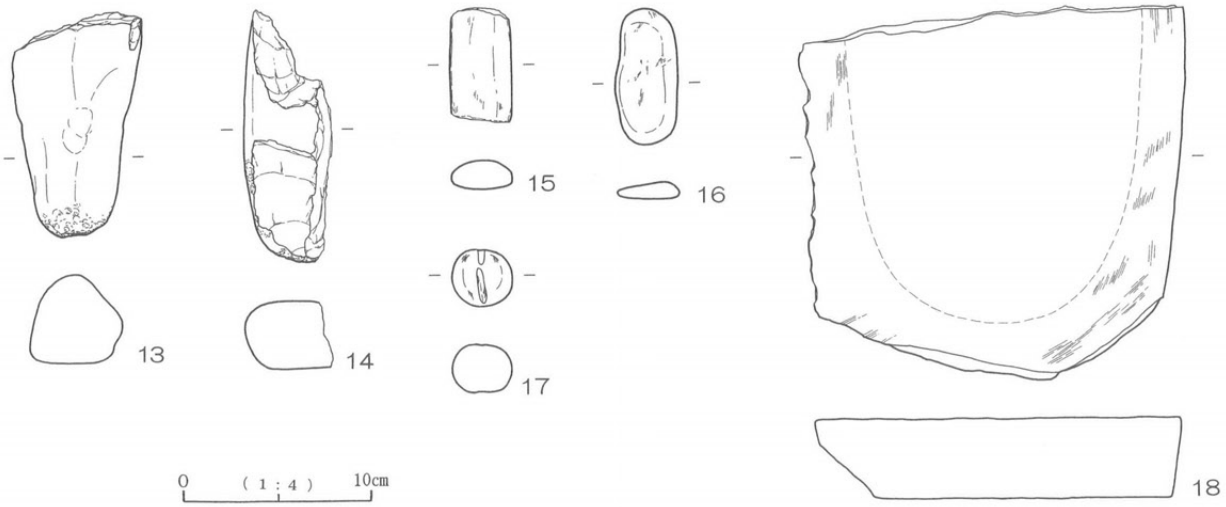
炉址は北側主柱穴間に位置すると考えられ、径50㎝×40㎝の楕円形の掘り方に壺の底部（３）を埋設し、南側に礫を１個置いて設けられる。

遺物は壺（１～３）、高坏（４）、甕（５～12）の他石器（13～18）を図示した。

１はＰ１内より出土した壺で、頸部に箆描による４条の平行沈線によって区画された間に斜走文が綾杉状に充填され、円形貼付文が５個付加される。２の壺も同様な文様構成であるが、２は内外面に赤色塗彩が行われているのに対して１は無彩である。３は炉址内に埋設されていた壺の底部で剥離が著しい状態である。４は口縁部がわずかに内彎する高坏で、脚部内面を除いて赤彩される。

甕には小型で頸部に簾状文が巡る５の他、波状文の６～９、羽状文の10・11がある。12はコの字重ね文が施文され台付甕と思われる。

石器には敲石（13～16）と有溝石錐（17）、台石（18）がある。



第69図　H16号住居址（２）

第34表　H16号住居址出土遺物観察表

No.	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	29.1	－	〈27.5〉	箆描横線文・斜走文、円形貼付文５	ヘラミガキ、ハケメ	Ｐ１
2	壺	(28.2)	－	〈12.8〉	ヘラミガキ、赤色塗彩、頸部箆描横線文・斜走文	ヘラミガキ、赤色塗彩	
3	壺	－	11.2	〈8.6〉	ヘラミガキ、剥離	ハケメ、剥離	炉
4	高坏	(19.1)	9.8	16.2	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ナデ	
5	甕	(9.1)	(3.2)	6.6	櫛描簾状文	ヘラミガキ	
13	擦石・敲石	11.8	6.9	5.1			462ｇ
14	擦石・敲石	13.3	4.7	3.7			304ｇ
15	擦石・敲石	6.0	3.4	1.5			48ｇ
16	擦石・敲石	7.2	3.4	1.3			36ｇ
17	石錐	3.0	3.3	2.6	有溝		33ｇ
18	台石	19.7	20.6	4.9			3,560ｇ

H17号住居址（第70図、図版42・50）

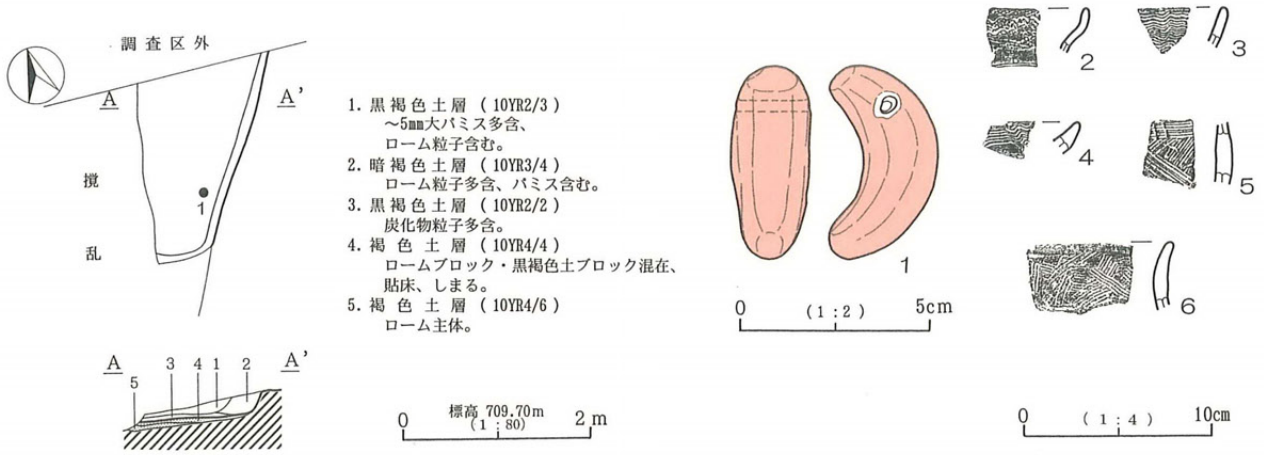
本住居址は直路遺跡Ⅲ調査区北西端部、Ⅵ－R－う－５グリッドに位置するが、西側は撹乱による破壊を受けている。また、北は調査区外のため未調査であり南東隅付近が調査されたのみであるため規模・形状等は不明である。壁残高は２～25cmを測り、周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積で、床面は４・５層を埋め戻して構築される。

ピット・炉址は調査範囲内からは検出されなかった。

遺物は土製勾玉（１）、甕（２～６）を図示した。

土製勾玉（１）は東壁下南側の床面上から出土した。長さ5.1cm・厚さ1.9cm・重さ22ｇを測り赤彩される。

甕は小片のため器形の知れるものはないが、受口状の口縁部に縄文を施した後篦描による波状文が２条巡る２、波状文・羽状文が施文される３～６がある。



第70図　H17号住居址

第35表　H17号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	土製勾玉	5.1	2.1	1.9	ヘラミガキ、赤色塗彩		22ｇ

第２節　竪穴状遺構

Ta１号竪穴状遺構（第71・72図、図版28・50）

本址は直路遺跡Ⅰ調査区北端部、Ⅵ－W－き－２グリッドに位置し、Ｈ４号住居址を切る。南北6.96m、東西3.24mの隅丸長方形を呈し、床面積22.1m²を測る。壁残高は50cm内外を測り、長軸方位はN－13°－Wを示す。周溝は幅20cm、床面からの深さ10cmの規模で壁下を巡る。覆土は自然堆積で、１層が主体を占める。

ピットは床面上から14基が検出された。Ｐ１～Ｐ12は東西３本、南北４本の総柱状に配置され、径15～20cmの柱痕が確認された。深さはＰ12が最も浅く35cmを計測するが、Ｐ１～Ｐ11は50～70cmの深さを有する。

遺物は古銭（１～７）の他弥生土器壺（８）、甕（９～11）、台付甕（12）、蓋（13）、石器（14～16）を図示したが、弥生土器・石器は混入遺物である。

１は「至道元寶」（初鋳年995年）、２は「景祐元寶」（1034年）、３は「皇宋通寶」（1038年）、４～６は「元豊通寶」（1078年）、７は「政和通寶」（1111年）であり、書体は１が真書、２～４・７が篆書、５・６が行書である。

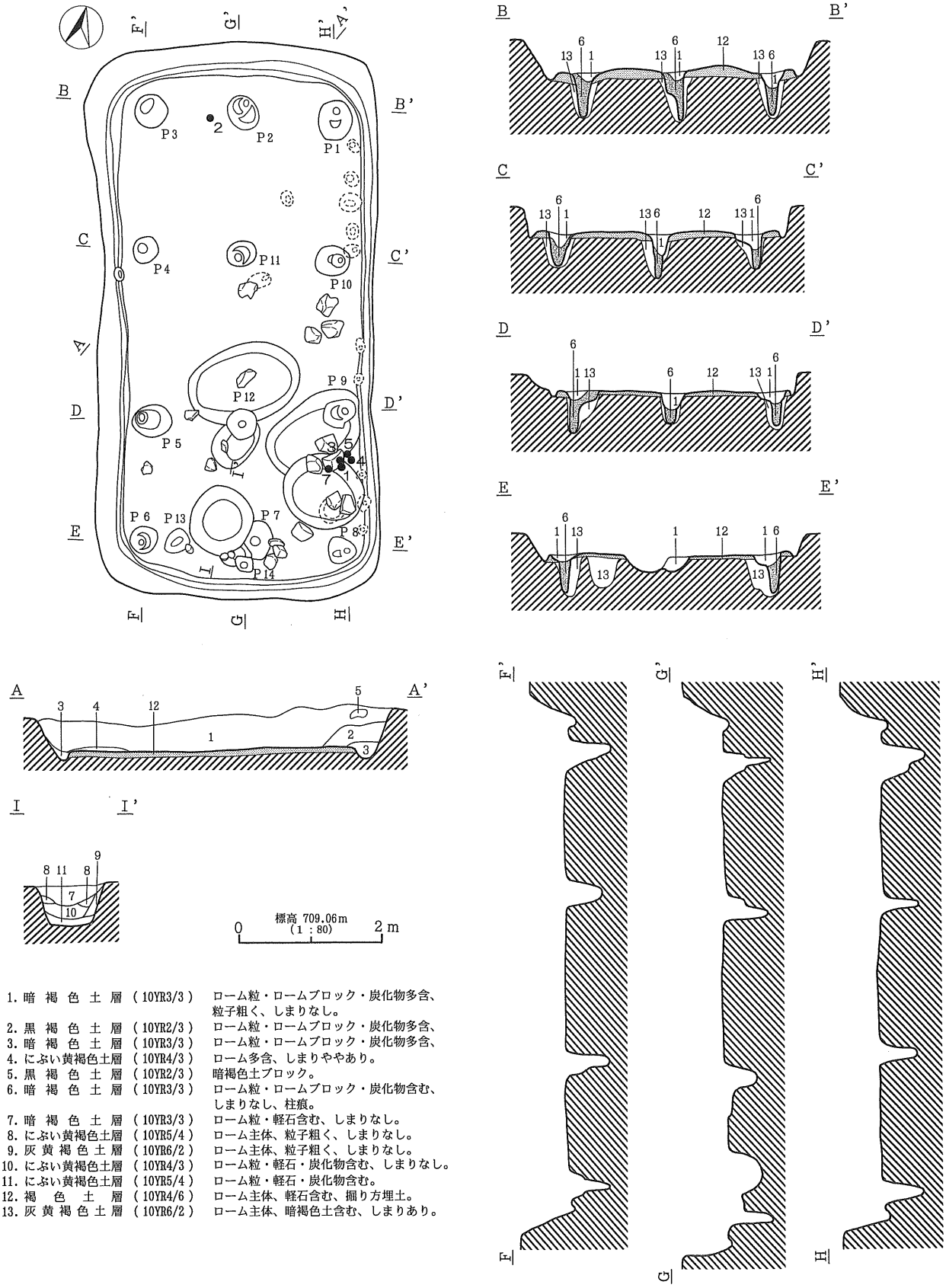
Ta２号竪穴状遺構（第73図、図版37）

本址は直路遺跡Ⅱ、Ｂ地区北側、Ⅺ－C－か－３グリッドに位置し、Pit 40・88・89・107に切られる。南北4.5m、東西2.9mの南北に長い隅丸長方形を呈し、床面積11.7m²を測る。壁残高は東壁で32～39cm、西壁で11～16cmを測り比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。長軸方位はN－11°－Eを示す。周溝は検出されなかった。覆土は５層からなり自然堆積である。

ピットは北壁下から１基、西壁中から２基の３基が検出されたが本址に伴うものかどうか判然としない。

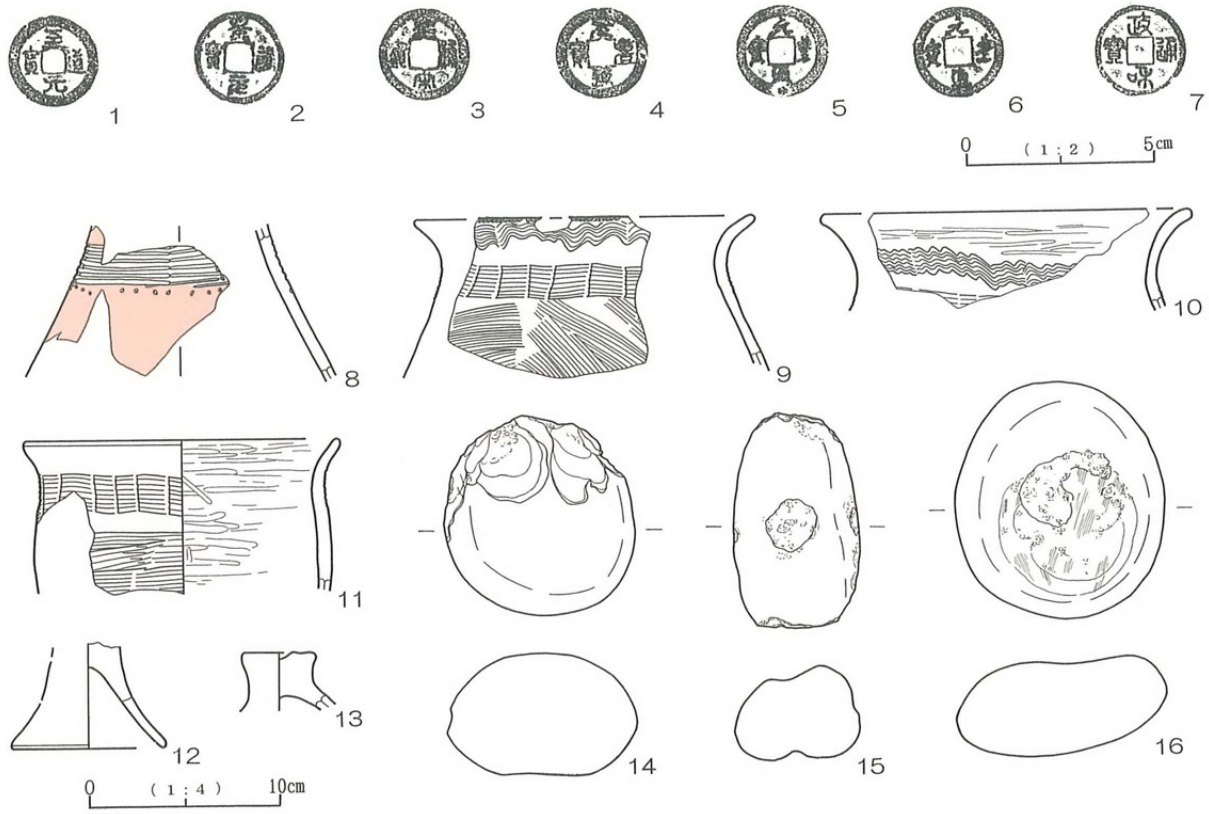
遺物は鉢（１）、壺（２）を図示したが、いずれも混入遺物である。

１は内外面に赤彩される鉢で、内彎する口縁部に突起が付加される。２は壺の頸部片で篦描による平行沈線が巡る。



1. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3） ローム粒・ロームブロック・炭化物多含、粒子粗く、しまりなし。
2. 黒 褐 色 土 層 （10YR2/3） ローム粒・ロームブロック・炭化物多含、
3. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3） ローム粒・ロームブロック・炭化物多含、
4. にぶい黄褐色土層 （10YR4/3） ローム多含、しまりややあり。
5. 黒 褐 色 土 層 （10YR2/3） 暗褐色土ブロック。
6. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3） ローム粒・ロームブロック・炭化物含む、しまりなし、柱痕。
7. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3） ローム粒・軽石含む、しまりなし。
8. にぶい黄褐色土層 （10YR5/4） ローム主体、粒子粗く、しまりなし。
9. 灰 黄 褐 色 土 層 （10YR6/2） ローム主体、粒子粗く、しまりなし。
10. にぶい黄褐色土層 （10YR4/3） ローム粒・軽石・炭化物含む、しまりなし。
11. にぶい黄褐色土層 （10YR5/4） ローム粒・軽石・炭化物含む。
12. 褐 色 土 層 （10YR4/6） ローム主体、軽石含む、掘り方埋土。
13. 灰 黄 褐 色 土 層 （10YR6/2） ローム主体、暗褐色土含む、しまりあり。

第71図　Ta１号竪穴状遺構（１）



第72図　Ta１号竪穴状遺構（２）

第36表　Ta１号竪穴状遺構出土遺物観察表

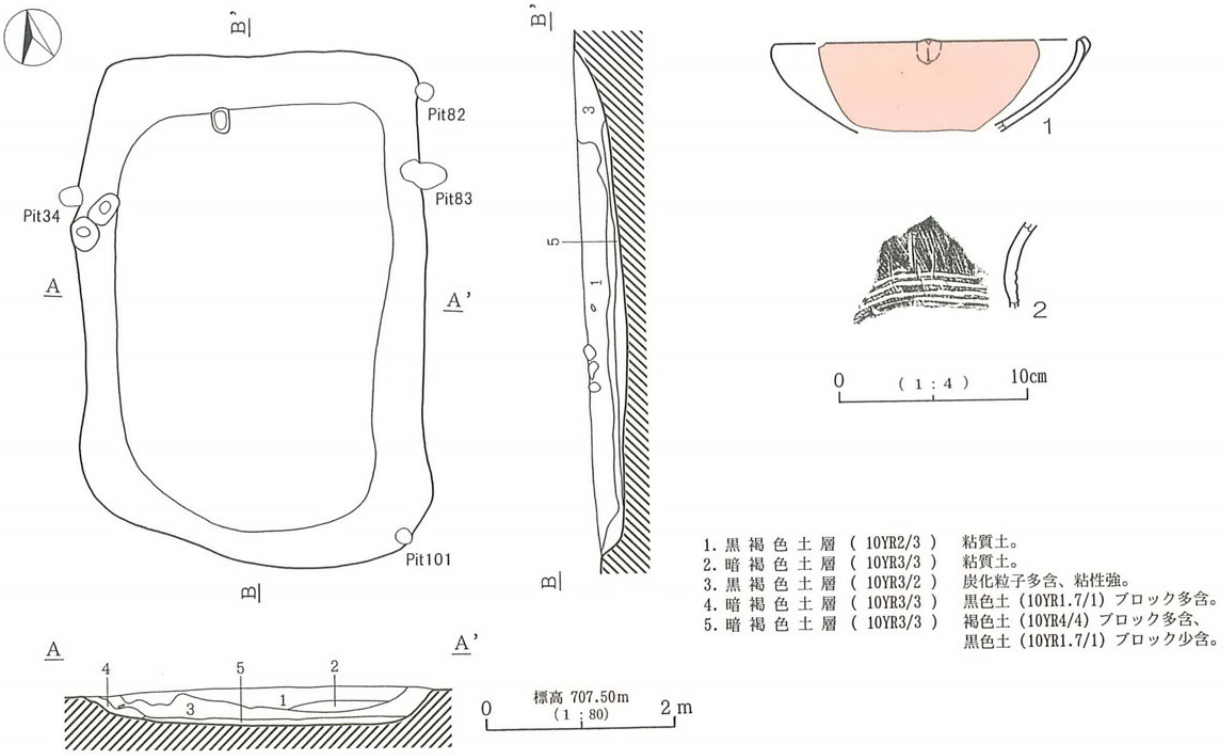
No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	至道元寶	2.4	－	－			3.0g
2	景祐元寶	2.4	－	－			3.5g
3	皇宋通寶	2.4	－	－			3.8g
4	元豊通寶	2.4	－	－			3.5g
5	元豊通寶	2.4	－	－			3.5g
6	元豊通寶	2.4	－	－			3.8g
7	政和通寶	2.4	－	－			3.5g
8	壺	－	－	〈8.0〉	赤色塗彩、箆描横線文・刺突文	ナデ	
9	甕	(18.2)	－	〈8.4〉	口縁部櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
10	甕	(19.8)	－	〈5.1〉	櫛描波状文、櫛描簾状文	ヘラミガキ	
11	甕	(16.8)	－	〈8.1〉	櫛描簾状文	ヘラミガキ	
12	台付甕	－	(8.2)	〈5.3〉	ナデ	ナデ	
13	蓋	3.9	－	〈3.1〉	ナデ	ナデ	
14	擦石・敲石	10.5	10.3	6.6			1,020g
15	擦石・敲石	11.3	6.7	5.2			585g
16	擦石・敲石	12.5	11.2	5.3			980g

Ta３号竪穴状遺構（第74図、図版37）

本址は直路遺跡Ⅱ、Ａ地区北東端部、Ⅵ－Ｂ－う－７グリッドに位置する。他遺構との重複関係はない。南北1.6m、東西3.4mの東西に長い隅丸長方形を呈し、長軸方位Ｎ－88°－Ｗとほぼ東西方向を示す。床面積は4.8m²を測る。壁残高は52～87cmを計測し、南壁東側にテラス状の張り出しを有する。幅1.5mで床面からの高さは約10cmを測る。覆土は１層が主体を占め、２層は壁付近と床面を覆っている。

ピットは検出されなかった。

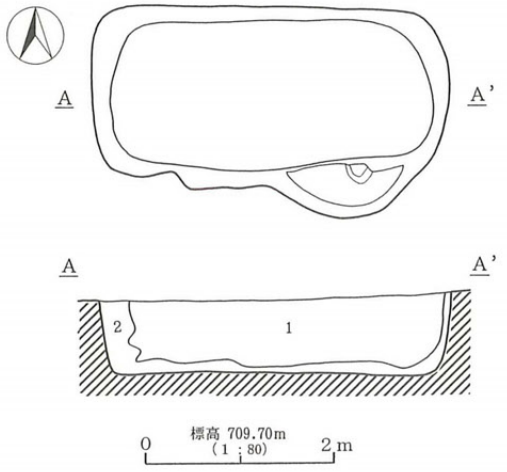
遺物は弥生土器が出土しているが混入遺物であり図示できたものはない。



第73図　Ta２号竪穴状遺構

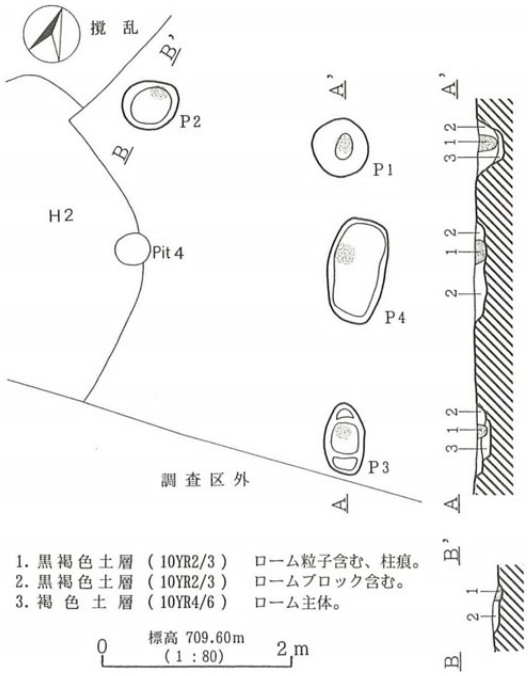
第37表　Ta２号竪穴状遺構出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	鉢	(16.2)	－	〈4.8〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁端部突起



1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
　にぶい橙色土 (7.5YR6/4) ブロック多含、しまりあり。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
　炭化物少含、堅くしまる。

第74図　Ta３号竪穴状遺構



1. 黒褐色土層 (10YR2/3)　ローム粒子含む、柱痕。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)　ロームブロック含む。
3. 褐 色 土 層 (10YR4/6)　ローム主体。

第75図　Ｆ１号掘立柱建物址

第３節　掘立柱建物址

Ｆ１号掘立柱建物址（第75図）

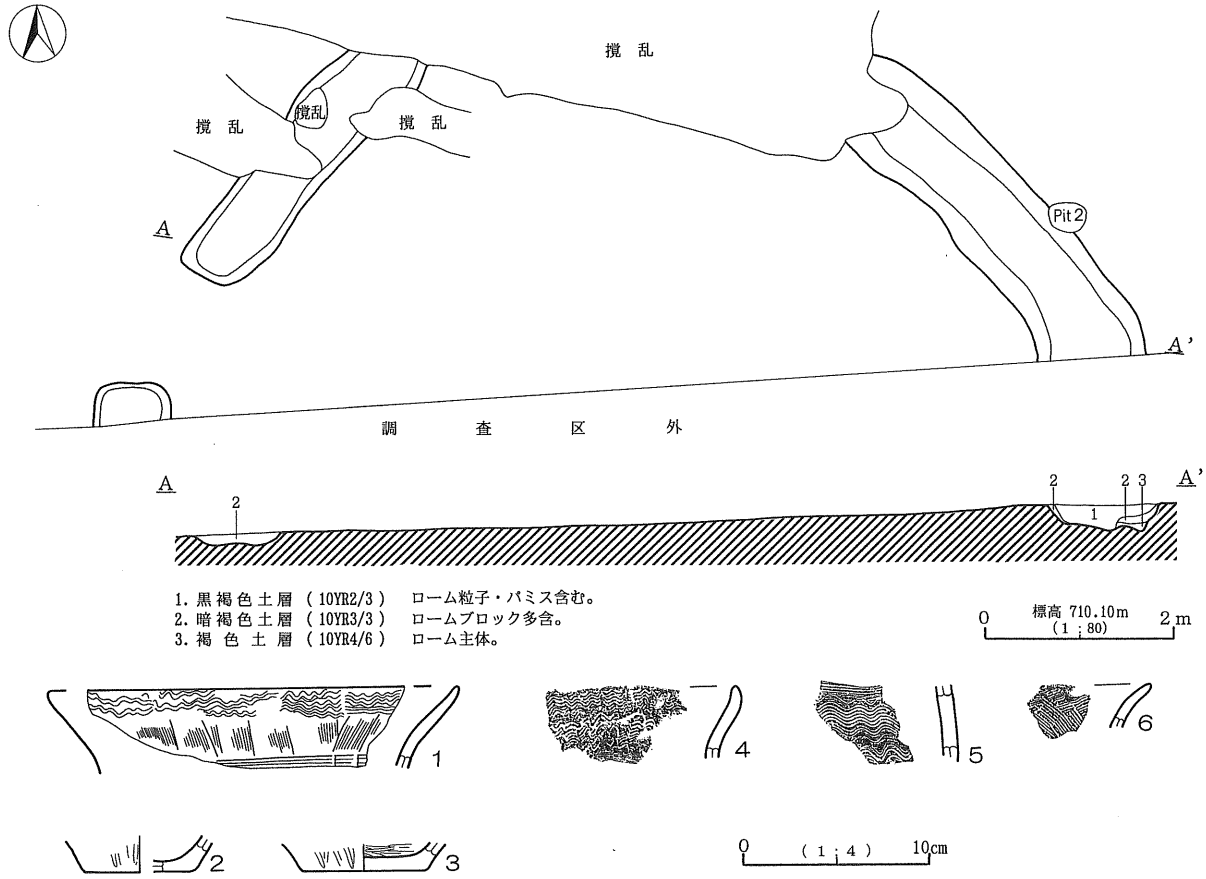
本址は直路遺跡Ⅲ調査区南西部、Ⅵ－Ｒ－う－７グリッドに位置する。西側は撹乱による破壊を受けており、南側は調査区外のため未調査である。東西１間・南北２間の４基について調査を行ったのみであるため規模等は不明である。柱間はＰ１・Ｐ２間2.0m、Ｐ３・Ｐ４間1.88m、Ｐ４・Ｐ１間1.14mを測り、柱穴は円形あるいは楕円形で７～20cmの深さを有し、径14～24cmの柱痕が確認された。

出土遺物はない。

第４節　周溝址

ＳＭ１号周溝址（第76図、図版43）

本址は直路遺跡Ⅲ調査区南側中央、Ⅵ－Ｑ－こ－７からⅥ－Ｒ－い－７にかけて検出された。Pit２に切られる他撹乱による破壊を受けている。また、南半部は調査区外であり未調査のため全体の規模・形状等は不明であるが、径10m前後の円形または方形を呈するものと思われる。溝幅74～116cm、深さ８～49cmを測り、北西部分1.2mを掘り残して開口部を設けている。覆土は３層からなり、底面は平坦である。主体部は確認されていないが周溝墓であろう。



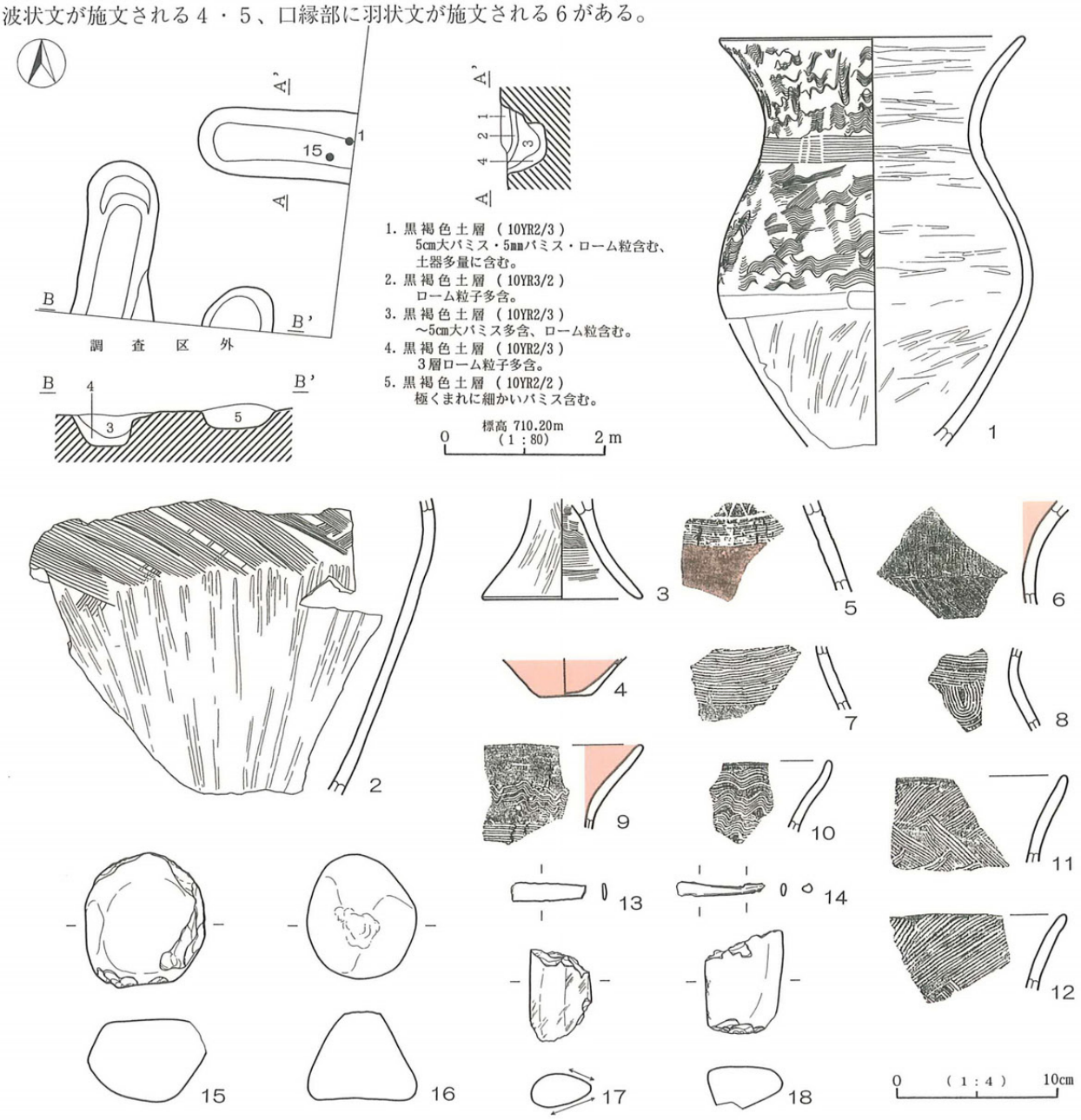
第76図　ＳＭ１号周溝址

第38表　ＳＭ１号周溝址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	(21.9)	－	〈4.3〉	口縁部櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
2	甕	－	(6.0)	〈1.6〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
3	甕	－	(6.6)	〈1.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	

遺物は弥生土器が出土しており、１～６の甕を図示したが全体の器形が知れるものはない。

１はわずかに受口気味に立ち上がる口縁部に波状文が１条巡り、頸部に簾状文が認められる。他に口縁部と胴部に波状文が施文される４・５、口縁部に羽状文が施文される６がある。



第77図　ＳＭ２号周溝址

第39表　ＳＭ２号周溝址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	19.2	－	〈25.5〉	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
2	甕	－	－	〈18.3〉	櫛描羽状文	ヘラミガキ	
3	台付甕	－	(10.0)	〈6.2〉	ヘラミガキ	ハケメ	
4	鉢	－	(3.4)	〈2.3〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
13	刀子	4.7	1.2	0.2	両端欠損		6.1 g
14	刀子	5.4	0.8	0.6	両端欠損		6.2 g
15	擦石・敲石	8.4	7.5	5.2			520 g
16	擦石・敲石	7.8	6.8	5.5			390 g
17	擦石・敲石	5.7	3.9	2.1			58 g
18	擦石・敲石	6.3	4.9	3.0			93.4 g

ＳＭ２号周溝址（第77図、図版43・51）

本址は直路遺跡Ⅲ調査区南東端部、Ⅵ－Ｑ－く－７グリッドから検出された。他遺構との重複関係はないものの、東・南側が調査区外に延びているため全体の規模・形状等は不明である。また、溝による区画内から検出された落ち込みも別遺構の可能性がある。溝址はともに２ｍが検出され、北西部分を掘り残して幅70cmの開口部を設けている。深さは北溝が41～53cm、西溝が35～43cmを測り西溝は北端部にテラスを有する。覆土は４層からなり、底面は平坦である。限られた範囲での調査のため明確ではないが、方形区画の四隅または一箇所を掘り残した周溝墓の可能性も考えられる。

遺物は弥生土器・鉄製品・石器が出土しており、甕（１～３・９～12)、鉢（４)、壺（５～８)、刀子（13・14)、敲石（15～18）を図示した。

１は北溝東端部覆土上面から出土した甕で、口縁部から胴上半に櫛描波状文を施文した後頸部に簾状文が巡る、また、胴中位の波状文下にナデが施される。甕には他に羽状文の２・11・12があり、９は口縁部内面に赤色塗彩が行われる。台付甕は３の台部が１点出土している。

壺は全体の器形が知れるものはないが、頸部文様には簾状文の上に山形文がみられる５、箆描沈線＋斜走文の６、櫛描横線文の７の他に横線文下に「Ｕ」字状の文様がみられる８があり多様である。

刀子には刃部の13と茎部の14があり同一のものであろう。

第５節　土　坑

直路遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲからは総数で30基の土坑が検出された。以下、各遺跡毎に記載する。なお、各土坑の規模・形状等については土坑一覧表に記した。

直路遺跡Ⅰ（第78・79図、図版28・29・51）

直路遺跡Ⅰからは16基の土坑が検出された。これらはすべて住居址の検出された調査区の北半部に集中する。形状は円形または楕円形を呈するものが主体的であるが、Ｄ８・16号土坑にみられるように方形のものも存在する。

土坑内から出土した遺物は、Ｄ15号土坑から出土した小皿（11）を除いて本遺跡で調査された住居址から出土する遺物と同様なものであるが、全体の器形が知れるものはない。各土坑から出土した遺物は以下のとおりである。

Ｄ４号土坑からは赤色塗彩された高坏の坏部（１）の他に壺（13・14)、甕（15・16）が出土している。

Ｄ７号土坑からは比較的多くの遺物が出土しており、壺（２～４・18・19)、甕（５～９・17・20～22)、蓋（10）を図示した。壺には箆描による４条の平行沈線間に斜走文が綾杉状に充填され、頸部文様帯を除いて赤彩される２の他に同様な文様をもち無彩の18・19がある。５・６は波状文・簾状文が施文される甕であるが、５はわずかに内彎する口縁部に円形貼付文が付加される。他に羽状文の20・21がある。10は蓋の頂部で外面は赤彩され内面はヘラミガキ調整が行われる。

11はＤ15号土坑から出土した小皿であり、底部に回転糸切り痕が残る。

直路遺跡Ⅱ（第80・81図、図版38・39）

直路遺跡ⅡではＡ地区から３基（Ｄ26～28)、Ｂ地区から８基（Ｄ17・19～25)、Ｃ地区から１基（Ｄ18）の12基が検出され、形状は円形または楕円形を呈する。各地区における土坑の分布については、Ａ地区では調査区南端部中央、Ｍ４号溝址の両側に３基がまとまって検出され、Ｂ地区では調査区北側Ｍ２号溝址付近と調査区中央付近の２箇所に集まる傾向が指摘できる程度である。Ｃ地区ではＤ18号土坑が検出されたのみであるが、直路遺跡Ⅰで調査された土坑と同じまとまりに入るものと思われる。このうち井戸址であるＤ17号土坑を除いて性格は不明である。

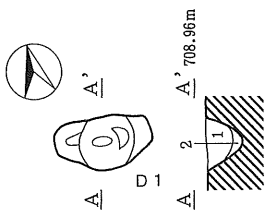
Ｄ17号土坑はＢ地区中央、Ⅺ－Ｃ－か－４グリッドから検出され、他遺構との重複関係はない。南北3.44ｍ、東西3.64ｍのほぼ円形プランの南東部分に長さ1.1ｍ、最大幅80cmのテラス状の張り出しを有する。確認面から１ｍ下で１ｍの方形に組まれた板材の木枠が確認された。木枠は１ｍまで掘り下げを行ったが底面は湧水のため不明である。木枠内には１層黒褐色土層が堆積し、上面縁辺には20～30cm大の礫が円形に並べられたように検出された。

本址からの出土遺物はない。

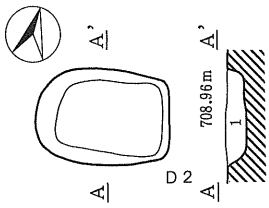
直路遺跡Ⅲ（第82図、図版42・51）

直路遺跡Ⅲからは調査区西側から隣接してＤ29・30号土坑の２基が検出され、いずれも楕円形を呈する。

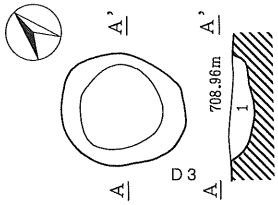
Ｄ29号土坑からは甕（１・２）が出土しており羽状文・波状文が施文される。３はＤ30号土坑から出土した安山岩製の台石であり、擦面には細い線状痕が認められる。



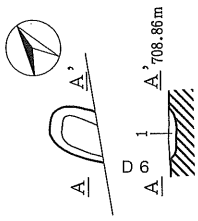
1. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3）
　軽石・炭化物含む、しまりなし。
2. にぶい黄褐色土層 （10YR4/3）
　ローム主体、暗褐色土含む、
　しまりなし。



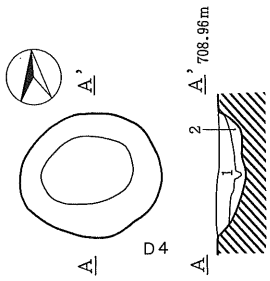
1. 暗褐色土層 （10YR3/4）
　ローム粒・ロームブロック含む、
　しまりなし。



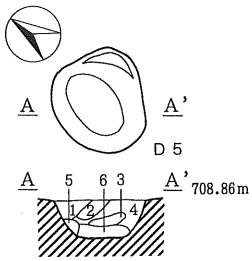
1. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒・ロームブロック・
　軽石含む、しまりなし。



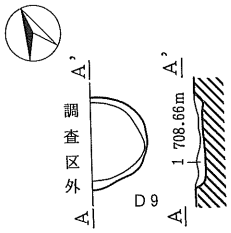
1. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒含む、粒子細かい。



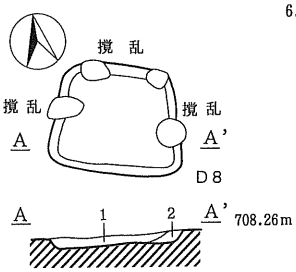
1. 暗褐色土層 （10YR3/4）
　ローム粒・軽石含む、しまりなし。
2. 褐 色 土 層 （10YR4/4）
　ローム主体、軽石・暗褐色土含む。



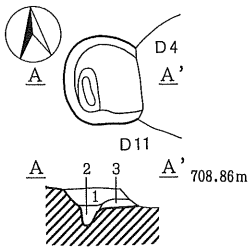
1. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒含む、しまりなし。
2. 暗褐色土層 （10YR3/4）
　ローム粒・ロームブロック少含、
　しまりなし。
3. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒・ロームブロック少含、
　しまりなし。
4. 褐 色 土 層 （10YR4/4）
　ローム粒・ロームブロック多含、
　しまりなし。
5. 褐 色 土 層 （10YR4/6）
　ロームブロック含む、しまりなし。
6. 褐 色 土 層 （10YR4/4）
　ローム・軽石多含、しまりなし。



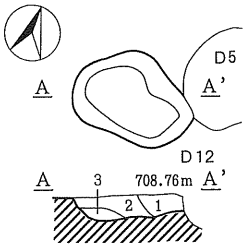
1. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒・ロームブロック・
　軽石含む、しまりなし。



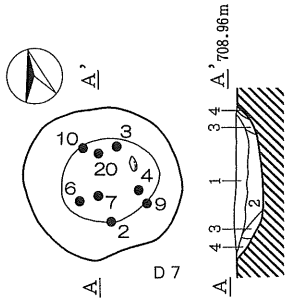
1. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3）
　ローム粒・軽石・ロームブロック
　含む、粒子細かい。
2. にぶい黄褐色土層 （10YR4/3）
　ローム主体、暗褐色土含む。



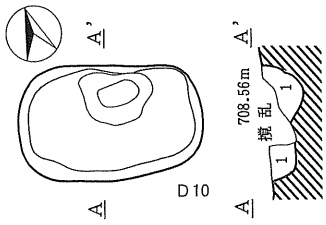
1. 黒 褐 色 土 層 （10YR2/3）
　軽石・炭化物含む、しまりなし。
2. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3）
　軽石・炭化物含む、しまりなし。
3. にぶい黄褐色土層 （10YR4/3）
　ローム主体、軽石含む、粒子粗い。



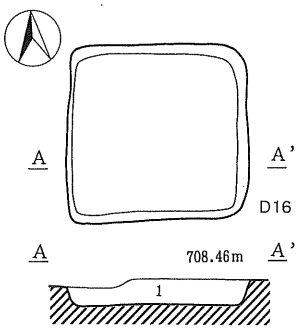
1. 黒 褐 色 土 層 （10YR2/3）
　ローム粒・軽石わずかに含む、
　しまりなし。
2. にぶい黄褐色土層 （10YR4/3）
　ローム粒・ロームブロック・
　軽石多含、しまりなし。
3. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3）
　ローム粒・ロームブロック含む。
　しまりなし。



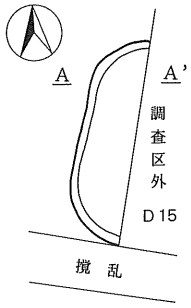
1. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒・軽石・炭化物含む、
　しまりなし。
2. 黒褐色土層 （10YR3/2）
　ローム粒・軽石・炭化物含む。
3. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒・軽石・炭化物含む。
4. 褐 色 土 層 （10YR4/4）
　ローム主体、軽石含む、
　しまりなし。

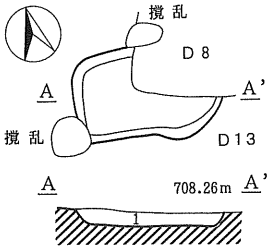


1. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒・ロームブロック・軽石含む、
　しまりなし。

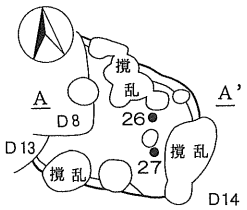


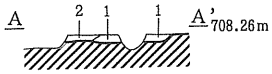
1. 暗褐色土層 （10YR3/4）
　ローム粒・炭化物含む。



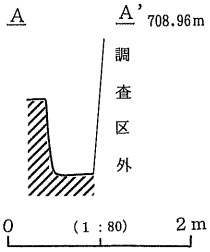


1. 暗褐色土層 （10YR3/4）
　ローム粒・ロームブロック・
　軽石多含、粒子やや粗い。

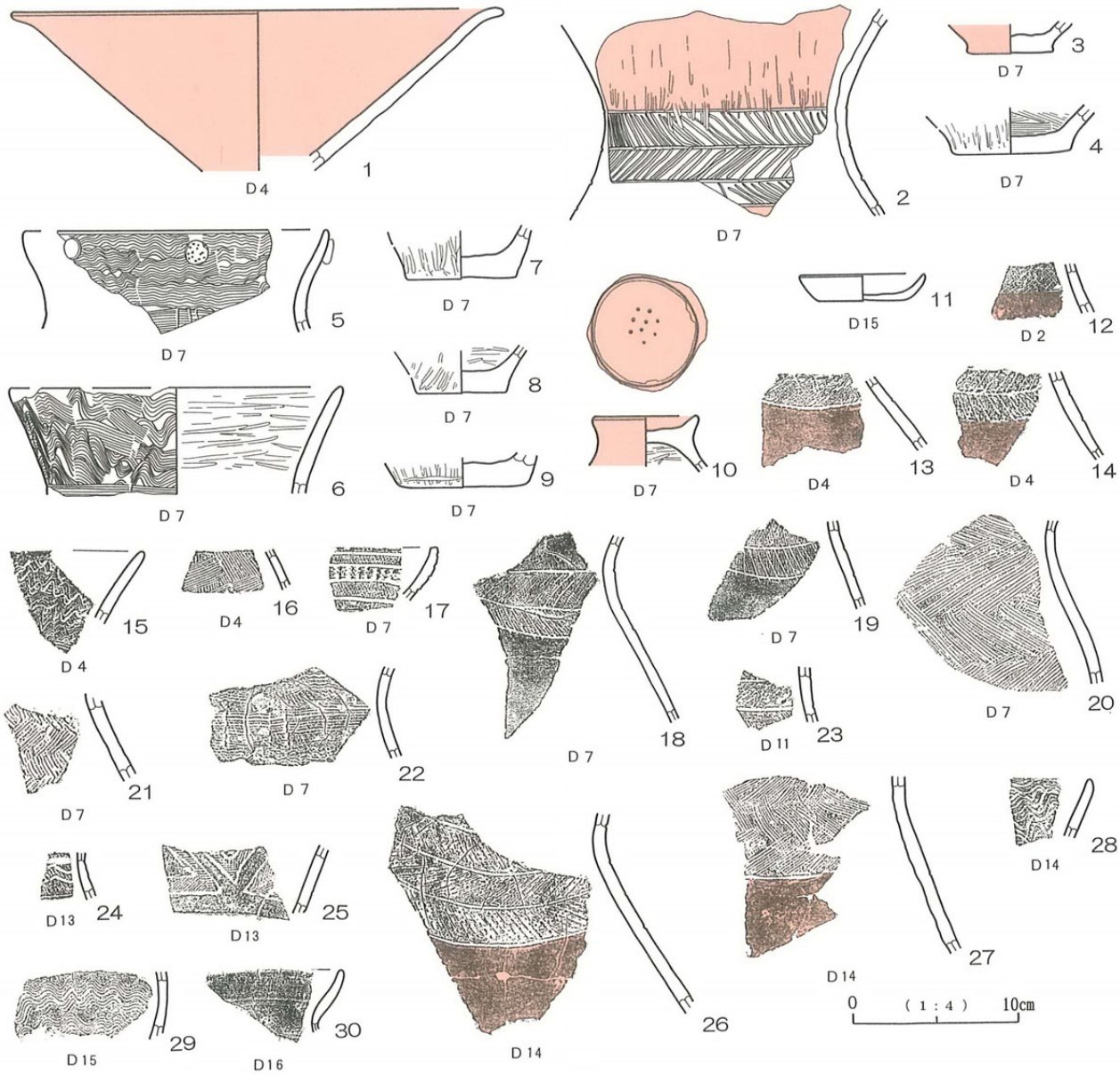




1. 褐 色 土 層 （10YR4/4）
　ローム主体、暗褐色土含む。
2. 暗褐色土層 （10YR3/3）
　ローム粒・軽石・炭化物含む。



第78図　D 1 ～16号土坑



第79図　D２・４・７・11・13～16号土坑出土遺物

第40表　D４・７・15号土坑出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	高坏	(29.4)	－	〈9.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	D４
2	壺	－	－	〈11.6〉	箆描横線文・羽状文、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	D７
3	壺	－	5.5	〈1.7〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	剥離	D７
4	壺	－	7.1	〈2.3〉	ヘラミガキ	ハケメ	D７
5	甕	(18.2)	－	〈5.8〉	櫛描波状文、櫛描簾状文、円形貼付文	ヘラミガキ	D７
6	甕	(19.8)	－	〈6.3〉	櫛描波状文、櫛描簾状文	ヘラミガキ	D７
7	甕	－	6.6	〈2.8〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	D７
8	甕	－	5.4	〈2.5〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	D７
9	甕	－	7.8	〈1.8〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	D７
10	蓋	6.4	－	〈3.0〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ	D７
11	小皿	7.6	5.4	1.6	ロクロナデ、底部回転糸切り・ケズリ	ロクロナデ	D15